

下着表袴と表袴の用布 袖口布 50 下着と上着裏表の袖口布 袴先布長さ 上着と下着の袴先用布 $5 \times 3 = 18$.

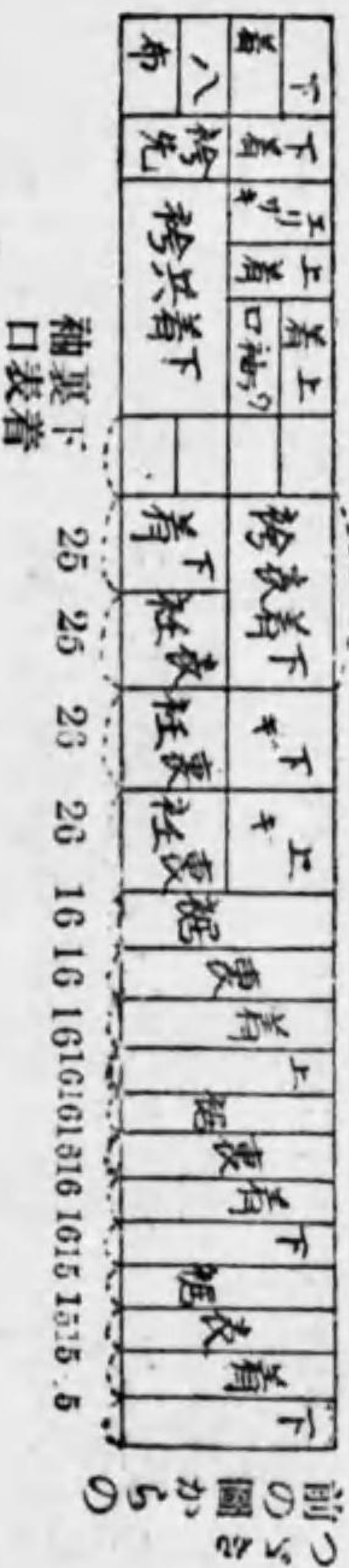
八つ布丈の定め方 袖丈 袖附 17. - 6. = 11. 縫代 八つ布の裁切 + 50 + 30

297. + 60. + 128. + 52. + 15. + 14. = 64. 総尺

裁ち方の圖



この図に續く次の



前の圖からの

裏の裁ち方

裁ち方の圖



積り方

袖丈 17. × 4 = 68. 上着八つ布 袖と八つ布の用布 68. + 14 = 82.
 胸裏の定め方 49. - 16 = 24. 出ワキの二倍 胸接ぎ代 胸裏の裁切 27 × 4 = 108
 裏袴丈の定め方 50. - 10. = 40. 表袴丈 袴先長さをその二倍 裏袴丈 40.
 袴先布丈の定め方 34.5 - 26 = 8.5 7キの二倍 胸接ぎ代 袴先布丈 11.5
 裏地の用布 82. + 108. + 40. + 11.5 = 241.5

尚、此の外に胸裏と同じ布を、半幅で真四角のもの一枚と、下着胸抜き布に用ひる布を、半幅で真四角のもの一枚を次の圖の様に裁つてロウチ布として胸接ぎをいたします時、上着の裏裾と下着の表裾とに縫ひ附けるのであります。

ヒウチ布

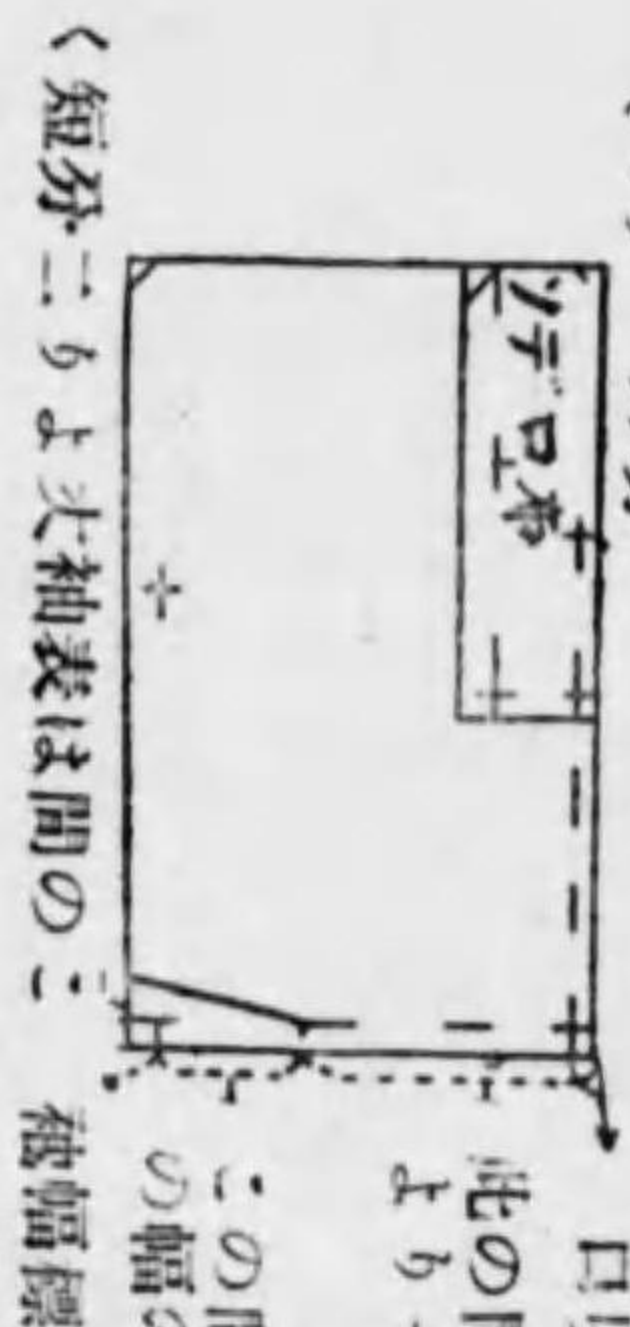


此の線を切つて二枚にいたします

○標の付け方

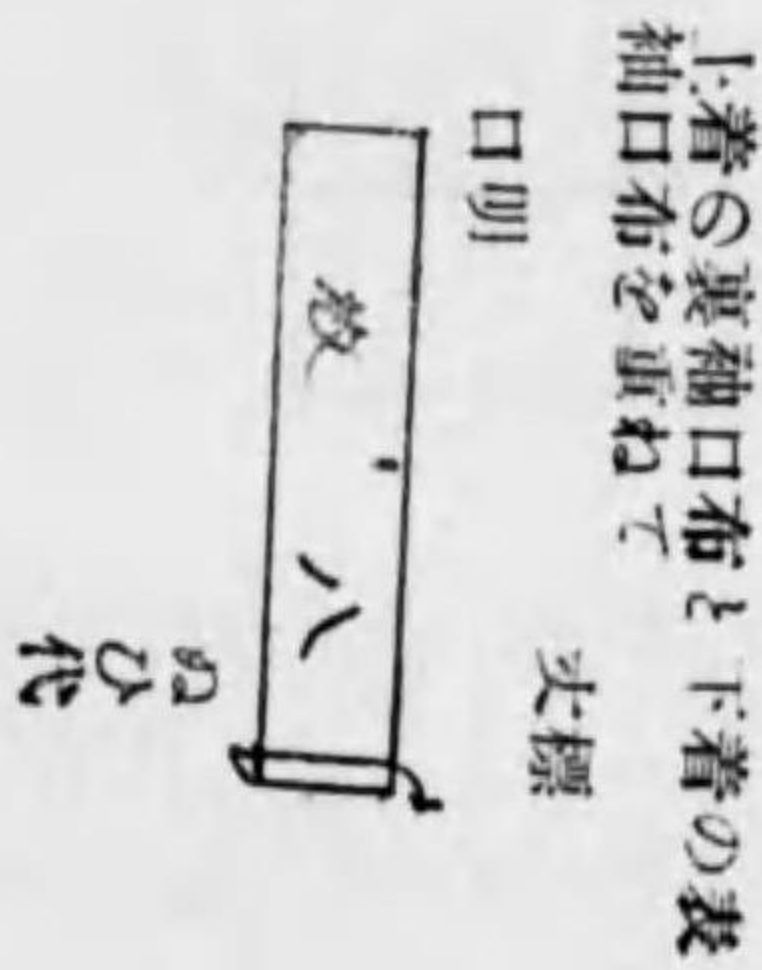
上着の表袖と襟は普通の着物と同じです。

(イ) 口明



短分二より大袖表は間の二倍幅標

(ロ)



上着の裏袖口布と下着の表袖口布を直ねて

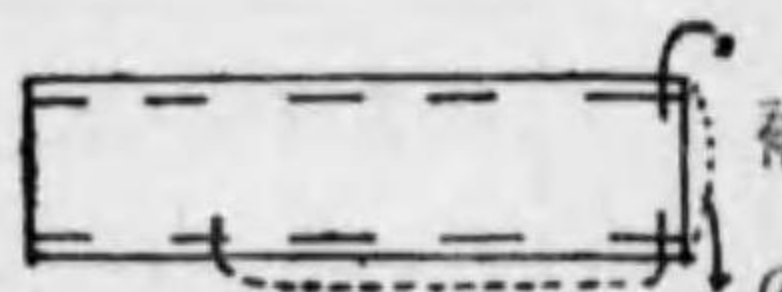
(ハ) 下着の表八つ布の標



この袖の長さの付は裏袖の長さより一分の斜めより

縫代 此の間が上り寸法

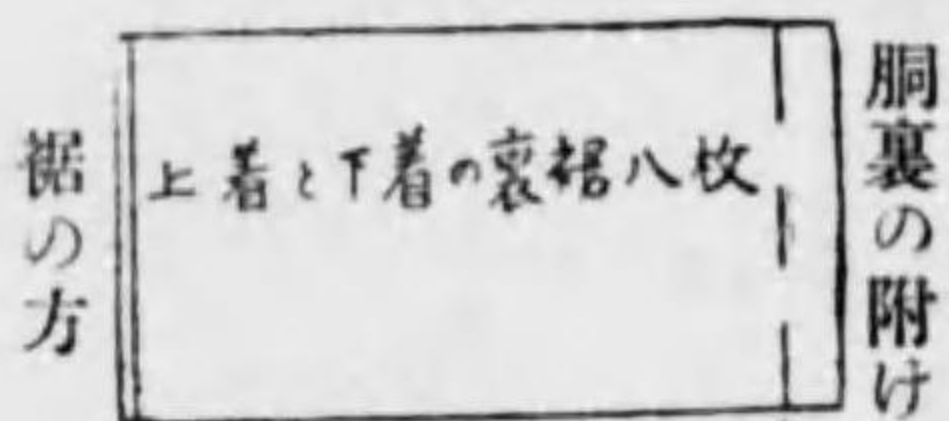
(ニ) 上着の裏八つ布の標



この間の長さは上着の袖の長さより一分の斜めより

縫代 上り寸法

(ヘ)



丈標は下着の表より二倍の長さの裾を切ります

胸裏の付け方

裾の方

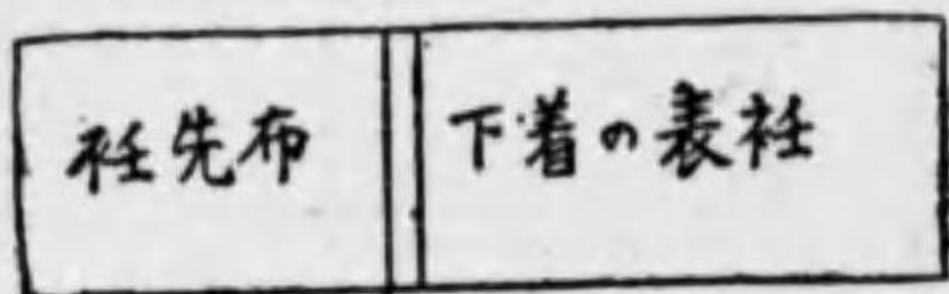
丈を切り揃へます

(ト) 胸裏



肩山 袖ハツク 下り 背縫ひ

(チ) 下着 衽

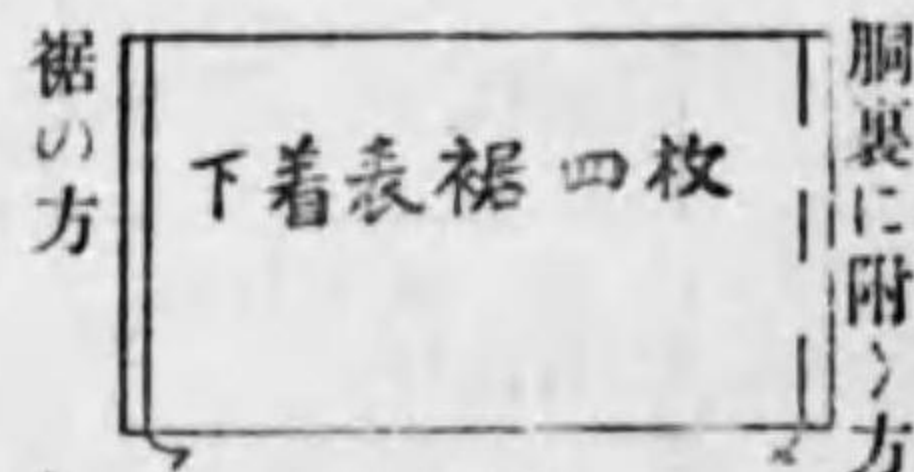


縫代 衽の付け方

衽先布

下着の表衽

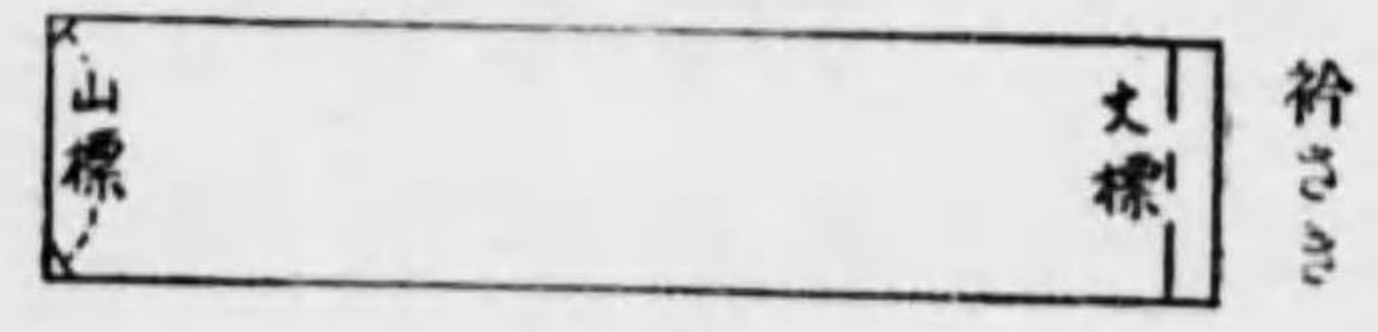
(ホ)



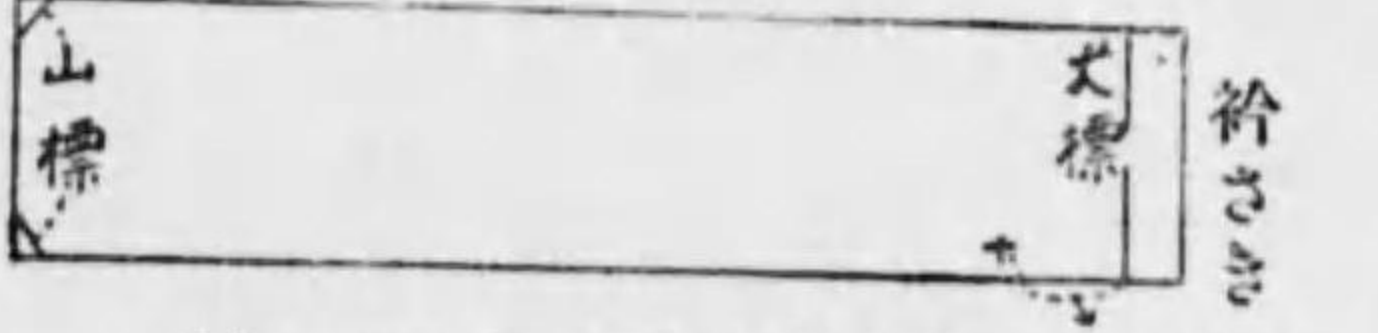
丈標 裾の方 丈を切り揃へます

胸裏に附く方

(フ) 上着の表衿

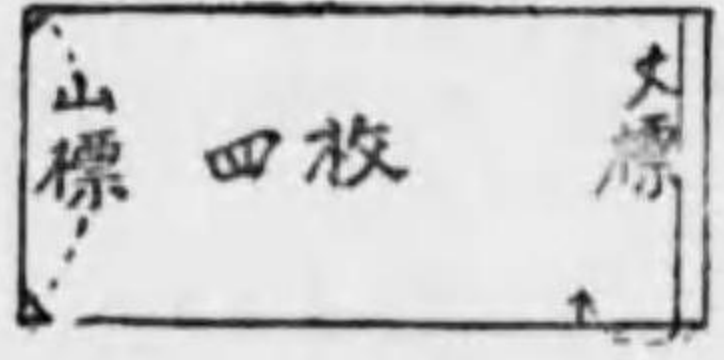


(ワ) 下着の表衿



幅のタチ目が衿に附く方
これは別附すの衿々け間をにま

(ヨ) 上着下着の裏衿



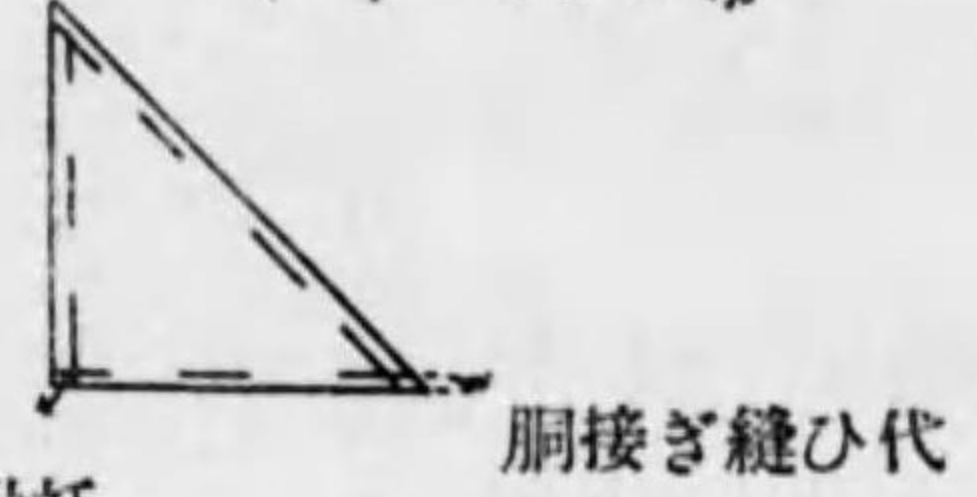
すに衿を附け別々

(カ) 上着下着の衿先布四枚



裏衿に附く方縫ひ代だけ取りま
五縫衿分ひ先の代の

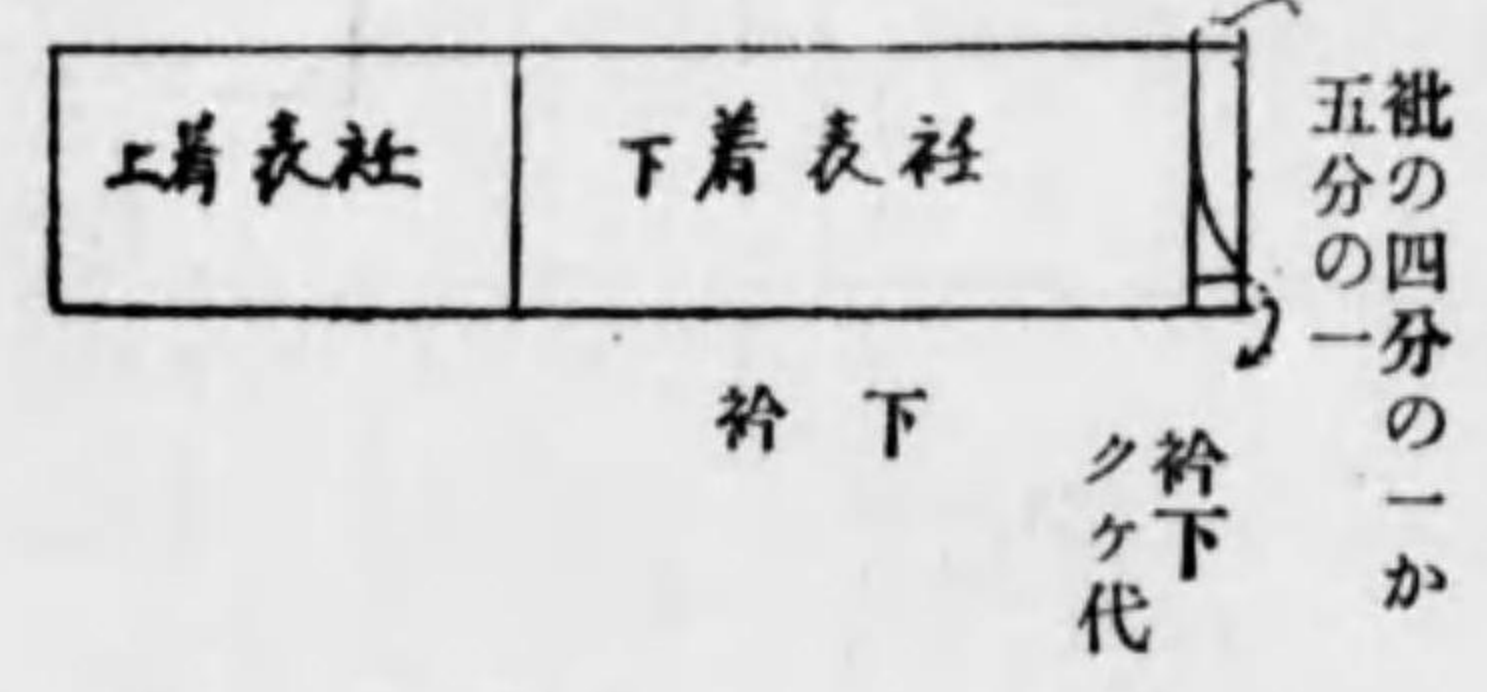
(タ) ヒウチ布



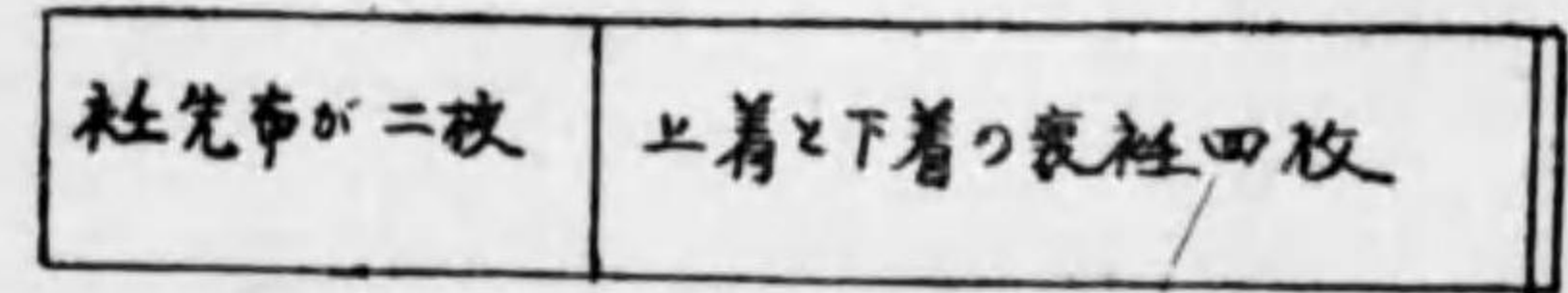
時附衿のけを標る

北
裏

(リ) 上着と下着の表衿に切り下げる標

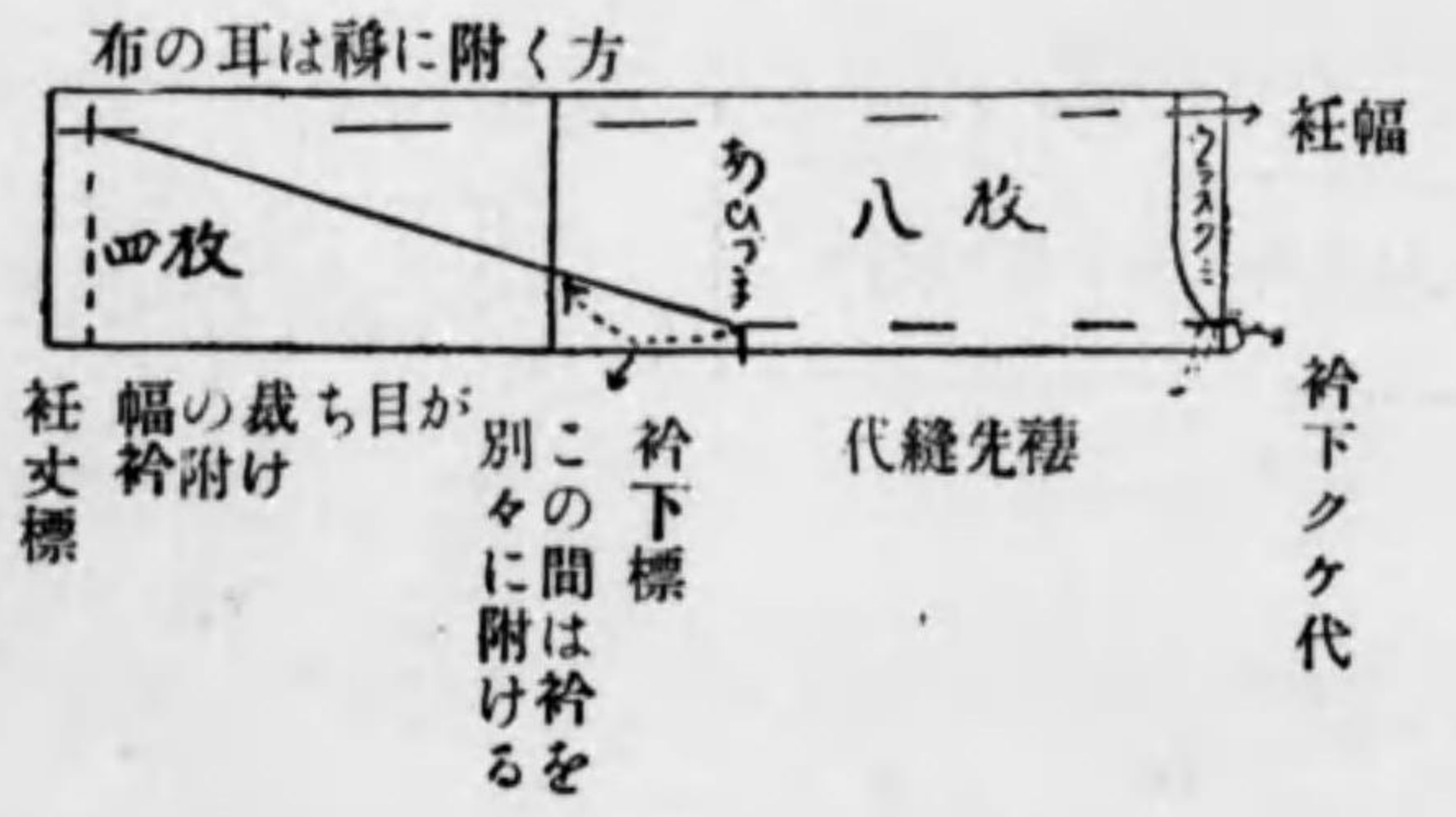


(ヌ) 下着の裏衿の上に上着の裏衿を圖の様に重ねます



丈を切り揃へます

(ル) 上着と下着の裏表の衿全部を重ねて



(ト)圖の丈標の附け方は肩山から先に、下着の表裾の長さだけ出してにおいて、そして表身丈と同じ長さにしておくのです。

○縫ひ方の順序(縮入本比翼)

上着の表袖と襟の背、脇、衿、衽などは普通の縮入の様に縫ひます。

次に裏袖に袖口布を付け、口明下の縫ひ代を四分として袖下は八つ布幅の所だけ、標の通りに斜にして、普通の縮入の様に縫ひましたら袖形に襷を取り、次に下着の表袖口布の口明の所を、布の端から端まで縫ひ代だけ裏に折りそして襷をかけ、次に上着の裏袖口布の奥の方で、丈の山に一分の襷を取つておき、この布の表の上に、下着の表袖口の表を重ねて、下着の表袖口布を口先で、上着裏袖口布より四五分入つた所と、下着口明縫ひ代の折り山を揃へ、奥になる方で丈の山標を合せ、奥の布と布丈の端から端まで縫ひ合せ、次にこの二枚の布を裏袖の裏で、袖口布の縫ひ附けてある所に裏袖の裏の上に、下着の表袖口布の裏を置いて次に、下着の表袖口布の表の上に、上着の裏袖口布の表をおき、下着と上着の裏表の袖口布を、裏袖の表に針目の出ない様に、裏袖と袖口布の間に針目を出して縫ひ附けましたら次に下着の表八つ布の袖下を、標通り斜めに縫ひまして次に、上着の裏八つ布と、下着の表八つ布の表と表を合せ、袖下の縫ひ目を揃へて待針を刺し、口先、つまり振にする方は、其まゝにしてにおいて、奥の方を袖下の縫ひ目の所で一針糸止にして布の端から端

まで標の通りに縫ひ、次に裏表の袖幅を、普通縮入の様に標を付け、そして振り八つを縫ふのです。が其の縫ひ方は、上着の表袖幅標と、上着の裏八つ布の口先の縫ひ代の標を合せ、袖下の縫ひ目を揃へて待針をし、普通の着物の様に、裏表の布の釣合を取つて、袖附標から標まで縫ひましてから裏八つ布の方に綿を當て、綴ぢ、引き返して表を出し、一束に襷をかけます。それから裏袖と下着の表八つ布とを合せて上着の様に振り八つを縫ひ、綿を綴ぢて表から襷をかけるのであります。

次に胸裏の背と脇を縫ひ、脇の縫ひ込みにクセを取つて前襟の縫ひ込みだけに縫ひ附けておいて次に、上着の裏裾廻布の背と脇を縫ひ次に下着の表裾廻布の背と脇を縫ひ、後幅は裾口で一分せまくし、胸接ぎの標の所では、上着と同じに標を附けて脇を縫ひ、前幅は裾口で二分上着よりせまくし胸接ぎの所では上着と同じに標を附け、次に下着の裏裾廻布は、表の様に背と脇を縫ひ、前幅の標をして、次に下着の裏表の裾口の所で、背と脇の縫ひ目を揃へて待針を刺し、裾口と合せて一分のキセを掛け、表裾の方に折り返して襷をかけておき、上着の裏裾廻布に、表に倣つて前幅標をし、それからヒウチ布の裏表の布を出し、布の表と表を合せ、斜に裁つた所を、布を伸ばさない様に縫ひ代一分に、胸接ぎ標から衿を附ける時の縫ひ代の標まで縫ひ合せておき、このヒウチ布を上着の裏裾廻布と、下着の表裾廻布とに縫ひ附けるのでありますが、其の縫ひ方は、上着の裏裾廻布の胸

接ぎ標の所で、前幅標と、裏ヒウチ布の衿を附ける標とを合せて待針を刺し胸接ぎの所を裏ヒウチ布幅のあるだけ縫ひ合せますがヒウチ布の奥の斜の所の縫ひ代に縫ひ附けずにおくのです。そして縫ひましたらヒウチ布の方に折り返して襷をかけ、次に下着の表裾廻布の胸接ぎ標の所で、表ヒウチ布の胸接ぎ標と裾廻布の前幅標と、ヒウチ布に衿を附ける時の縫ひ代の標とを揃へて待針をさし上着の裏裾布にヒウチ布を縫ひ附けた様に縫ひ合せ、裾口の方に折り返し、次に下着の表ヒウチ布の奥(斜)の所から脇縫ひに依つた所を表裾廻布の胸接ぎの縫ひ代を、衿の口明を四つ止めする時に後袖口下の縫ひ代を、斜に折り出した様に、縫ひ込みの端の引きつらない様に、斜に縫ひ代を折り出し、こゝとヒウチ布を縫ひ附けた所に襷をかけ、それから胸接ぎをするのであります。胸接ぎの仕方は、胸裏の布の裏を見て肩山を向ふに、胸接ぎ標の所を手前に持ち、胸裏布の表の上を下着の裏裾廻布の裏とを合せておいて四枚重ね、背と脇の縫ひ目と、胸接ぎの標と合せて待針を刺し、胸裏布の裏を見て、はじめは胸裏と下着の裏裾廻布とを合せて、前幅の端から縫ひ出し、ヒウチ布幅の終りの所までは、胸裏と下着の裾とを縫ひ合せ、ヒウチ布幅の終りで、裾廻布三枚と、胸裏一枚ヒウチ布の裏表で都合六枚に針を通して糸止めをし、其の糸で一方のヒウチ布の縫ひ附けてある所までは、胸裏一枚と裾廻布三枚で都合四枚で胸接ぎとし、背と脇の縫ひ目に一針糸止めして一

方のヒウチ布の所では、前の様に六枚共に糸止めをし、其の糸でヒウチ布の縫ひ附けてある所は、胸裏と下着の裏裾廻布とを合せて、前幅の終りまで胸接ぎして胸裏の方に折り返して襷をかけます。次に抱幅標を上着の表の様に附け、それから下着の裏裾と胸裏と二枚にし、其の他は四枚で襷をかけ返して襷をかけ、この布と下着の表衿とを合せて襷を上げ、針目を五分位にして、表に極く小針に一針づゝ出して隠し襷をかけ、次に下着の襟の裾口縫ひ目と衿の裾口縫ひ目とを合せて待針を刺し、上前は肩山を右に裾口山を左に持つて、表ヒウチ布丈の止りから下着の表衿を附けはじめ、裾口縫ひ目で一針止め、其の糸で下着の裏衿を、批山から表ヒウチ布丈の止りと同じ所まで縫ひ附けそれから上は附けずにおき、衿の方に折り返し、次に上着の裏衿を裾口から裏ヒウチ布丈の止りまで縫ひ附けて衿の方に折り返し、次に、上着の裏衿だけに衿を縫ひ附けた止りから上に、四つ縫ひをしますから、襟に縫ひ附ける時の縫ひ代を、縫ひ込みの端の引きつらない様、斜に折り出してクセを取つておきそれから裏衿の衿を、別々に附けた止りで六枚共に糸止めをいたします。その針の通し方は、上前は胸裏布の表を手前に、裾口を右に持つて最初下着の裏衿布の裏から針を通し、次に胸裏、次に表ヒウチ布、次に裏ヒウチ布、次に上着の表衿(これは縫ひ代を斜に折り出したま

次に下着の表衿に針を通して糸止めをし、其の糸で下着と上着の衿布丈のある所までは、四枚共縫ひ合せ、衿布丈の終りで一針止め、それから上は胴裏と下着の裏衿とを、衿下りの所まで縫ひ合せ、衿の方に折り返し、次に、裏衿と衿先布を縫ひ付け、折りは奥裏の方に返して襷を掛けます（但し残らず接ぎ合せます）次に衿を、別々に付ける標の所まで縫ひ付けるのでありますが其の縫ひ方は、下着の裏衿と裏衿とを揃へて衿下標から衿を別々に付ける標まで、上前も下前も縫ひ付け衿の方に折り返し、右の様にして下着表衿と上着の裏衿とを付け、上着の裏衿は、縫ひ付けた止りから上は、衿の様に衿と衿の縫ひ代を、縫ひ込みの端の引きつらない様に斜に縫ひ代を折り出し、クセを取つておいて、別々に衿を付けた止りで六枚共に糸止めをいたします。糸止めは、上前は胴裏の表を手前に、裾口を右に持ち、最初裏衿から針を通して、次に下着の裏衿、次に下着の表衿、次に上着の裏衿、次に上着の裏衿、終ひに下着の表衿に針を通して止め、その糸で一方の衿を別々に付けた止りまでは、胴裏一枚に下着の裏表と上着の裏衿とを、三枚共に縫ひ付け、一方の衿を別々に付けた所でも、前の様に六枚共に糸止めしましたら上着の裾口を普通の綿入の様に縫ひ合せ、そして襷を上げて隠し襷を襷の所だけに加え、外は表から襷をかけ、次に身八つ口を普通の綿入の様に縫ひ、綿を綴ちて表から一束に襷をかけ、それから袖を付けるのであります。袖は、普通の着物

の様に、衿の裏表で袖の裏表を挟み、六枚共に糸止めをいたします。糸止めの針の通し方は、最初は表衿、次は表袖、次は上着の裏八つ布、次は下着の表八つ布、次は下着の裏袖、終ひに裏衿と云ふ順に通して糸止めし、其の糸で表袖を普通に付け、一方の袖附止りをはじめの様に止め、次に裏袖の付け方は、袖を手前に身を向ふに持ち、袖幅に縫ひ込みのあります時は、縫ひ込みを折つて一分の縫ひ代にし、衿の縫ひ込みは開いて、付け初めと終りとは八つ布の裏表の布丈のある所までは縫ひ代を斜に折り出して四枚で縫ひ、其の外は袖と衿を縫ひ合せ、衿の方に折り返し、次に表衿下を縮け代だけ布の裏に折り、襷をかけますがこれは上着も下着もです。そして衿幅を表は三寸、裏は二寸九分に標を付けておいて次に綿を入れるのであります。

○綿の入れ方

上着は普通着物の様に入れ、下着は裾口綿だけを引いて入れておきます。

○縮け方

最初に下着の裏袖口布に、襷綿を普通に綴ちまして次に口明止りを四つ止めにして縮け、縮け終りの糸を切らずに口明止りから下表袖口に布丈のある所までは、布と布とを合せて縮けておき、次に上着の裏袖口布に襷綿を綴ち、次に普通の様に四つ止めにして縮け、その糸で口明止りから下裏袖

口布丈の終りまで、布と布とを合せて拵けておき、その糸で上着の裏袖口布と、下着の表袖口布丈の終りの所で、四枚共に一針糸止めをし、其の糸で口明下の縫ひ代を、裏表合せて堅綴ちをいたします。次に下着の裏衿の衿下に綿を入れ、拵け代だけ布の裏に折り、そして綿を綴ちるのあります。がその綴ち方は、衿下り止りから五分下つて、一針表に小針を出し、それから衿下止りで一針出し次に衿下の止りから五分上つて一針と都合三針、裏衿の表に出して綴ち、右の様に裏衿全部に綿を綴ちます。

次に衿先を普通の着物の様に四つ止めにして一分先を縫ひ、裏衿の方に折り返して、次に衿附の裏表の縫ひ目を合せて待針を刺し、此所に衿先の縫ひ込みを縫ひ附けながら、衿を裏表別々に附けた止りまで、縫ひ目を綴ち合せておきます。これは全部の衿先をするのです。次に胴裏に衿を三枚縫ひ附けた所の縫ひ目にキセを少しもかゝらない様に縫ひ目を扱き出しておき、胴裏の衿附縫ひ目と上着の表衿附の縫ひ目とを合せ、衿を別々に附けました所の間を、上着の裏衿布の表と、下着の表衿布の表の間に、針目の出ない様に衿を綴ち合せ、それから三つ衿に芯を入れて普通の着物の様に衿を拵けましたら掛け衿をかけます。(これは上着下着共) 次に衿綴ちを普通の着物の様に、上着と下着共にし、次に布綴ちつまり堅綴ちと、背と、脇は胴接ぎの所までし、衿は衿下止りから二三

寸上つた所までし、次に衿下を拵け終へて火熨斗をかけるのであります。地質に依つては、上着の表衿全體に、別布を芯に入れて下着の衿の厚さと揃ふ様にいたします。

○腹合せ帯

腹合せ帯は、又鯨帯とも申します。

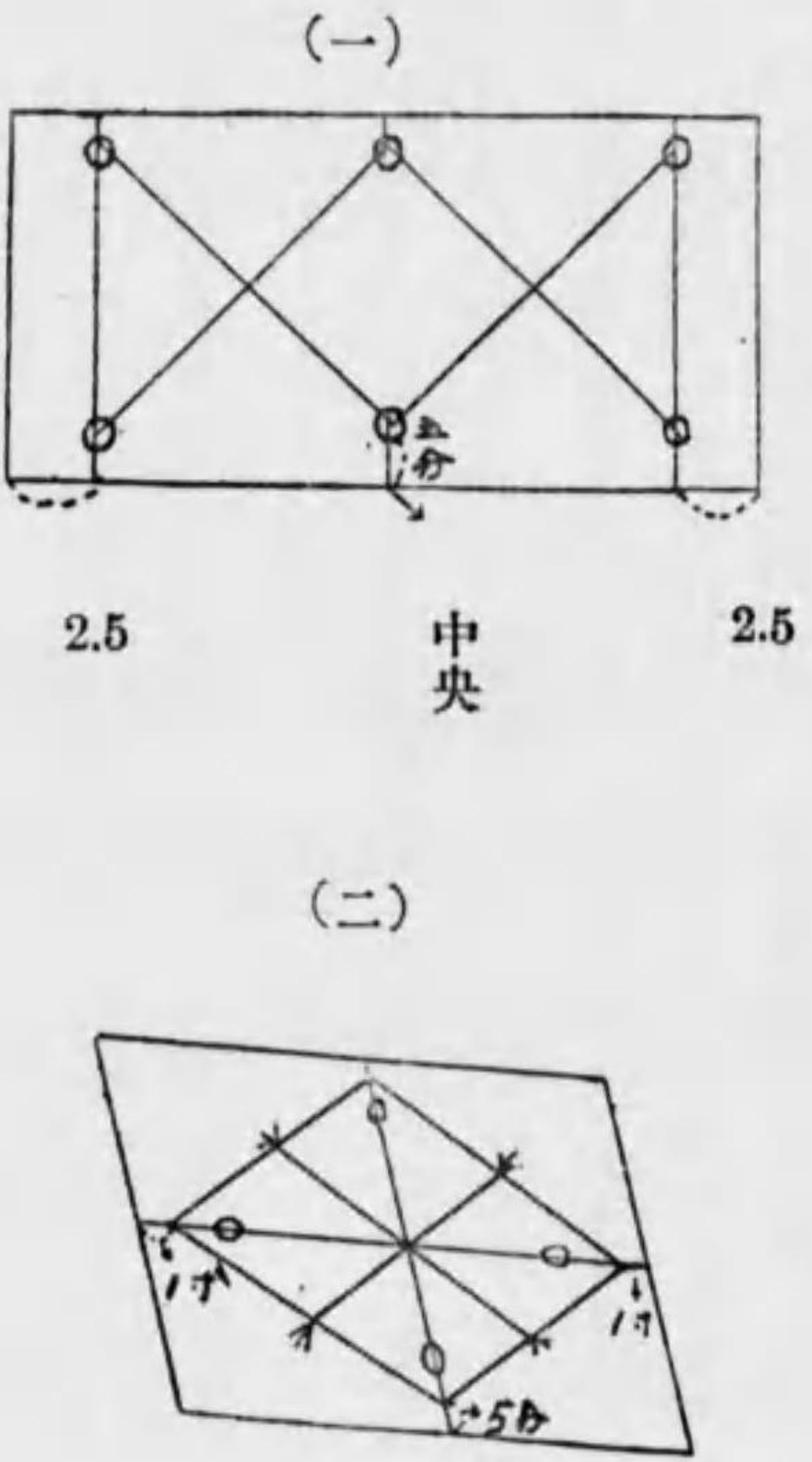
○縫ひ方

先、帯皮の品を假に博多、縞子としての普通仕立方はまづ、縞子の方に若し糊のあります時は、是を左右から引き伸ばしまして、それから真直に引いて糊を落しましたら裏から火熨斗をかけます。この時、縁を少し伸す様にして火熨斗をかけるのであります。今度は博多の方も同様に裏から火熨斗をかけ、縁を伸す様にしましたら表と表とを合せ、布を平にして下におき、幅の中央で丈をよく揃へ、幅も振れない様にして待針を一尺位づゝ間をおいて刺し、それから針目を一寸位にして其のまわりを残らず躰で綴ちましてから、帯幅の標を丈五寸位づゝおいて附け、其所に通し標をして、針目を普通に、はじめと終りは丈四寸五分の間返し針に縫ひ、其の外は普通の針目で端から端まで縫ひ、一方を帯丈の中央を一尺程残して縫ひ、次に、左右とも兩皮から平鍔を當て、次に丈の方に布目を真直に通して標を附けて、幅標から幅標まで返し針に縫ひ、兩皮から平鍔を當て、この

縫ひ目は、地質の厚い方に返し、角の所は、着物の袂の様に、四隅共縫ひ付け、そして芯を附けるのであります。

○芯の幅の定め方

芯の幅は、皮の幅より一分せまくして、皮の幅の中央と縁の所の厚さと同じになる様にすものから、皮と芯の地質に依つて定めます。ある時は芯を、一枚は皮の幅より一分せまくし、一枚は左右とも縫ひ代だけせまく裁つて先に芯と芯とを綴ち付けて、幅の廣い方に真綿を引き、帯皮の地の薄い方を下に、厚い方を上に出して、布を平にして下におき、その上に芯の綿の引いてある方をのせて、皮幅の中央で芯と皮を揃へて、芯の方を少し緩くして待針を刺しておき、芯を平にしてそのまわりを綴ち綴ち附けましてから芯のせまい方にも真綿を引き、一尺程残してあつた から手を入れて引き返し、表を出して双方の縫ひ目を正しくしキセのかゝらない様にし、針目を四分位にして襷をかけ、それから縫ひ残した所を針目細かに新けるのであります。そしてそれを次の圖の様に綴ちて壓をいたします。



○上仕立ての場合

若し地質の寄るものでありましたら、半紙を幅五分位に切りましてやはらかに揉んで皺を伸して、縫ひます所に當て、羽二重系か、絹糸を二つに割つて、全部返し縫ひにし、縫ひ目を割つて、兩端の縫ひ目は、地の厚い方に返し、角の所は普通仕立の様に折り、丈の縫ひ代は、幅の縫ひ目の所に返し針に縫ひ附けましてその縫ひ目の所から丈と幅の縫ひ込みを、二枚共切り取り、あとの二枚の縫ひ込みは、左右に開いて其の中一枚だけを、丈の縫ひ代に返し針に縫ひ附けるのであります。

○芯幅の定め方

帯幅より五厘せまくだしますが、二枚芯の時は、一枚は五厘せまくだち、一枚は帯幅より縫ひ代だけせまくだち、芯幅の中央と中央とを揃へて襷で綴ち合せておき、綿をはじめに引きます時は、芯幅の広い方に引き、芯を皮に綴ち附けましてから芯幅のせまい方に綿を引いて普通仕立ての様にするのであります。

○丸帯

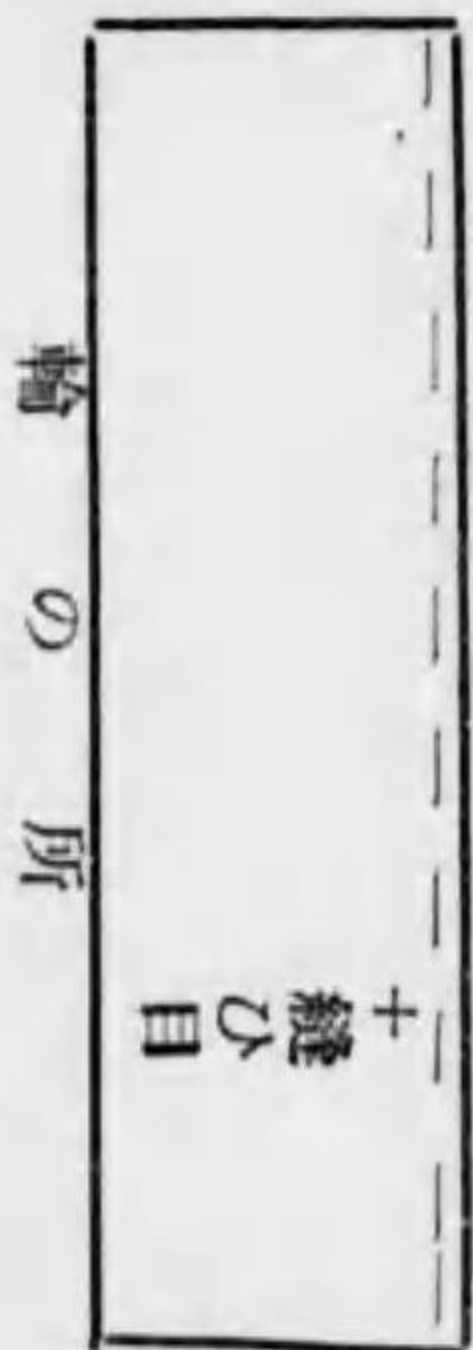
○仕立方

先づ品物の伸縮みを直しましてから、布の耳を左右とも少し伸ばし、両端に織り出しのあります時は、此の織り出しの曲らない様に、是も真直に直しましたら布を中表にして、幅を二つに折り、両端の織り出しをよく揃へて少しでも織り出しの幅の揃はない時は、一方を伸して必ず正しく揃へましたら、幅も丈も揃へて丈一尺位づゝ開を置いて待針を刺し、それから耳の方を二枚共に襷で綴ち次に丈を五寸位づゝおいて幅標なし、羽二重糸か又は羽二重糸を二本捻り合せたもので、針を一分先に出しては五厘後へ返して糸を強く引き、帯の中央は一尺程残しておいて縫ひましたら、縫ひました糸の所を、両方から布を引きながら平鍔を掛けて、縫ひました所の引きつらない様に伸ばし、

それから襷を取つて割鍔をかけ、次に両端を幅標の所まで返し縫ひにして、両方から鍔をかけます但し此所の縫ひ代は、片返しにしておくのであります。次に左右の角は、横を先に折つて、はじめに幅標の所を縫ひました糸の所に、二枚とも縫ひ付けます。(返し針で)それから上の方の縫ひ込みを二枚角の所だけ切り取りましたら、幅の方の縫ひ込みの一枚を折り返して、横の縫ひ込みに綴ちましたら次に芯を入れるのであります。

(イ)

(ロ)

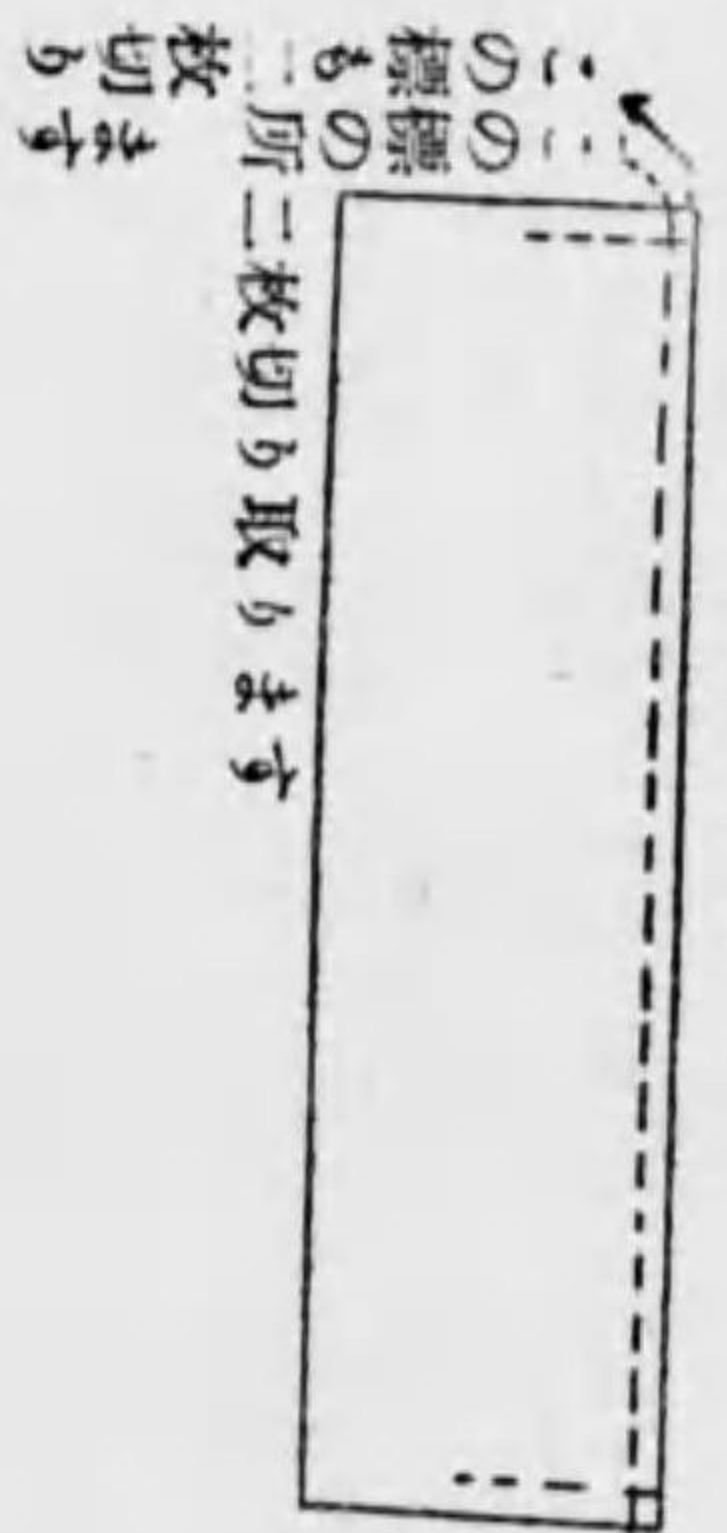


縫ひ目

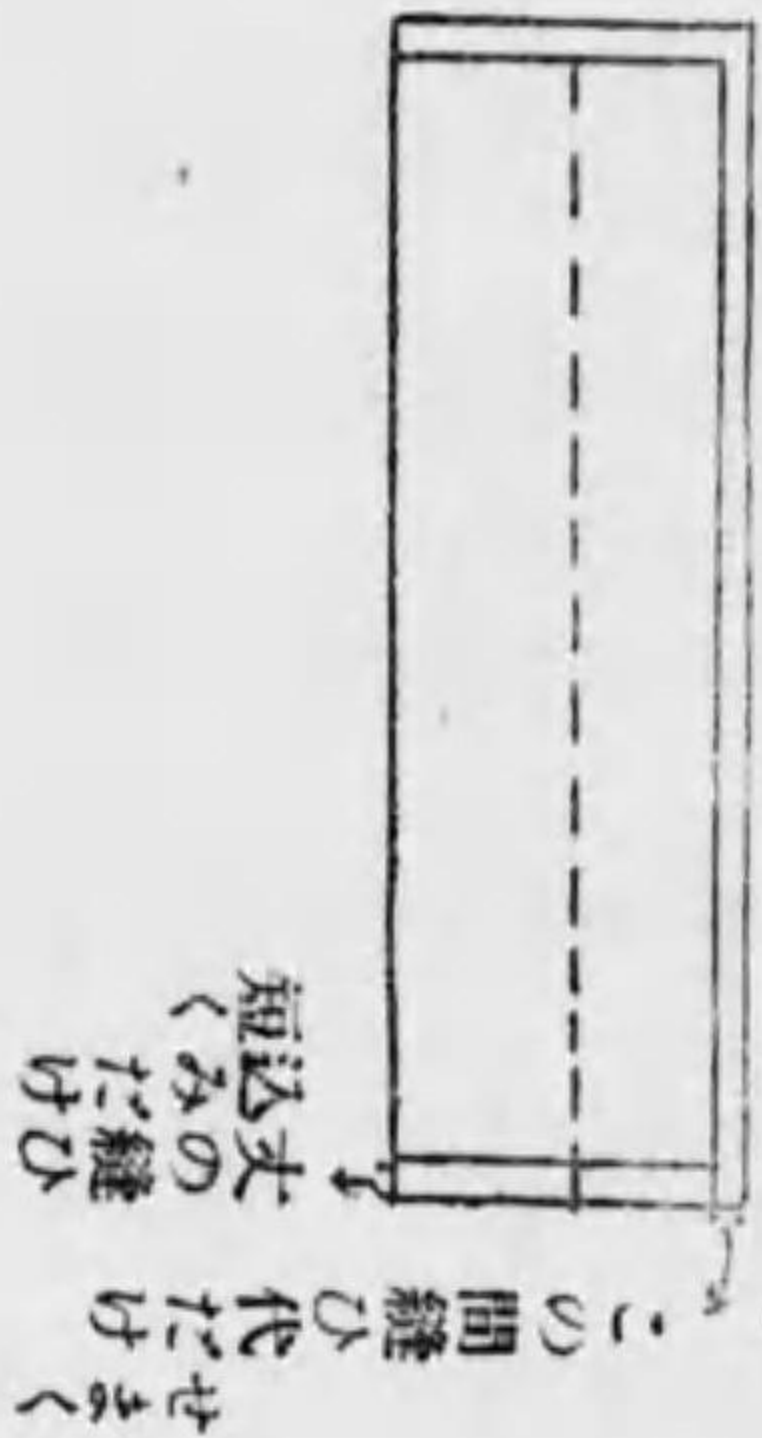
目ひ縫

(イロ) 圖は縫ひ方の順序であります。

(一) 角の縫ひ方



(二)



○芯幅の定め方

二枚芯の時は、一枚は帯幅よりも五厘せまくして裁ち、一枚は縫ひ込みを左右に開いた端、つまり縫ひ代だけせまくして裁ち、(ニ)圖の様に、芯と芯とを針目一寸位にして幅の中央を綴ぢ、次に芯幅の廣い方へ眞綿を釣らない様に引きましてから、帯皮を平に下において其の上の芯に綿を引いた方をのみ、幅の中央で芯と皮を揃へ、芯の方を少し緩くして、丈一尺づゝ間をおいて待針を刺し、それから帯皮の縫ひ込み一枚に、芯幅の廣い方を綴ぢ附けましたら、芯の幅の狭い方にも綿を引いてそれからはじめ一尺程縫ひ残した所から手を入れ、引き返して表を出したら布を平にして四方の隅がよく出る様に、遠くから針でよく角を引き出し、キセのかゝらない様にし、針目を四分か五分

位にして襷をかけます。一尺縫ひ残した所は、帯皮と帯皮の間に芯をはさんで襷をかけます。そして縫ひ残しを締めるのであります。

○縮け方

幅標の極く口元で、針目をごく細かに一針抜きにして締め、糸をよく引いて、締めました所と見分の附かない様にし、それから丈を七つ位に折つて腹合帯の様に綴ぢたら壓をいたします。

尙、丸帯の幅は、普通出来上り八寸七分であります。又仕立ます時に、地質が薄いために糸を引きます時、地が寄ります様な場合は、半紙を幅四五分位に切つてやわらかに揉み、皺を伸ばしてそれを兩方に當てゝ綴ぢ、其の上に標をして縫ふのであります。こうすれば地の寄る様な事はありませ

ん。亦、芯の幅は別にいつも五厘せまくするものと定まつては居りません。地の厚い物の時は五厘せま

○男 帯

○仕立方

最初に、品物に火熨斗を裏からかけて伸縮を直し、左右の耳の所は、中よりも少し伸ばす様にいた

しますが、火熨斗で伸びませぬ時は、一方は縮け臺で引き、一方は左の手で引いてゐて鍔をあて、左右の伸び方を同じにしておくのであります。

それから布の表を中にして、布幅の中央によく折りを附けますが、折りを附けます時は、布の緩まない様に縮け臺と左の手とで引いてゐて眞直に折りを附けるのであります。そしてこの折の附け方は、どれも皆同じであります。次に丈を五寸位づゝ間をおいて幅標をいたしましてから、幅標の所を爪で扱いておいて、布をゆがまない様に引いてゐて、左右の端に折を附け、そこに鍔を當て、よく折を附けましたら、帯芯の幅を定めるのでありますが、これは、帯皮と芯の布の厚さに依つて違ひますから一様には申されませんが、耳の所の厚さと、帯幅の中央の厚さとが同じになればよいとすのです。それで、帯皮の地質が薄く、芯布の厚い時には、芯の幅を帯皮の幅より五厘程せまくして仕立てますし、又一方は縫代だけ芯をせまくして、一方は幅標の所までにする時もあります。

又は、双方の地質に依つて、左右共縫ひ代だけせまくする時もあります。とにかく其の用布に依つて種々の仕方があるのです。芯の幅が定まりましたならば、芯の片皮の方に眞綿を薄く引き、それから帯皮を下において平にして其の上に芯の眞綿の引いてある方をのせ双方共、幅の中央の所で芯を少し緩くし、一尺位づゝ間をおいて待針を刺し、そして、縫ひ糸を二つに割るか、又は羽二重糸

で、帯皮から一寸位入つた所で、表に糸の出ない様に、帯皮の中央からはじめて一方の端を綴ち、次に兩端を幅標の所まで、布目を眞直に通して、返し縫ひにし、兩皮から平鍔をあてましてから、引き返して表を出します。

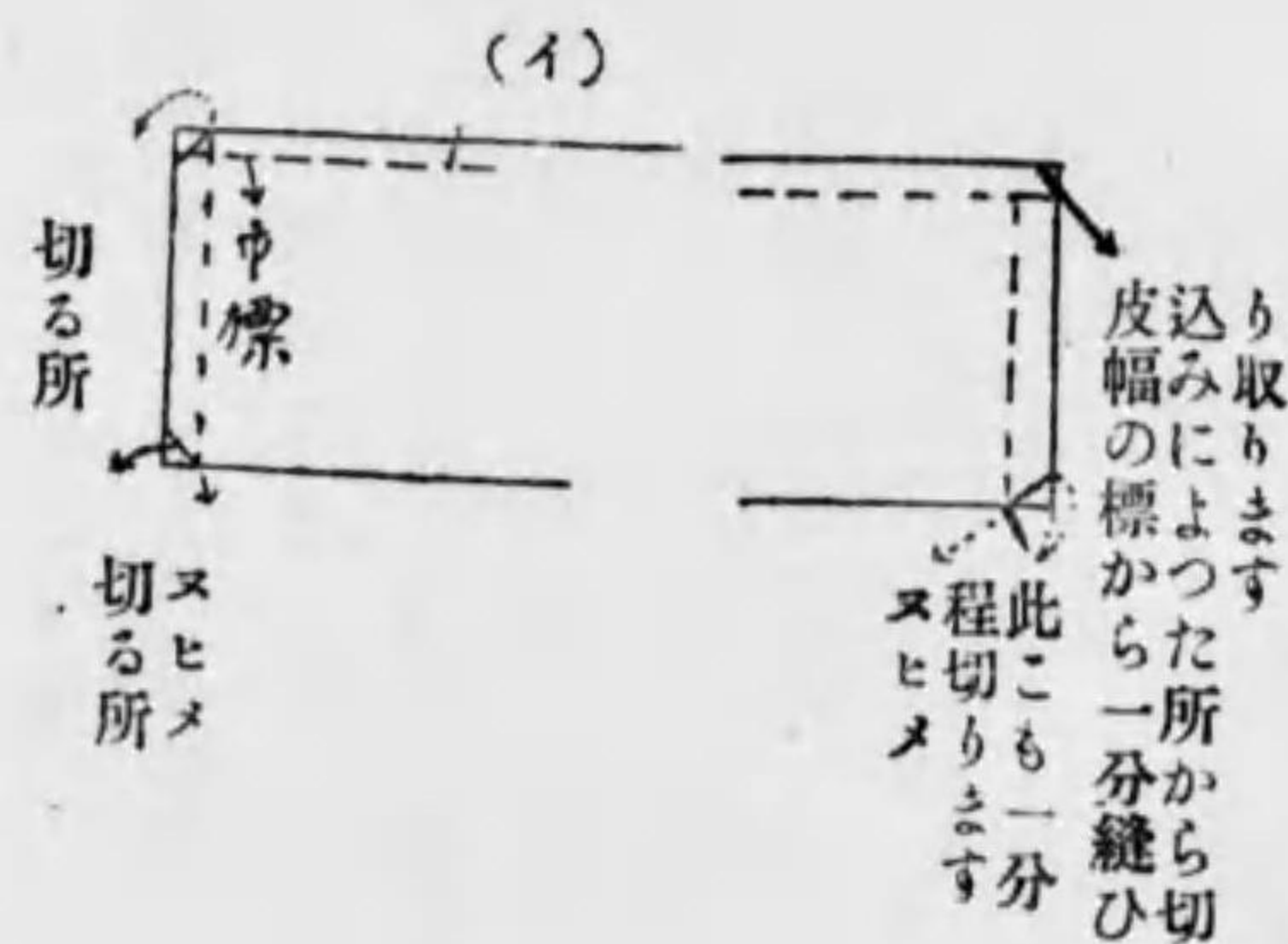
(但し、兩端の所も、芯の方は幅の方でせまくしましたと同じに、芯の丈を引くのであります。そして引き返す前に、幅の輪になつてゐる所で、幅一分位丈の縫ひ込みの所を斜に切り取り、一方は縮ける方も、次の(イ)圖の様に斜に取るのであります)

次に布幅の振れない様にして、丈五寸位づゝ間をおいて待針を刺しておき、若し、一方が伸び過ぎました時は、それと同じに一方も鍔で伸ばしてから、極く口元で、針目を極く細かにして、普通の縮け物の様に、斜に針を出さない様に必ず針を眞直に出し、布がゆがまない様に引いておいて糸を引くのであります。

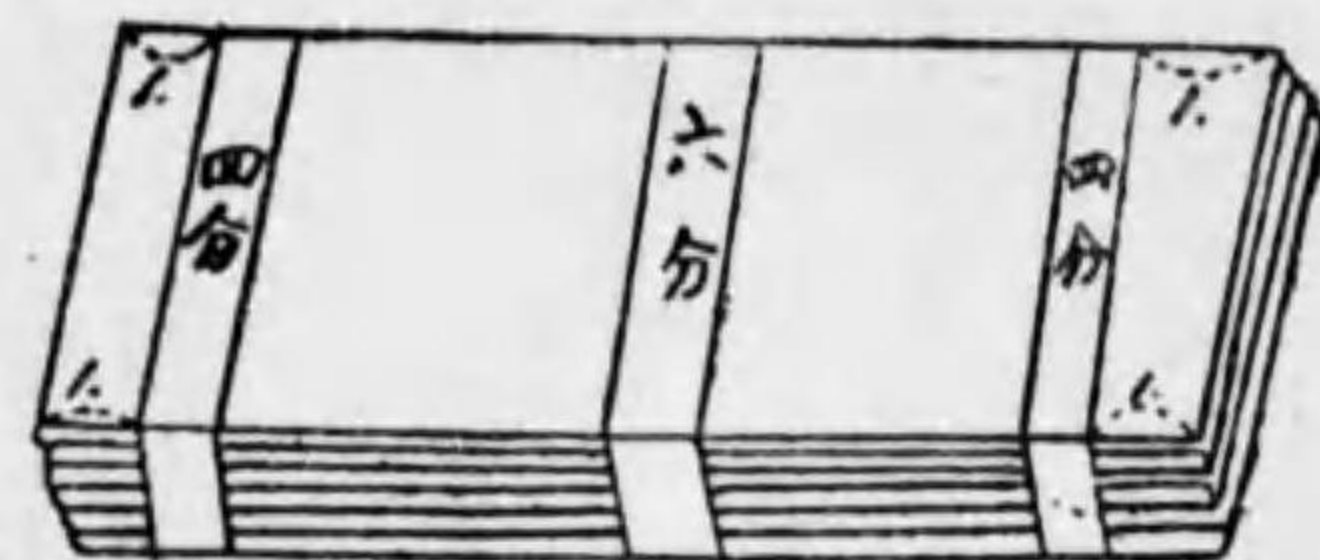
それで、地質の厚い物の時は、一針抜きにした方がよろしいのです右の様にして、二針三針縮けましてから、向ふと手前とを針で扱きましたら縮け目も針目の方で扱いて、正しくしておくのであります。

指で縮け目を扱きますと、手垢などがついて、品が悪くなりますから必ず針で扱かなければなりません。

こうして縮け終りましてから、これをたゝんで、糸で假綴ちをして壓をおきますが、壓をおきます時は、縮け目の所だけに、極く薄く霧を吹きます。それから(ロ)圖の様に厚紙の、幅四分のもの二本と、六分のもの一本を切つて、帶丈の中央を幅六分の紙で巻き、左右の端から一寸入つた所を幅四分の紙で巻きそして糊で貼り付けておくのであります。



(ロ) 上仕立



芯を帯皮に綴ちます時、皮の一方が縞物か獨鉗入りの時は、必ず目立つ方、つまり縞か獨鉗入の方で、芯を綴ちつるのであります、こういたしますと、少し位、表に、芯を附けました綴ち糸が出る様なことがあつても目立たないのであります。誤つて無地の方に芯を綴ちますと、表に少しでも綴ち糸が出ますと目立ちますから、無地の方には綴ちてはいけません。但し兩方共無地の場合は、仕方がありませんから充分の注意をして綴ち糸の見えない様にいたします。又、隠しを附けることもあります。この時は、帯の締めはじめの方から丈四尺位入つた所で、隠しの大きさを四寸か五寸とし、隠し布は、別の布で口の大きさをより一寸位長くして、帯皮の裁切りの幅だけの物で、兩皮を帶幅より五厘程入つた所に、裏から縫ひ附け、そして左右の端を中で返し縫ひにし、こゝを芯に縫ひ附け、それから縮けるのです。縮け終りましたら、隠しの口の止りに、左右とも極く小さく圓止めをしておくのであります。

○女袴

女袴に用ひる地質には、メリンス、カシミヤ、綿カシミヤ、縞子、鹽瀬、アルバカ、絹セル琥珀などあります。其の色は人々の好みや、流行に依つて一定しません。又、裾に染め模様をしましたり、又は種々の模様を縫ひ附けるものもあります。後紐の飾りにも、大白糸を用ひずに、裾と同じに

刺繡をするものもあり、リボンを使うものもあります。

女袴の仕立方には、後大萬前七つ襷と、後三つ襷前七つ襷と、前後七つ襷とあり。又改良袴もあり
ます。七つ襷と云ひますのは、左右の笹襷も數へてあります。

○寸法の割出し方

紐下、着物の着丈の十分の七。後幅、大人物の時は、紐下の三分の一より八分廣く。五歳から十歳
までの子供物は、紐下の三分の一、中裁の場合は、紐下の三分の一より五分程廣くいたします。

相引は大人物と子供物の差別なく、紐下の三分の二より二寸高ういたします。

腰幅は前後とも後幅と同じにします。子供物は、前腰幅を後腰幅より五分廣くします。

紐丈は大人物は後紐四尺八寸か五尺。前紐、九尺内外後紐幅、一寸七分。前紐幅、丈七分。五歳か
ら十歳までは、後紐丈、三尺九寸から四尺。幅、六分、中裁の後紐丈四尺五寸内外。幅、一寸七分

前紐丈、八尺五寸内外。幅、七八分であります。

襷は大人物と子供物も割出方は同じです。

後三つ襷は、後の一の襷、後幅の四分の三、中襷、後幅の二分の一、但し、全體の布幅のせまい時
は二分の一より五分位はせまくしても差支へありません。

後寄襷、これは裾口で、後幅の四分の一。上で（紐下の所）後幅の八分の一といたします。

笹襷幅、これは前後とも一の襷の四分の一です。

前一の襷は後幅の五分の三。

前中襷は後幅の二分の一ですが、全體の布幅がせまい時は、二分の一より五分位せまくしてもよろ
しいのです。

前、二の襷は一の襷と中襷との真中に折を附けるのであります。

前寄襷幅は、裾口で後幅の五分の一、上紐下の所で後幅の十分の一であります。

後大紋腰の時の襷の割り出し方。

後一の襷は後幅だけといたします。

笹襷は後幅の四分の一。

前襷は、すべて後三つ襷の時の前と同じであります。

○後腰飾り縫ひ針目の定め方

飾り縫ひは、二目落して、腰幅だけに大針を三針か五針出すのが普通であります。

飾縫ひは、白絹糸の片捻りにいたしました糸を二本用ひます。

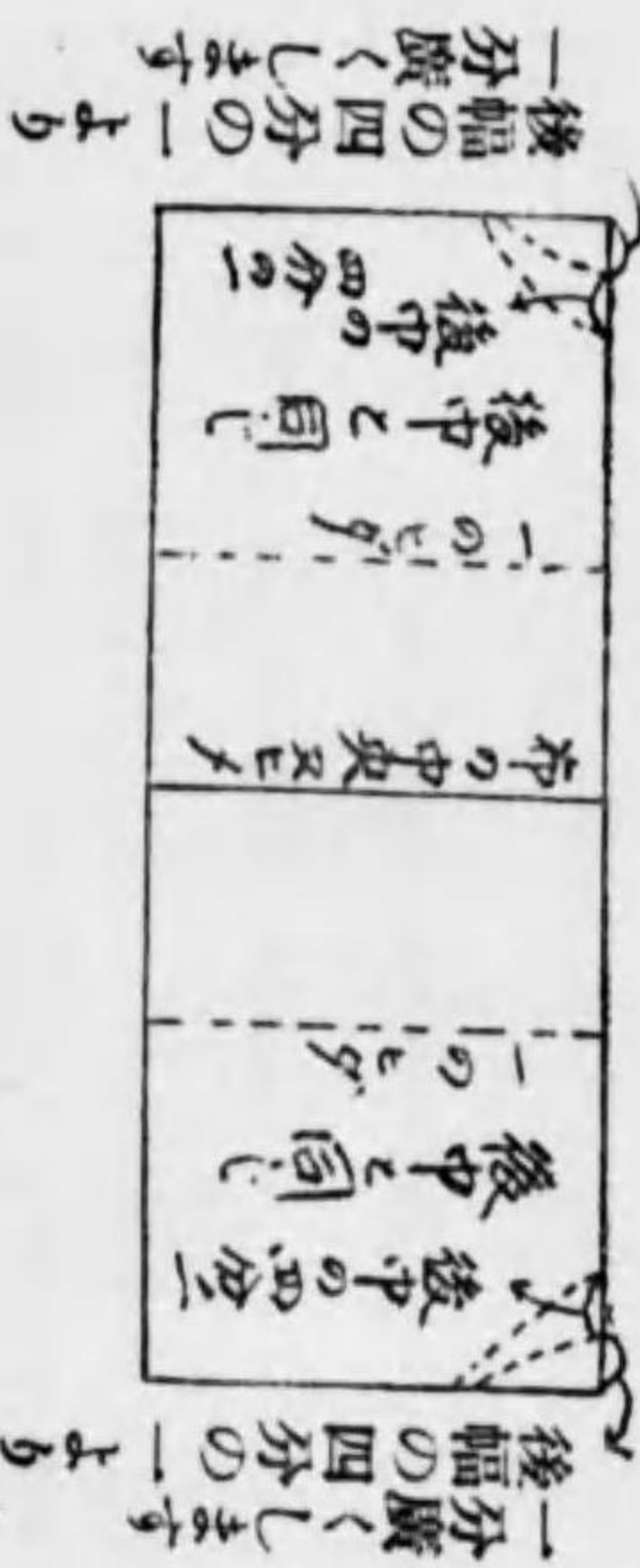
針目は、小針を二三分位の大きさに定め、腰幅から小針の数だけを引き、残りを大針の数で割り、そして大針の大きさを定めます。

大針を三針にいたします時は左の様にして大針の大きさを定めます。

小針の大きさ 腰幅 大針の数 大針の大きさ
 $2. \times 10 = 2.$ $8 - 2. = 6.$ $6 \div 3 = 2$

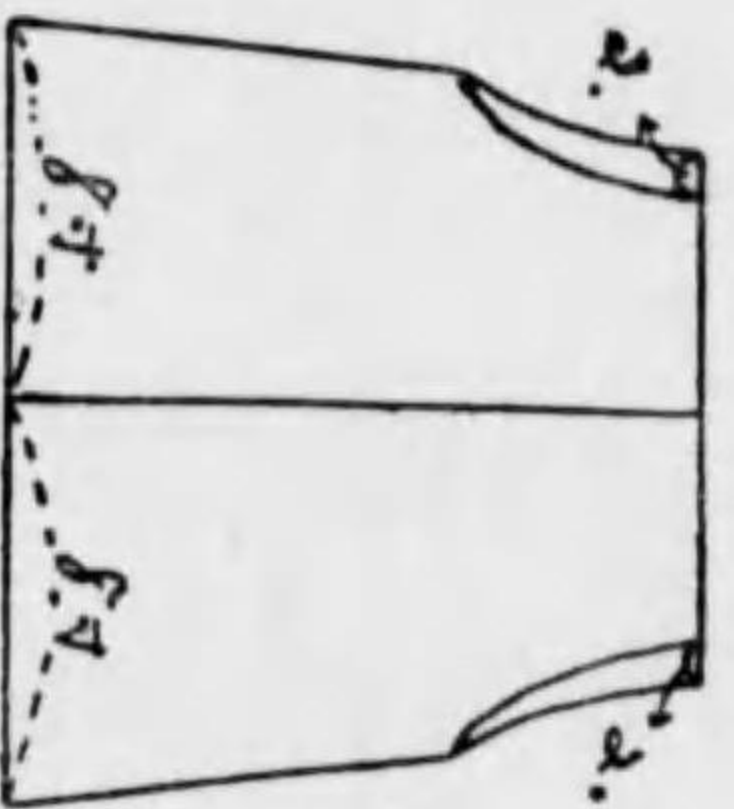
大針を五つにいたします時は、小針の數十六を引いて残りを五で割れば大針の大きさが出るのです

後大紋腰の襷の取り方

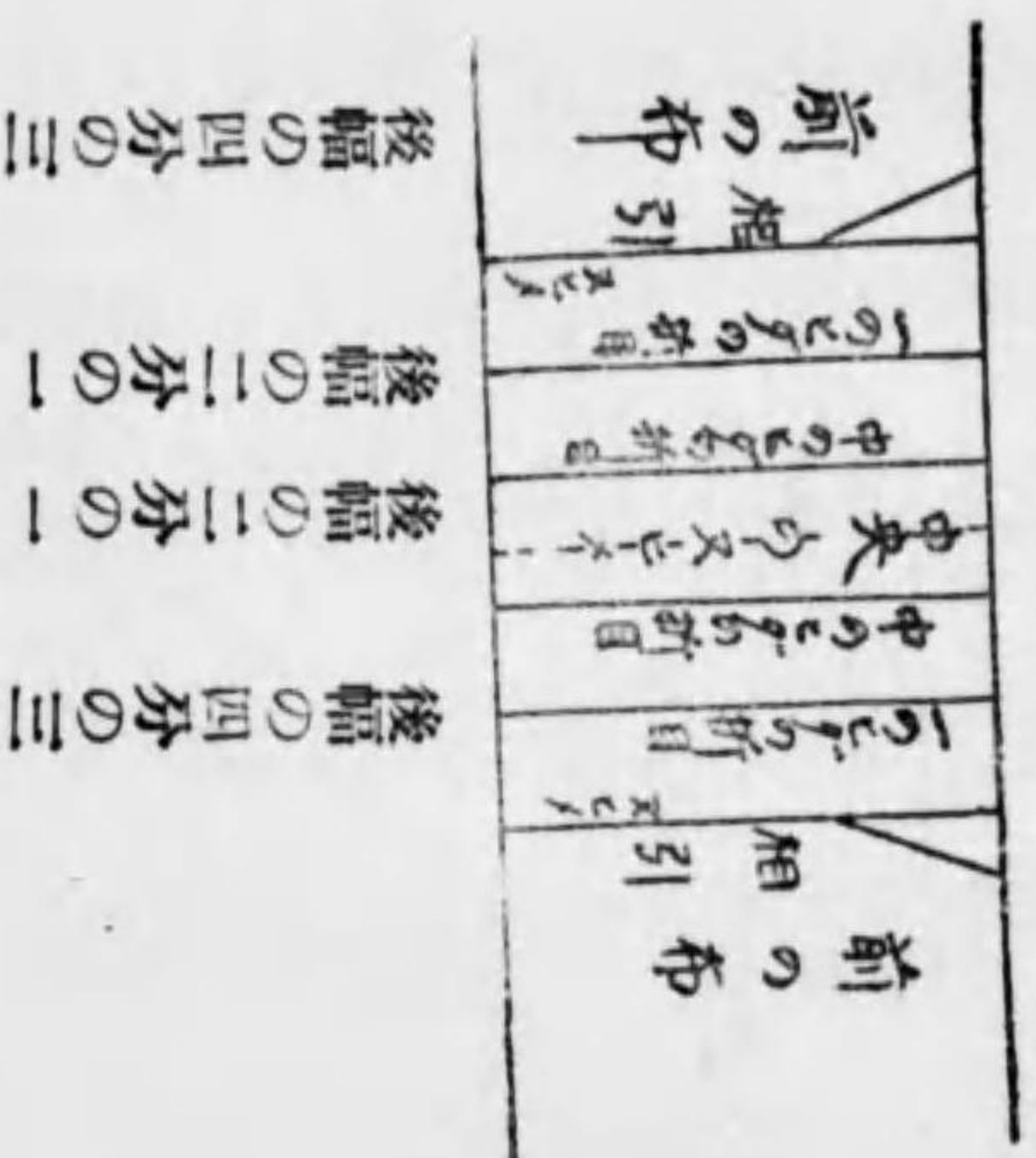


後襷を取り終へた所

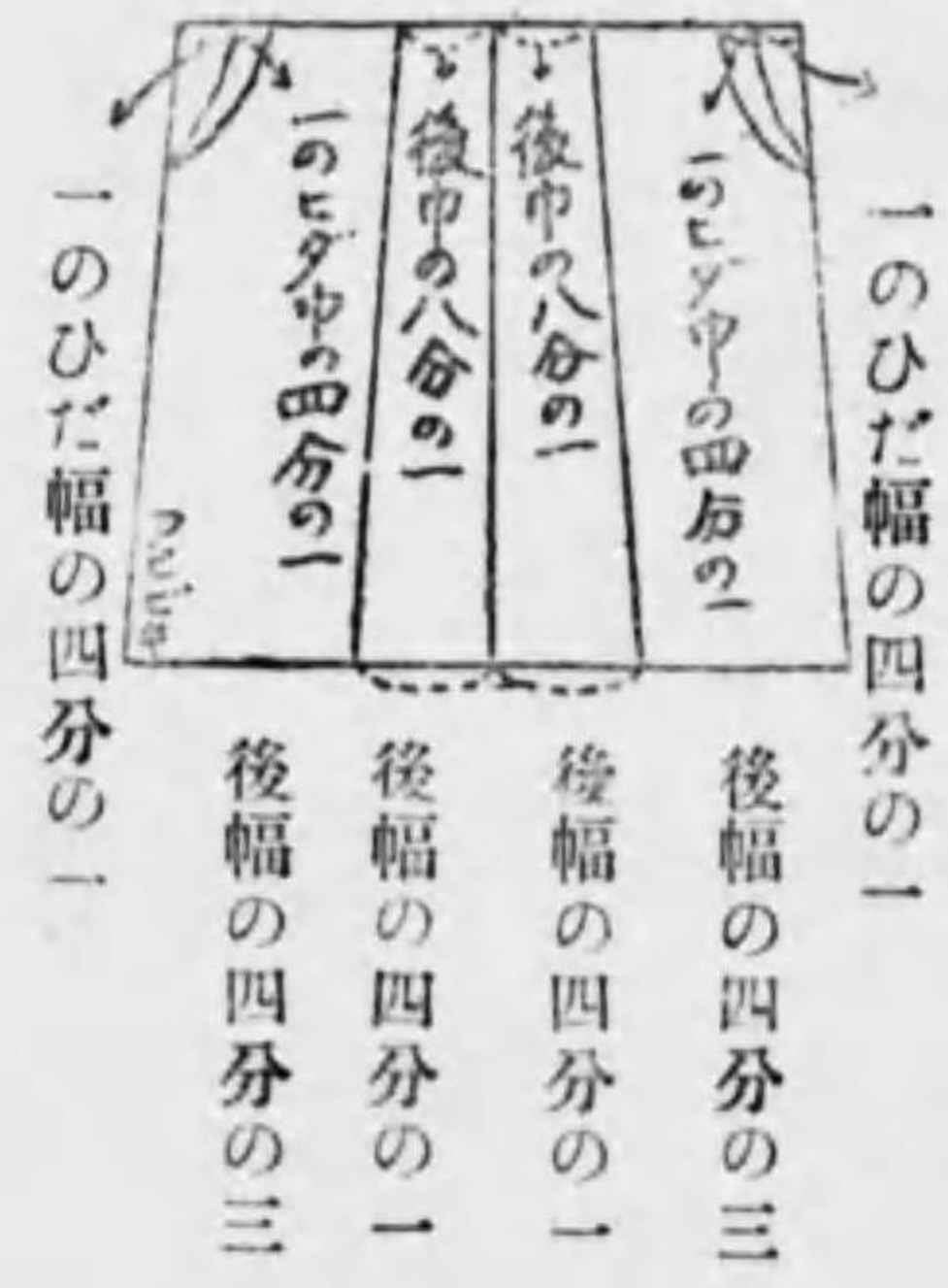
後幅と同じ



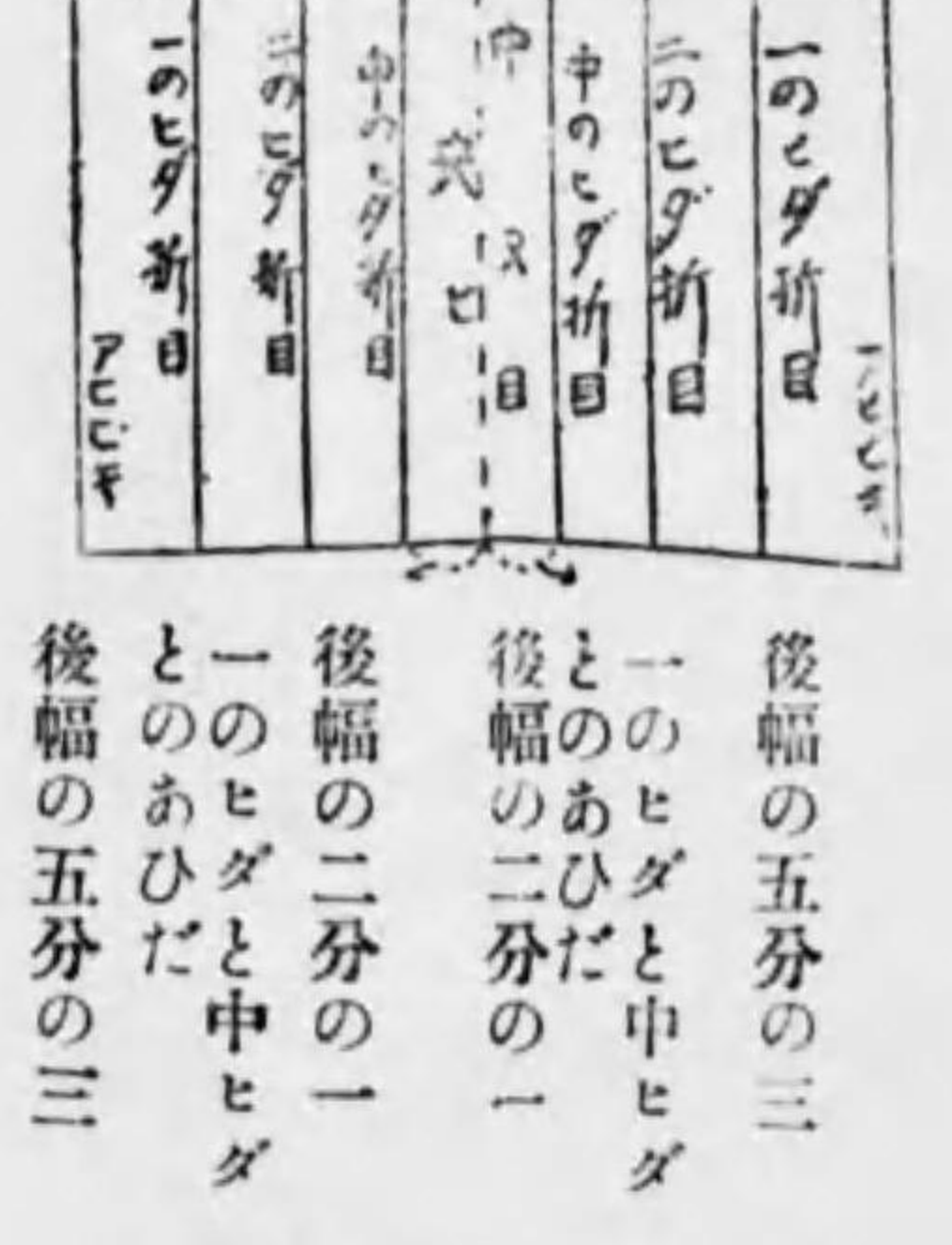
後三つ襷の折り方 (4)



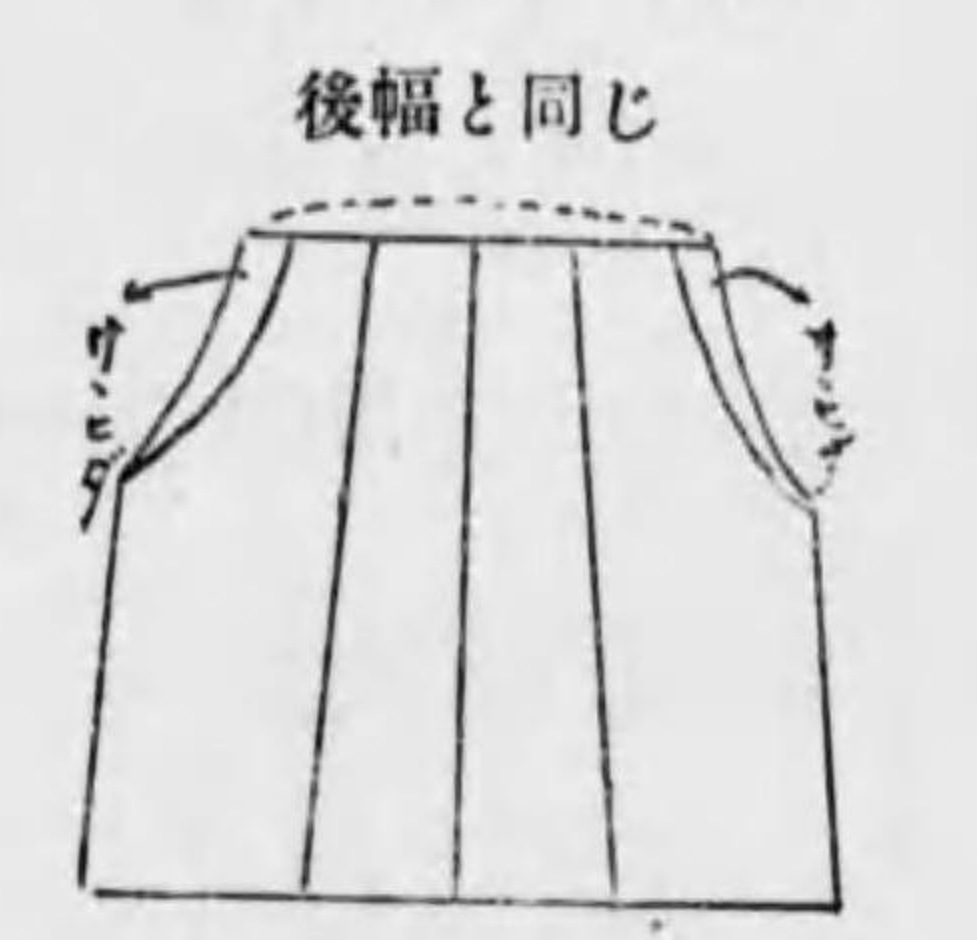
(ロ) 後寄襷を取つた所



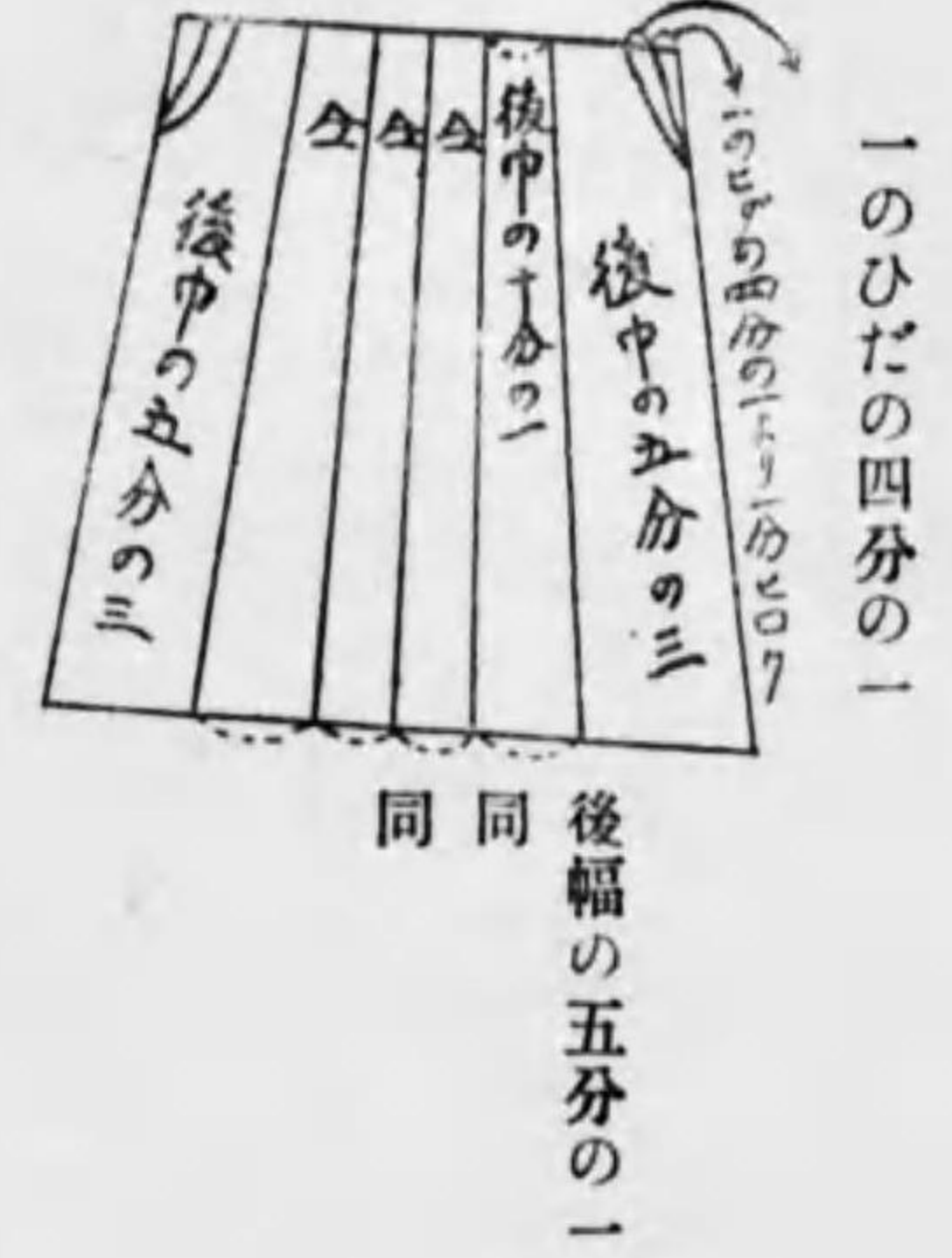
(ニ) 前襷の折り付け方



(ハ) 後笹襷を取つた所
後幅と同じ



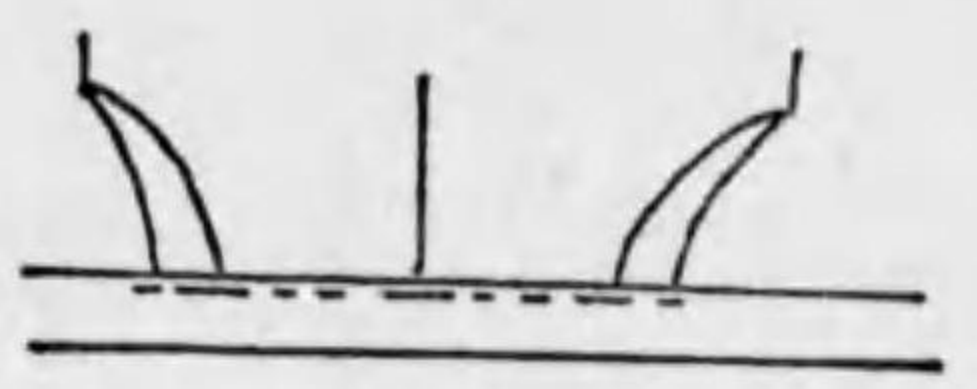
(ホ) 前寄襷の取り方



(ヘ) 前寄襷を取り終つた所
後幅と同じ

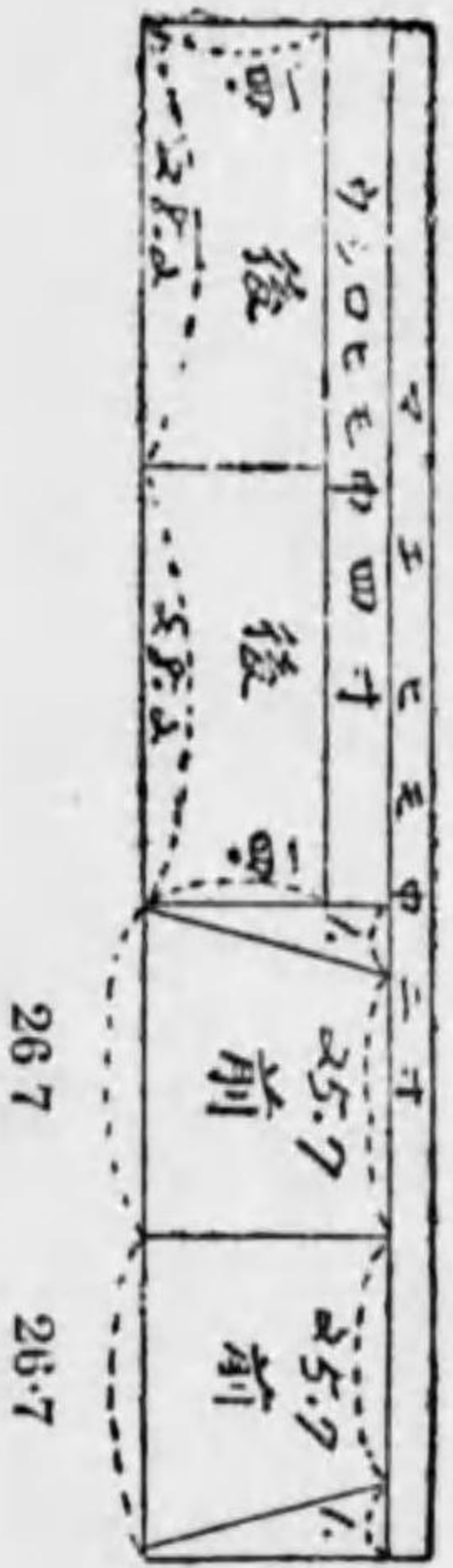


後腰の飾り縫ひ
(大針三針)



○裁ち方と積り方(後大紋腰前七つ襷、大人袴無袴)
幅二尺長さ一丈一尺のメリンスで

裁ち方の圖



積り方

総尺 前後の差の二倍 110. — 3. = 107 107. + 4 = 26.7 26.7 + 1.5 = 28.2
 前布丈 前後の差 後布丈
 (後布丈を前より一寸五分長くしますから前後の差一寸五分)

裁ち方説明

総用布を、幅二尺、長さ一丈一尺として、其の片端から幅二寸を豎に裁ち落して前紐とし、次に布二尺六寸のものを二枚取つて前布とし、その一方では丈を二尺五寸七分として裾口で一寸形を附けて二枚共裁ち落し、次に残りの、幅一尺八寸、長さ五尺六寸四分の布の端から幅四寸を豎に裁ち落して後紐にし、あとの、幅一尺四寸、長さ五尺六寸四分の布を、丈二ツに切つて左右の後布とし次に前布の二尺六寸七分の所と、後布の裾口とを揃へて、相引の標をしてをきまします。相引の高さは、紐下の三分の二より二寸程高くいたします。

(總尺 - 2前後の差) ÷ 4 = 前布丈 前布丈 + 前後の差 = 後布丈

○縫ひ方の順序

第一に、後布を二枚縫ひ合せて、上の方を右に裾の方を左に持つて、自分の方へ背縫ひの様に折り返します。今度は前布を出し、丈の二尺五寸七分と二尺七寸七分とを合せ、裾口を揃へて縫ひましたら、折を背縫ひの様に返し、次に後布と前布とを合せて、左右の相引を縫ひ、前布の方に折返し

裾口を二分五厘づゝ三つ折にし、針目を三分か四分位にして表に小針に出して拵け、次に襷を取るのではありません。

○襷の取り方説明

襷の取り方は、前の圖の様に、後は左右とも相引の縫ひ目から後幅の上り、普通八寸ですから其所に折を附けて、其の折と折とを合せて、中のだゝみ込みは、二つに折つて後襷の中央と、中の縫ひ目の折とを合せて四枚共に襷をかけ、前は一の襷を相引の縫ひ目から四寸八分の所(つまり後幅の五分の三)に折を附け、襷は後幅八寸の二分の一(つまり中央の縫目から左右へ四寸づゝ)の所折を附け二の襷は一の襷と中央の所に折りを附けましてから次に寄せ襷を取るのがあります。寄せ襷の取り方は、後布を下に、前布を上、裾口を右の方に布を下に平にしておき、最初に中襷の四寸と四寸とを合せ、中の折り込みは、後の様に二つに折つて次に、前の中央の丈の短い所で、紐下を定めておき、寄せ襷は裾口で後幅八寸の五分の一(つまり一寸六分です)紐下の所で十分の一(つまり八分)にし、次に、裾口から三寸程上つた所で一箇所と、紐下から三寸程下つた所一箇所と、其の中間とに千取掛けをし紐下の所から、又先の方も襷の亂れない様に綴ちておくのがあります。品に依つて折の附かない物は、一ツ一ツ下から上まで襷に襷をかけておきます。次に筐襷を取るのであります。

笹襷の取り方は、はじめ前後とも、布の耳の所を伸ばしておいて、紐下の所で、前は初め一寸三分とし、次を一寸二分として、前幅は一方で四寸ですから左右で八寸とし、後は紐下より五分長くし其所で笹襷は初め二寸一分に、次を二寸にし、後幅は、左右で八寸といたします。

(但し前の笹襷は、一の襷幅四寸八分の四分の一とし後笹襷は後幅八寸の四分の一とするのであります) 次に笹襷を綴ぢ、そして縮けましてから左右の相引の止りに門止めをし、次に裾口を相引の止りから一寸程度上の所まで折り返して丈を三つ折にして壓をおき、前後の紐は、丈の中央を一尺残しておいて、幅一杯に縮け、それから後紐を縫ひ附けるのであります。

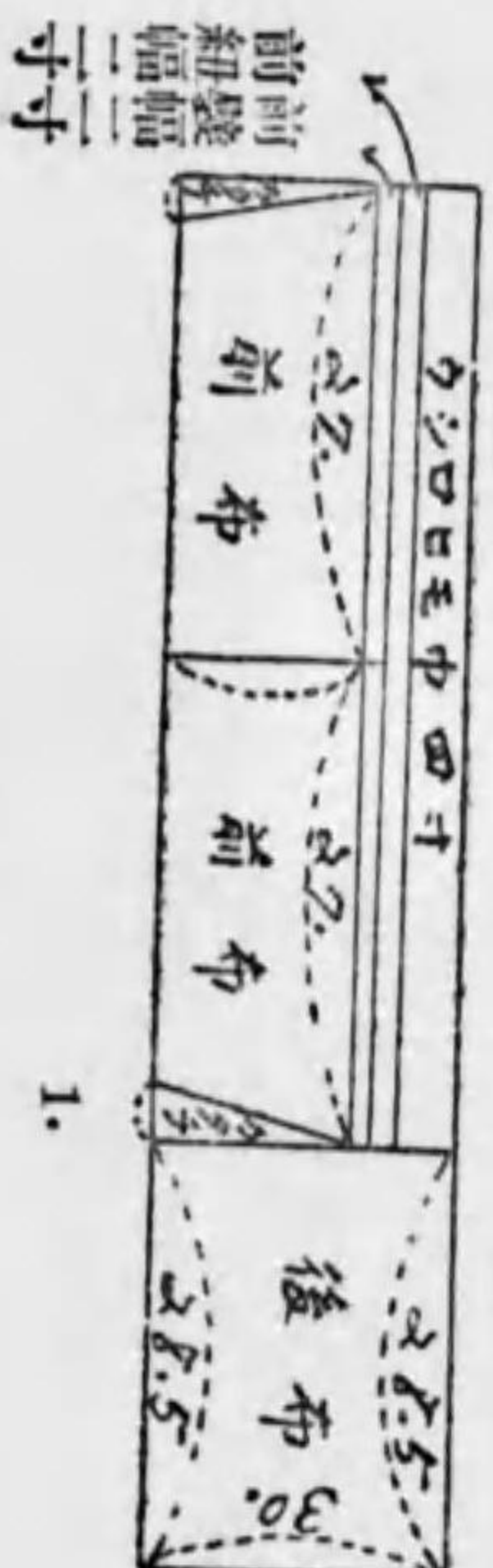
縫ひ方は別に厚紙を長さ九寸(つまり腰幅より一分長く)幅は紐幅の上り寸法の二倍に、一方の縫ひ代だけを加へた寸法に裁つて、この紙の長さの中央と、後紐だけの中央とを揃へ、紐の表になる方で布の裏に挟で縫ひ附けておき、次に、紐を附ける時の縫ひ代から二分五厘程上つた所で、腰幅だけに飾縫ひをし、厚紙は幅の山で両端を、幅も丈も四分か五分の間で、裏表とも裁ち落とし、次に後腰を真直に標を附け、腰幅の中央と紐丈の中央とを揃へて待針を刺し、糸を二本捻り合せたもので、返し縫ひにし、紐の方に折り返します。次に裏紐を縮けますが、厚紙は縮け代にはいれません。次に前紐を附けるのであります。其の附け方は、幅が一寸三分位、長さ九寸の半紙を八枚よく

もんで皺を伸ばし、この紙の丈の中央と前紐丈の中央を合せて、紐布の裏に紙を當て、挟で縫ひ附けておき、次に前腰は、兩脇の丈を後丈と同じにし、幅の中央で後丈より二分短くし、腰幅の間を弓形に標を附け、この標の所で紐丈の中央と前腰幅とを揃へて待針をし、糸を二本捻り合せたもので返し縫ひに縫ひ、紐の方に折り返し、次に紐幅を二つに折つて、腰幅の間は紐の厚さが、端から端まで同じになる様に、薄い所には紙か又は布を入れて厚くしましてから裏で縮けるのであります。尙前にのべましたが前後の幅を八寸といたしましたのは、これは普通の寸法でありまして、體の肥つた人の場合は、袴の身幅を八寸五分か九寸にして、腰幅も之にならつて廣くいたします。

○裁ち方と積り方

用布から初め、長さ二尺八寸五分の布を一枚取つて、これを後布とし、次にあとの布から幅四寸を縦に二本取りまして、一本を後紐とし、あと一本は幅を二つに切り、その中の一本を、丈二つに切つて都合三本を合せて前紐とし、残りの幅二尺二寸、長さ五尺四寸の布は、表を中にして丈を二つに折り、一方(裾口)で形を一寸附け、(圖の様に)丈の輪の所を切つて左右の前布といたします。

裁ち方の圖



積り方

3(紐下+形と新代+縫代)+前後の差=用布
 ヒモウタ 形トケケラト縫代 24.5 + 3 = 27.5 27.5 × 3 = 81.1 81.1 + 1.5 = 82.5
 前後の差 用布

○縫ひ方

前と同じですが 後布幅を、廣く一布に取りましたから中央に縫ひ目を附けません。

○襷の取り方

この襷の取り方は、後三つ襷に取るのではありませんから後は相引の縫ひ目から左右に六寸の所に折を附け、中襷は後布幅の中央から左右へ四寸づゝの所に折を附けて、そしてこれを前に仕立た様にし、後寄せ襷は、裾口で後幅八寸の四分の一、上は後幅の八分の一として寄せ襷を取るのがあります。後襷ははじめ一寸六分にし、次を一寸五分とし、後腰幅は全體で八寸とするのがあります。前襷の

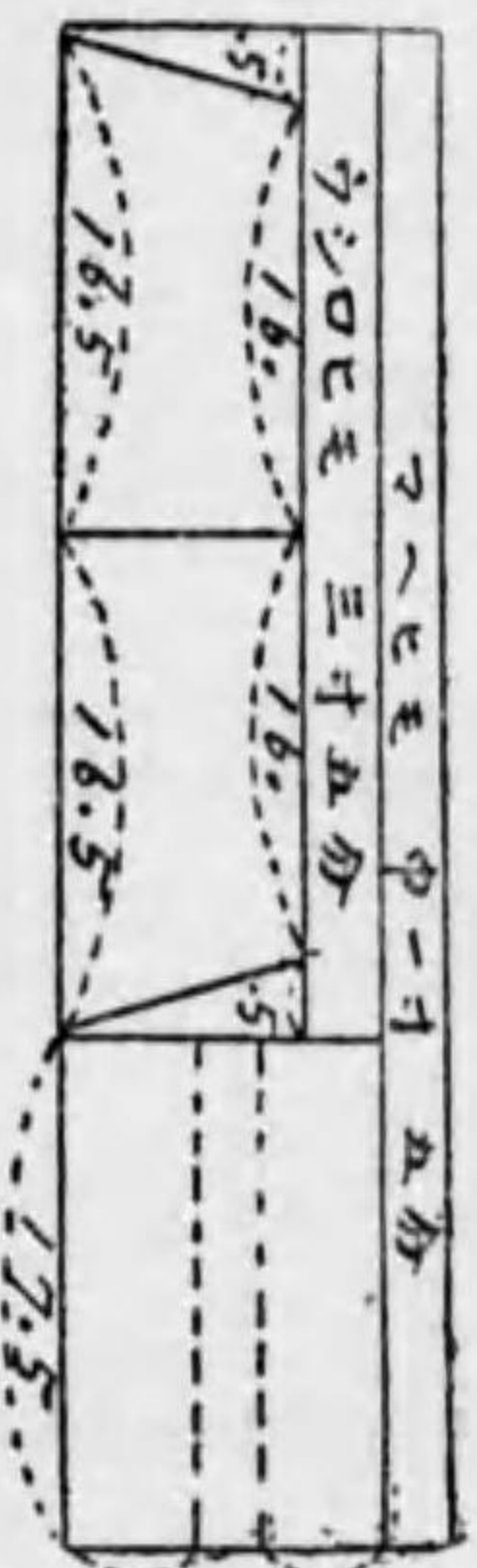
取り方は、前に仕立ました物と同じに、一の襷は四寸八分、二の襷は一の襷と中襷との中央にし、中襷は中央の縫ひ目から四寸づゝの所に折を附けるのがあります。この外は皆前にのべました通りですから略します。

○小裁女袴

○裁ち方と積り方

幅二尺の布で、五六才の女兒用の袴

裁ち方圖



積り方

3(紐下+裁込縫代)+前後の差=用布
 紐下 裁込縫代 18.5 + 3 = 21.5 21.5 × 3 = 64.5 64.5 + 1.5 = 66.0
 前後の差 用布

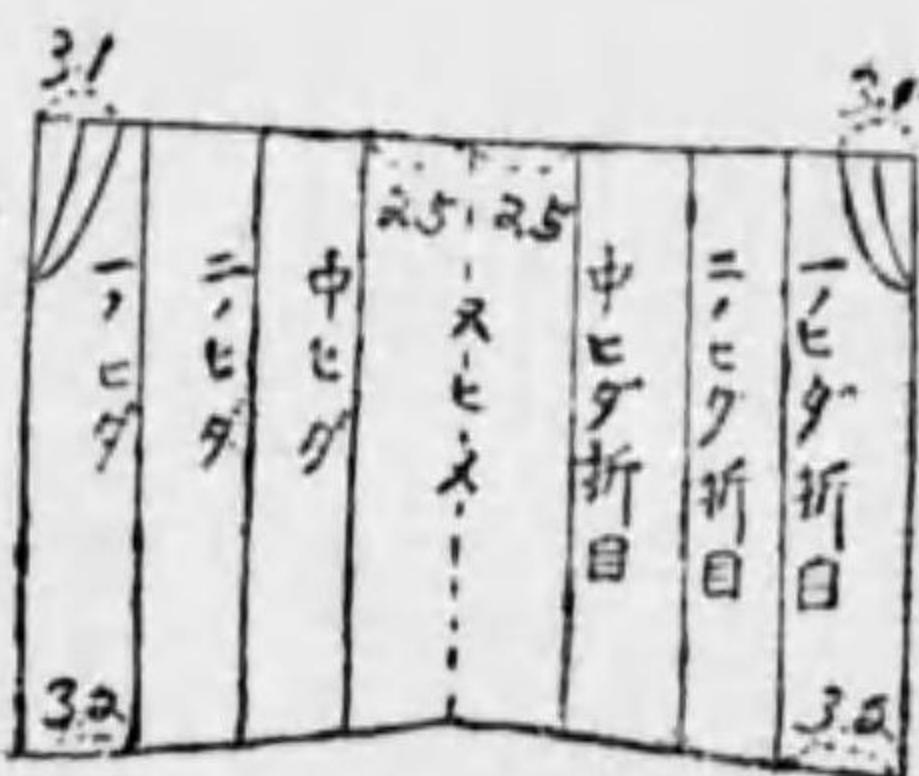
○縫ひ方の順序

最初に、前布の一尺六寸と一尺六寸とを合せ、裾口を揃へて縫ひ、其の縫ひ目は、袴の上り方を右

に持つて手前に返し、次に左右の相引を縫つて前布の方に折り返し、そうして裾口を新けましてから、襷を取るのではありません。

○襷の取り方

前襷の取り方



出来上り



後は大紋の仕立方で、はじめ後幅五寸五分に標をしました中、三分は相引の縫ひ代となりますから後幅五寸二分の所に折りを付け、後幅の五寸二分と五寸二分との折を合せて、中の折り込みは二つに折り、四枚共に襷をかけます。

前襷は、一の襷を相引の縫ひ目から幅三寸二分の所に折りを付け、中襷は中央の縫ひ目から左右へ

二寸五分づゝの所に折を付け、二の襷は一の襷と中襷の中央に折を附けます。

次に寄せ襷は、裾口で一寸一分に紐下の所で六分として襷をかけます。

後の襷は、はじめを一寸六分に折り、次を一寸五分として後襷と襷との間は、幅一寸一分とし、後腰幅を全體で五寸二分とし、前襷は、はじめを一寸にし次を九分に折り、寄せ襷と襷との間を幅六分として前幅を五寸七分とし、そうしましてから、前後の紐を附けるのではありません。

後紐の飾りは大針を三針出します。

○中裁女袴

○裁ち方と積り方

並幅の長さ二丈二尺六寸の布で、十一二才の女兒の袴無袴

裁ち方の圖



積り方

(總尺一後紐一前後の差+裁込)÷8=脇布丈

脇布丈+前後の差=後布丈

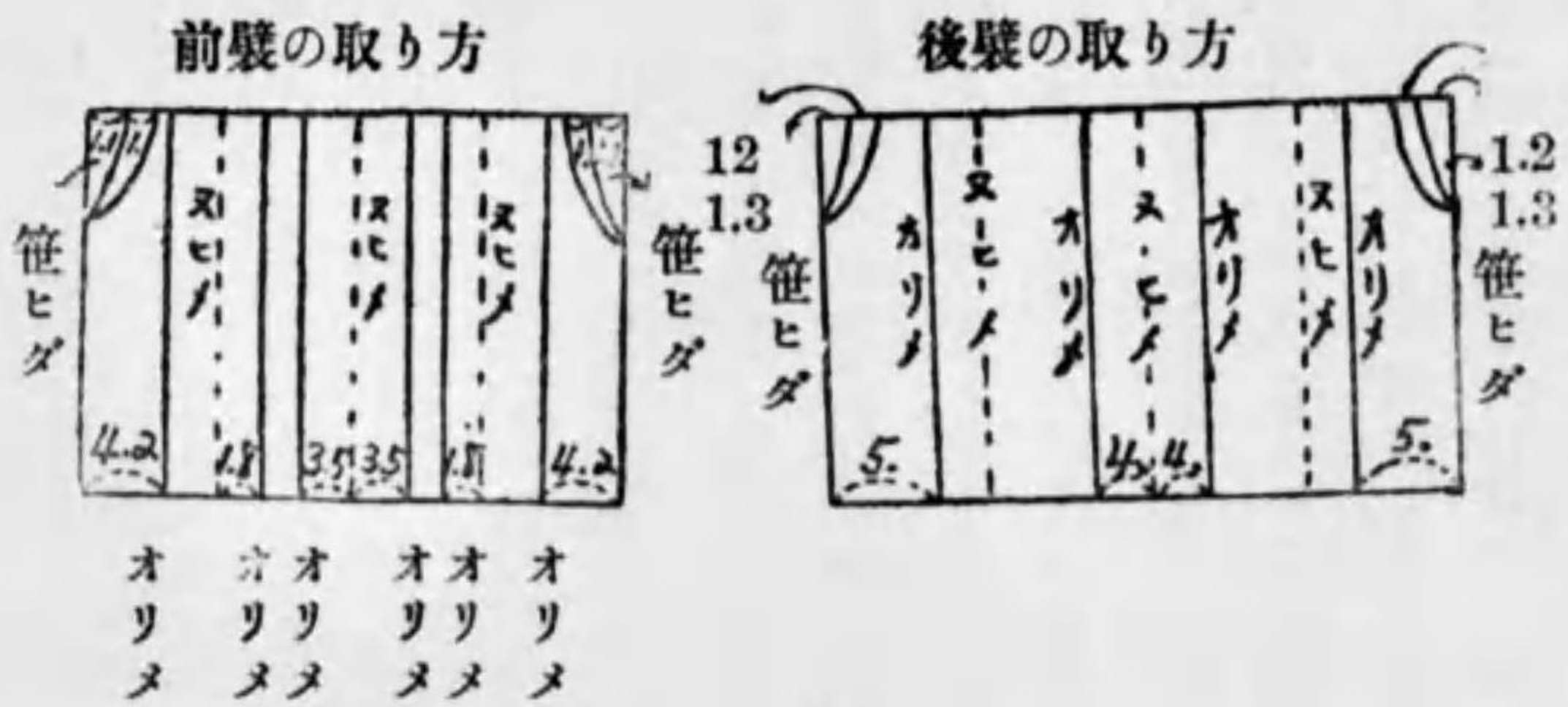
總尺 後紐 前後の差 裁込
226.-40.=186. 186.-6.=180. 180.+1.6.=181.6

脇布丈 前後の差
181.6÷8=22.7 22.7+1.5=24.2

○縫ひ方

まづ後布四枚を縫ひ合せます。そしてその折の附け方は。中央の折は袴の上の方を右に持つて手前の方に返し、左右の端の縫ひ目は、後布の奥の方に返しておき次に前奥布を出して、長さ二尺一寸九分の所を縫ひ合せ、折りは袴の上を右に持つて手前の方に返し、左右の端の縫ひ目は、後布の奥の方に返しておき、次に前奥布を出し、長さ二尺一寸九分の所を縫ひ合せ、袴の上を右にして手前に折り返し、次に奥布の二尺二寸三分の所と、脇布の二尺二寸三分の所を合せて縫ひ、奥布の方に折り返し、次に相引は、紐下の三分の二より一二寸多く縫つて脇布の方に折り返し、それから裾口を締め次に襷を取るのであります。

○襷の取り方



上の圖の様に後の二の襷は、後中央の縫ひ目から左右へ幅四寸づゝの所に折を附け、一の襷は相引の縫ひ目から五寸の所に標を附け、其所に折を附けます。後寄せ襷は、裾口で幅二寸、上で一寸として三つ襷とし、前は、一の襷を相引の縫ひ目から四寸二分に二の襷を脇布と奥布の縫ひ目から奥布の方に一寸八分とし、中襷は中央の縫ひ目から左右に三寸五分の所に、背折を附け、前寄せ襷は、裾口で一寸四分、紐下の所で七分とし、後襷は、後は、はじめを一寸三分に折り、次を一寸二分に折つて腰幅は全體で七寸とし、前襷ははじめを一寸一分、次を一寸として前幅を七寸にし、前後の差は五分位として次に紐を締め、次に前後の紐を附けるのであります。

○綿布男袴

○仕立て寸法の割出し方
紐下、着物の着丈の十六分の六、

後幅、大人物は、紐下の三分の一より八分長く、五六歳の時は、紐下の三分の一。中裁の時は紐下の三分の一より五分廣く。

後腰幅、後幅の四分の三より五分廣く。

前腰幅、後幅と同じ。小供物は五分か一寸内外廣く。

相引、紐下の三分の二。

襠の高さ、大人物は紐下の三分の二より一寸少く。小裁と中裁は紐下の三分の二より二寸少く。

後襠と前襠の間、腰廻の太さの二分の一。

腰紙の高さ、後幅の三分の一より一二分高く。

腰紙の下幅、後腰幅と同じ。

腰紙の上の幅、下幅の六分の一づつを左右の端で斜に裁ち落します。

附菱、幅は腰紙の下幅の三分の一。高さは腰紙の高さの二分の一より二分高く。

紐幅、大人物は七八分、小裁は五六分。

後紐丈、大人物と中裁は一尺八寸。十歳から十二三歳用のものは一尺六七寸。七八歳のものなら一尺五寸。六歳位のものならば一尺四寸。

前紐丈、大人物と中裁物は九尺内外、十歳から十三歳用の物ならば八尺内外、七八歳用のものなら七尺内外。五六歳のものには六尺内外。

襞の割り出方、大人物も小裁物も同じにします。

一の襞幅、後幅の五分の三。

二の襞、後幅の五分の一より二分廣く。

中の襞幅、後幅の五分の二より四分程狭く。

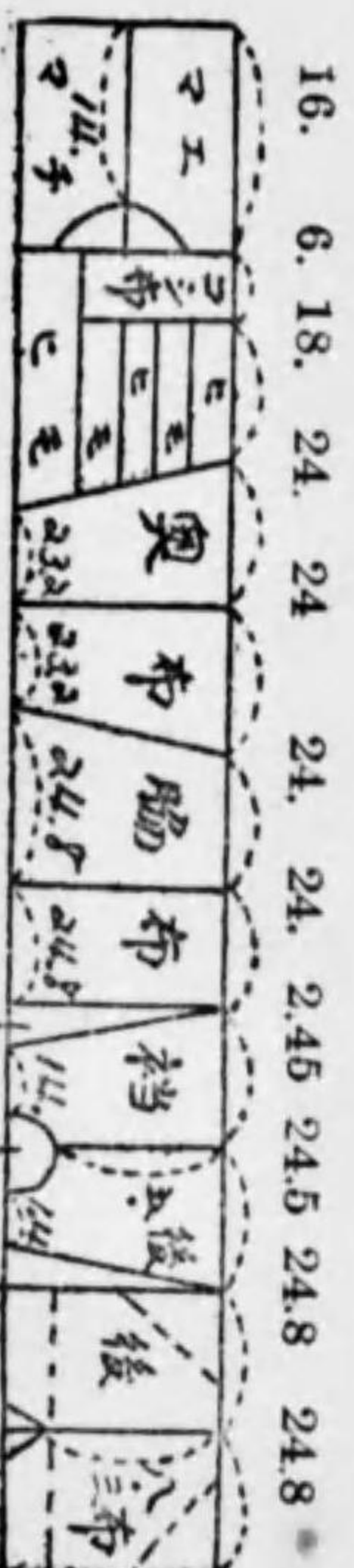
寄せ襞幅、裾口で後幅の五分の一、上は紐下の所で後幅の十分の一。

笹襞幅、一の襞の四分の一。

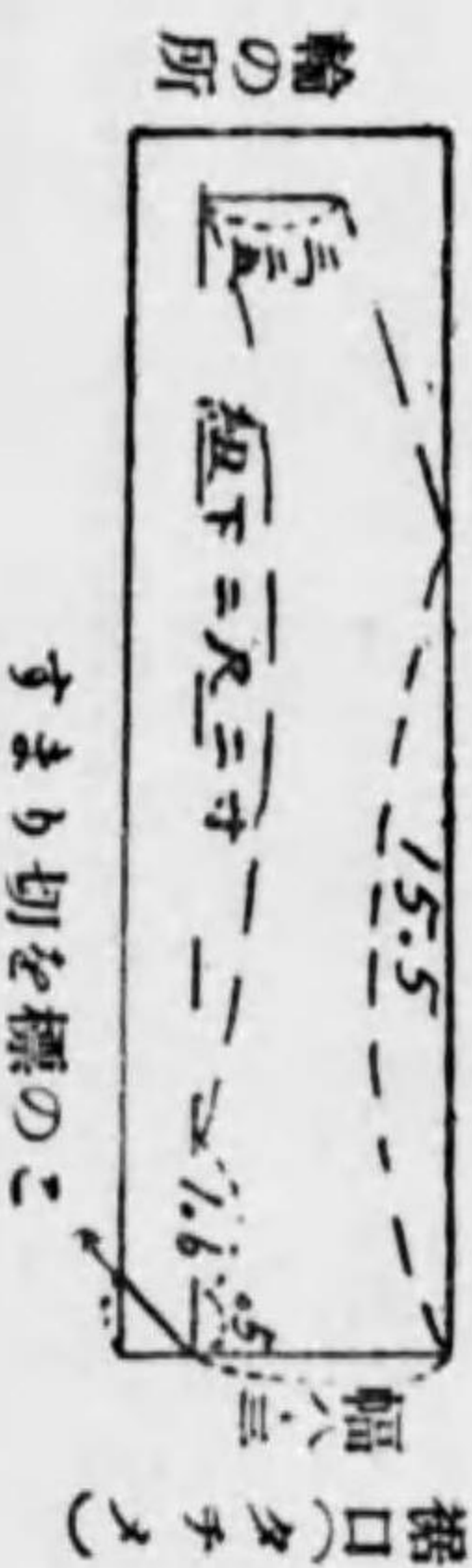
○裁方と積り方

並幅の、長さ二丈三尺五寸の布 十番馬乗袴の裁方。

裁ち方圖

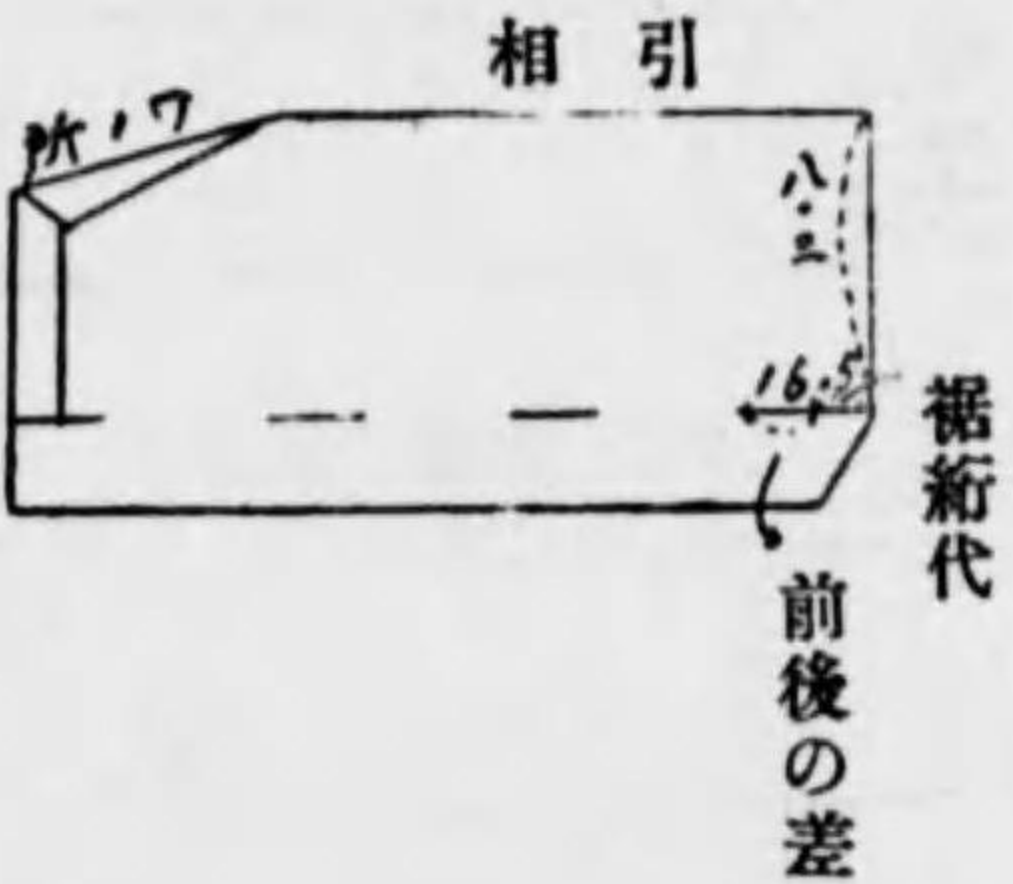


紐
形一寸三分
形三分
脇布五分
脇布五分

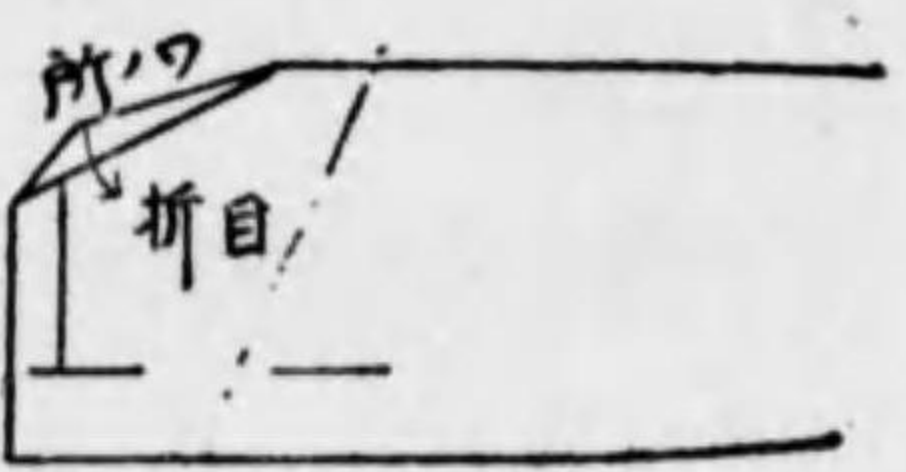


(1)

(ロ) 投の折り方



「ロ」



(1)



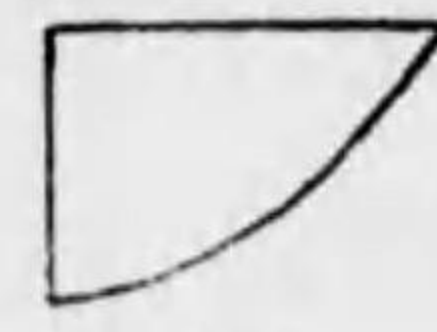
(ハ) 後襟の裁方



(ニ) 後襟を裁ち切った所

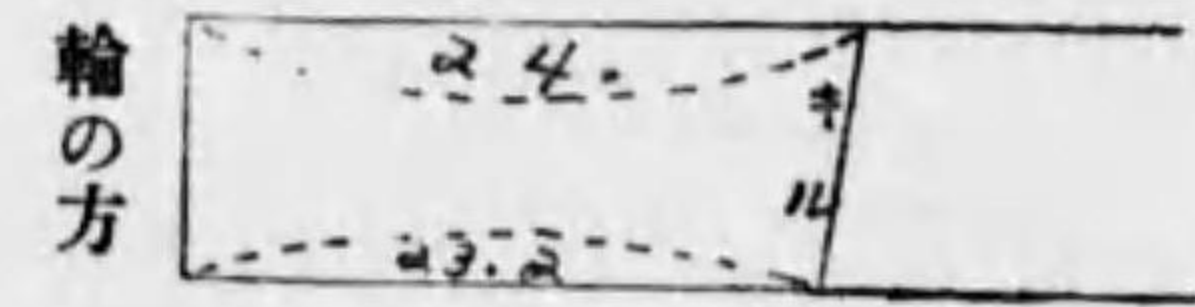


(ホ) 輪の方



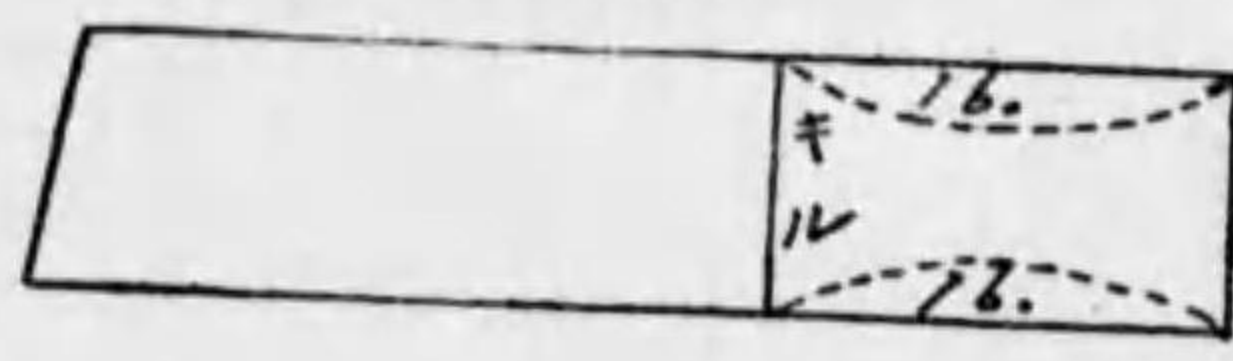
後襟の落し布
でこれは前紐
の足し布に紐
ます

(ト)の二

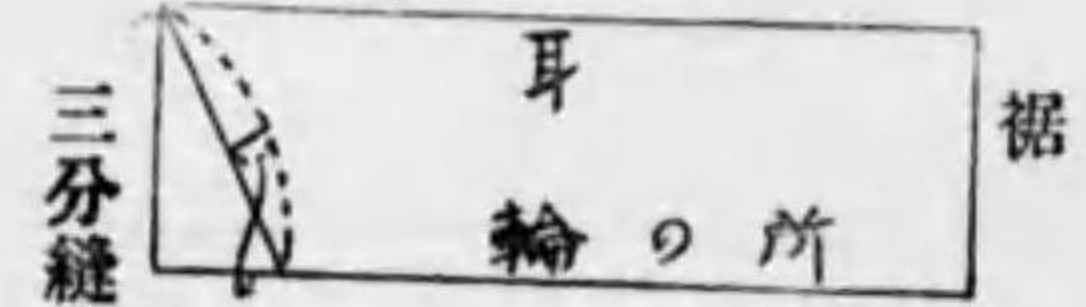


輪の方

(チ) 前襟の裁方



(チ)の二

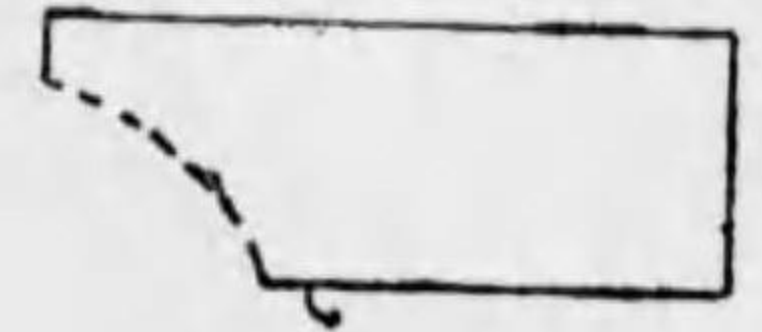


三分縫代

八分斜に標より出して

(チ)の三

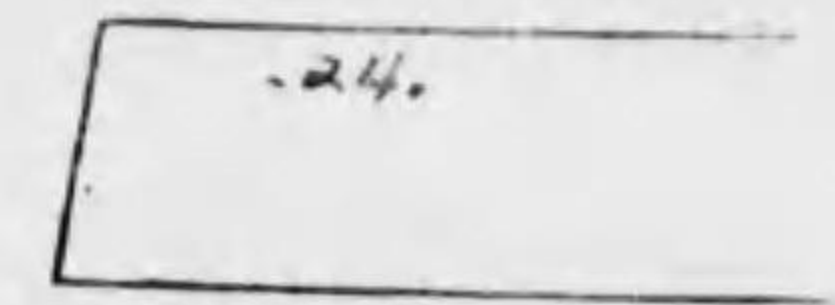
前襟を切つた所



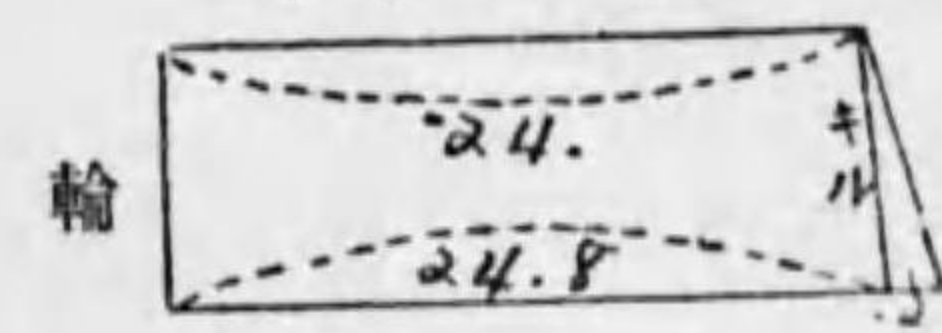
この輪を切ります



(ニ) 脇布の裁方

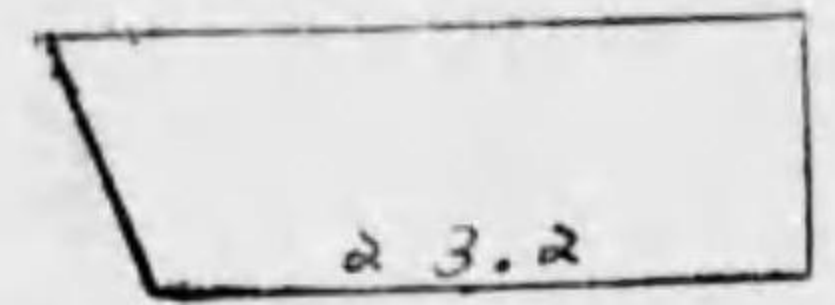


(ニ)の二



すまし出を布ダムの分五

(ト)の(一)奥布裁方



紐と腰布の裁ち切



○裁ち方説明

先づ總尺の二丈三尺五寸の中から、後丈二尺四寸八分を二枚取り、(イ)圖の様に、丈の輪の方と左に、裁ち目を右にして布を下に平におき、そして向ふから手前に後幅八寸三分に、右から左の端まで丈を五寸位づゝ間を置いて標をし、次に後幅八寸三分の標の外で、つまり手前で、右から左に丈三分取り、後幅八寸三分の所まで、斜に標をして、その標の通りに二枚共裁ち、次に後幅の所で右から左に五分の所に標を附けますが、この五分は帯の拵け代です。次に其の五分標から又左の方に前後の差を一寸六分の所に標をしますが、この一寸六分は、前の中央は後より一寸六分短くなり紐下は其所から度るのです。其の標から左の方に紐下二尺二寸の所に標を附け、其處で後幅八寸三分の標から向ふに腰幅の半分、三寸二分五厘の所に標を附けて、其間の布目を真直に通して標を附け、それから向ふで右から左に相引の丈一尺五寸五分の所に標をし、其の標から腰幅三寸二分五厘

の所まで尺を斜に渡して、所々に小さく標を付けて左の端の輪を切り、そして其處を投の折り方の
 圖の様に順々に折るのであります。此の布は後布であつて丈一尺五寸五分の所を相引と云ひ相引か
 ら左の方、斜に折つた所を投と云ひます。

(相引の度り方はまづ紐下二尺二寸を三で割りますれば七寸三分餘となり、是を二倍いたしますと
 一尺四寸六分餘となります。是は裾の紵け代五分を加へますと一尺五寸一分餘となります。それに
 相引は幾分高い方がよろしいのですから都合一尺五寸五分としたのであります)次に布を出し、下
 に平において後布丈二尺四寸八分より三分短くつまり二尺四寸五分を二枚取り布を切らずに丈の輪
 の方を左に、反物の方を右に持つて(ハ)圖の様に、前で右から左に丈一寸三分の所に標を付け
 向ふは丈を一ばいにして丈一寸三分の所まで斜に標を付け、其の標通りに二枚重ねて切り、手前の
 丈の短い方で、右から左に襷の高さ、一尺四寸の所に標を付け、次に左の端で丈の長い方から短い
 方、つまり向うから手前に、上の幅五寸の所に標をし、其の標から襷の高さの一尺四寸の所まで斜
 に標を付けて其の斜の標の丈の中央に標を付け、其所で向うに尺を斜に一寸五分出し、其の標を的
 にして(ハ)圖の様に標をつけて二枚共圓い方の標を切り、(ニ)圖の方の布を後襷とし、その落布は
 前紐の足し布にいたします。

今度は(ヘ)圖の(一)の様に、反物の丈の斜になつてゐる方を左にし、布の短い方を向ふにして布を
 下に平におき布の短い方で後布丈二尺四寸八分より八分短く、つまり二尺四寸の所に標を付け、其
 の標から右の方に折り返して、(ヘ)圖の(二)の様に左の手の方を輪とし、右を裁ち目としておいて
 手前で左から右に、後丈と同じ二尺四寸八分の所に標を付け、其の標から、向うは丈二尺四寸の所
 まで斜に標をして二枚重ねて切り、次に左の端の輪も切つて是を脇布とします。次に(ト)圖の(一)
 の様に布のながい方を向ふに短い方を手前にして布を平に下において布丈の短い方で、左から右に
 脇布の短い方二尺四寸より尙八分短くつまり二尺三寸二分の所に標を付け、其の標から右の方に折
 り返して(ト)圖の(二)の様に布をおき、向ふでは左から右に、脇布の短い方と同じに二尺四寸と
 し、其の標から手前の二尺三寸二分の所まで斜に標を付けて二枚共裁切り、左の端の輪の所を切り
 まして奥布といたします。

次に(チ)圖の(一)の様に残りしました布を平にして布の裁ち目の真直の方で、丈一尺六寸を一枚取り
 布の表を中にして幅を二つ折とし、(チ)圖の(二)の様に幅の輪の方を手前にして布を平に下におき
 幅の輪の所で右から左に襷の高さ一尺四寸の所に標をし、次に向ふで左の端を向ふから手前に、縫
 ひ代を幅三分の所に標を付け、其の標から襷の高さの一尺四寸の所まで斜に標を付け、其の標の中

央で尺を向ふに斜に八分の所に標をして(チ)圖の(二)の様を附けまして二枚切り落して(チ)圖の(三)の様な形の布を二枚裁ち、大きい布を前襠として襠の高さの一尺四寸の輪の所を切り、そして前襠の落布を附邊といたします。次に残つた布を出しまして(リ)圖の様は布の斜の方を左に、真直の方を右にして布を平におき、布幅を五つに割つて布の長いもの、つまり(リ)圖の一番下にある一つを裁ち落して前紐の一つとし、次に布の真直の方で丈三寸づゝ二枚取りまして裏表の腰布とし、残りの布を幅四つに切り、其の中の二本を後紐とし、残は皆前紐といたします、又後襠の落し布からも紐布幅と同じ布を、取れますだけ取つて前紐の分といたします。前紐丈は九尺内外であつて後紐丈は一尺八寸が普通であります。

積り方

[總尺-(前襠+腰布+後紐丈)+裁込]+8=後丈

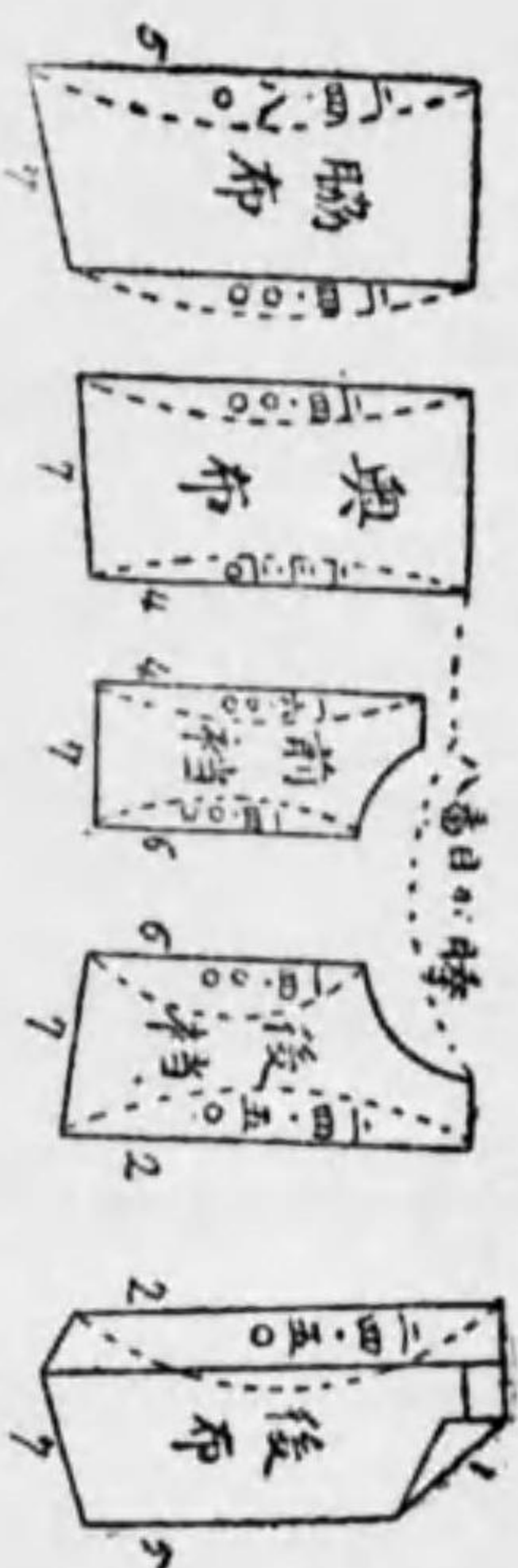
前襠 腰布 後紐 總尺 裁込
 $16.+6.+18.=40.$ $235.-40.=195.$ $195.+3.8.=198.8$

後丈
 $19.88.+8.=24.8$

裁込は、後襠で八分づゝ二つ、脇布で八分づゝを二つ奥布だ八分づゝ二つですから都合三寸八分であります。

縫ひ方の順序

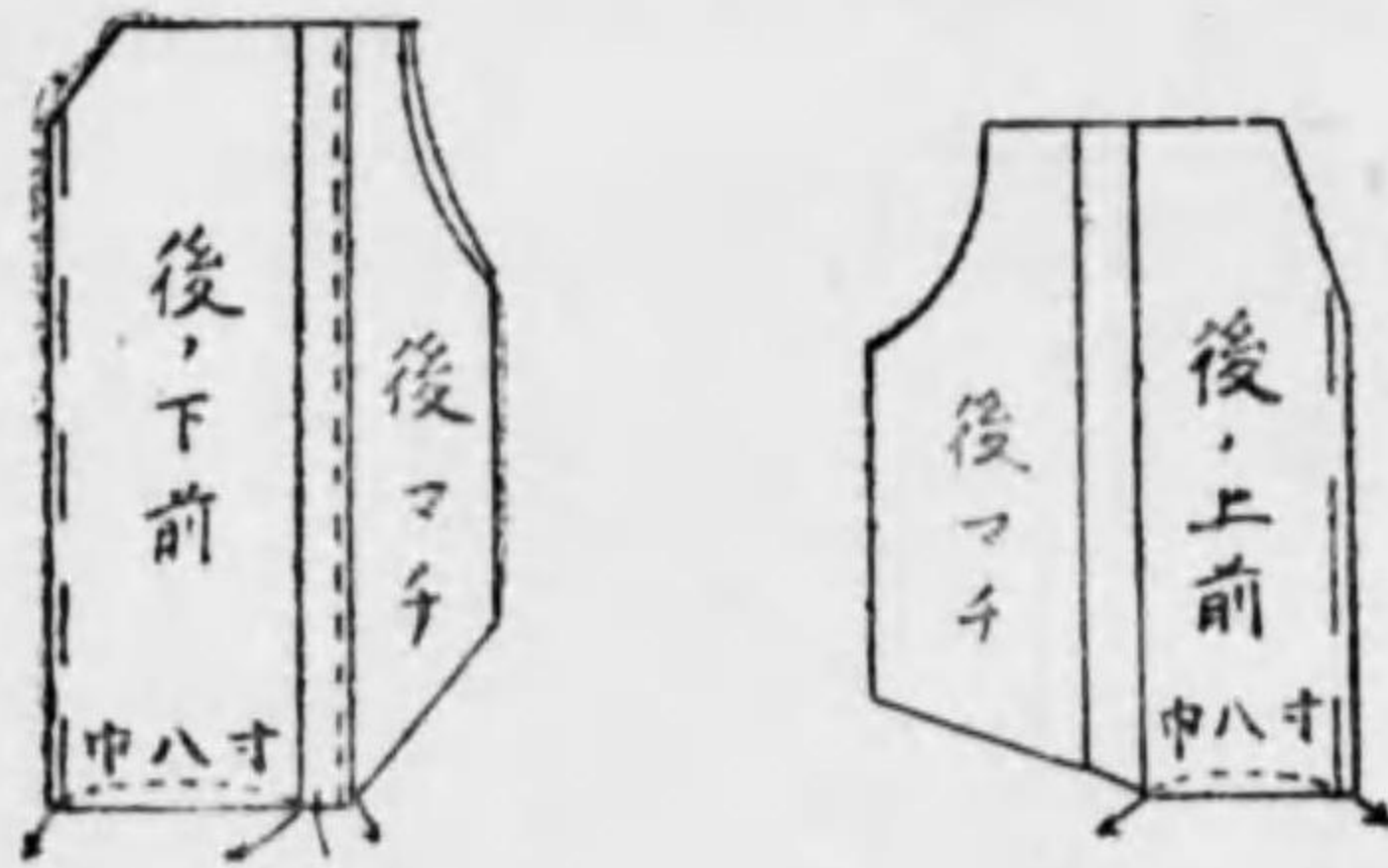
縫ひ合せ標



先づ前の縫ひ合せ標の圖を見て、最初に後布を出して投げを縫けるのでありますが、其の縫け方は針目を三四分位として表に小針に出して縫け、次に後襠を出して襠丈の二尺四寸五分の所と、後布丈二尺四寸五分の所とを合せ、裾口を揃へて針目を細かに縫ひ、後襠の方に返して、次に脇布丈の短い方つまり二尺四寸の所と、奥布の長い方二尺四寸の所とを合せ、裾口を揃へて縫ひ、奥布の方に返します。次に前襠を出して丈の長い方の一尺六寸の所を、奥布の短い方の二尺三寸二分の所に裾口を揃へて縫ひ附け、前襠の方に折返します。次に脇布の長い方二尺四寸八分の所と、後布の相引の所とを縫ひ合せて脇布の方に折り返します。次に前襠の一尺四寸と、後襠の一尺四寸の所とを合せて縫ひ、折り目は前襠の方に返し、こゝだけに針目を五分位にして表に小針に一針出して隠し袷を掛け、次に裾口を幅二分五厘づゝ三つ折にし

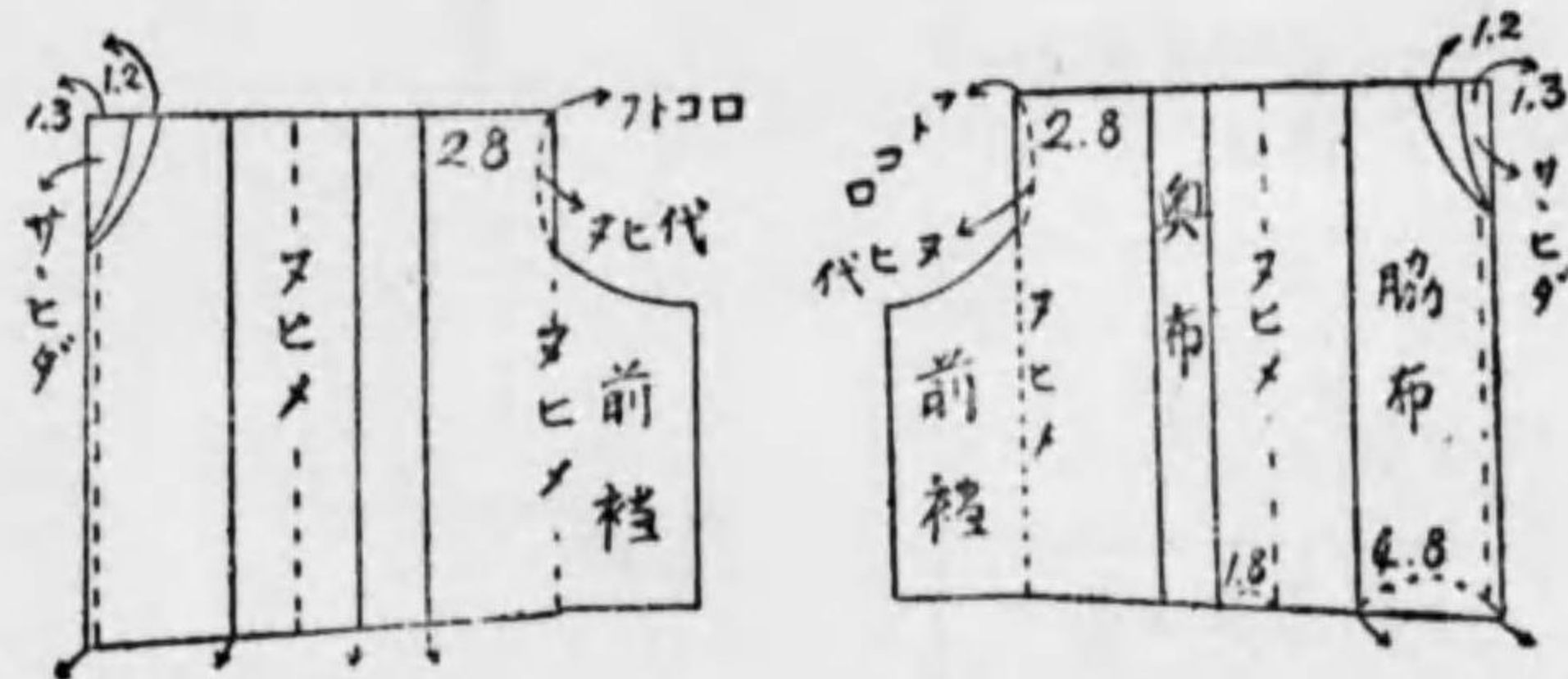
後幅八寸三分の所で、小さく二つ襷を取つて針目を三分位に、表に小針に出して裾口を締め、右の様にして左右の足を縫ひ、次に八番目の所は左右の足を揃へて、はじめ表を見て浅く縫ひ引き返して裏を出し、胯、つまり八番目の所を袋縫ひにし、折は背縫ひの返しと反對にします。
 (胯の所は仕上げましてから其の裏へ真綿を當て、おく事もありません。
 次は襷の取り方であります。

(一) 後襷の取り方

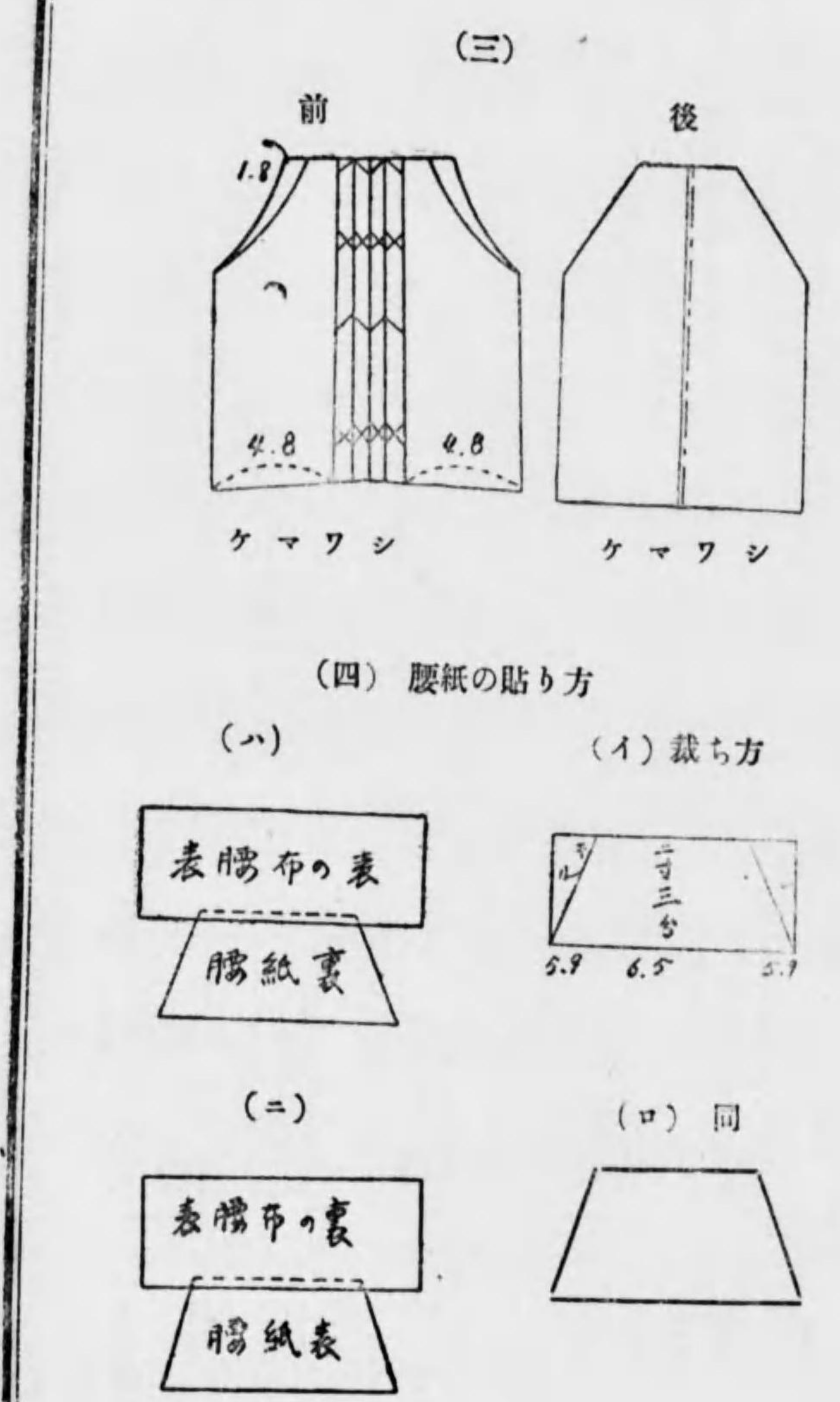
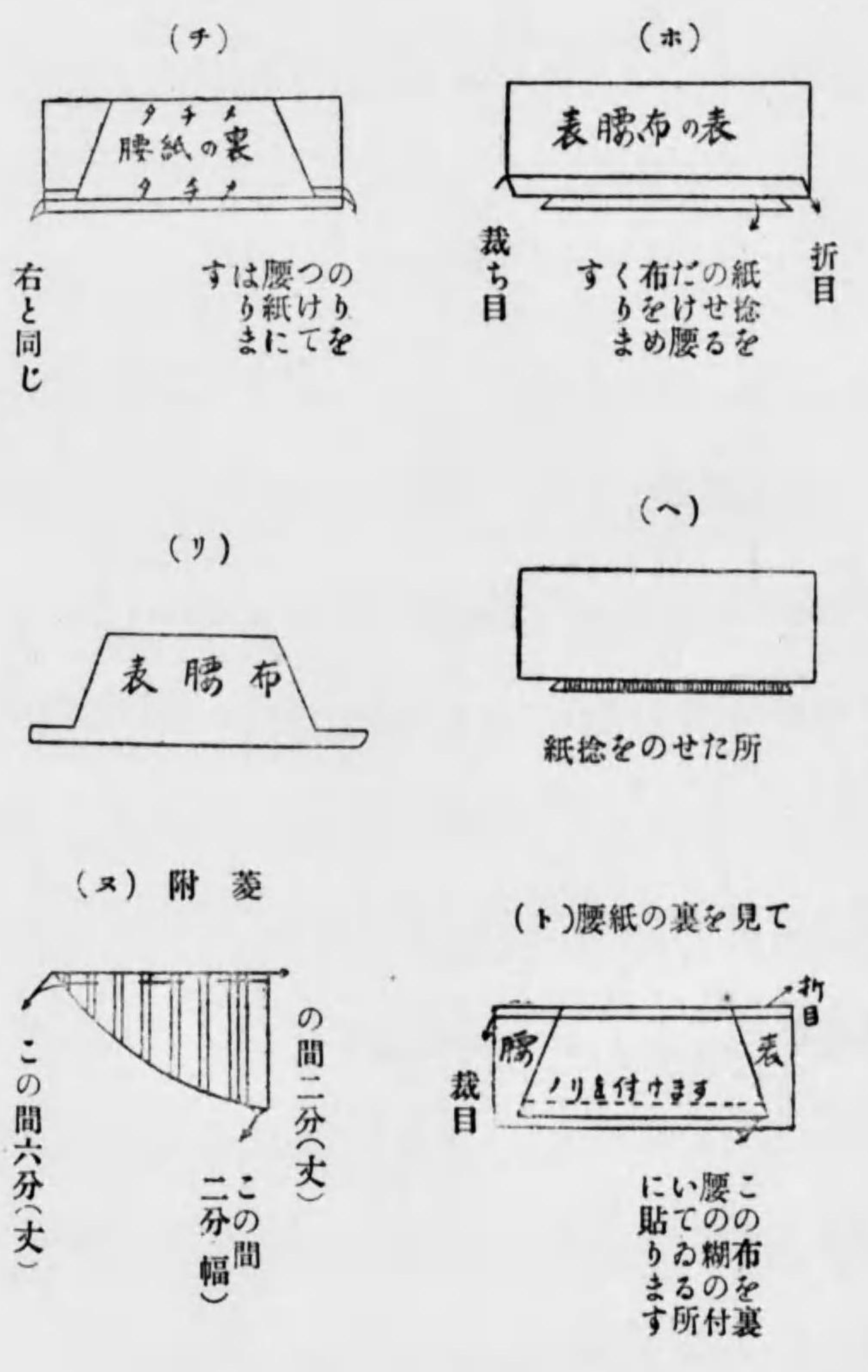


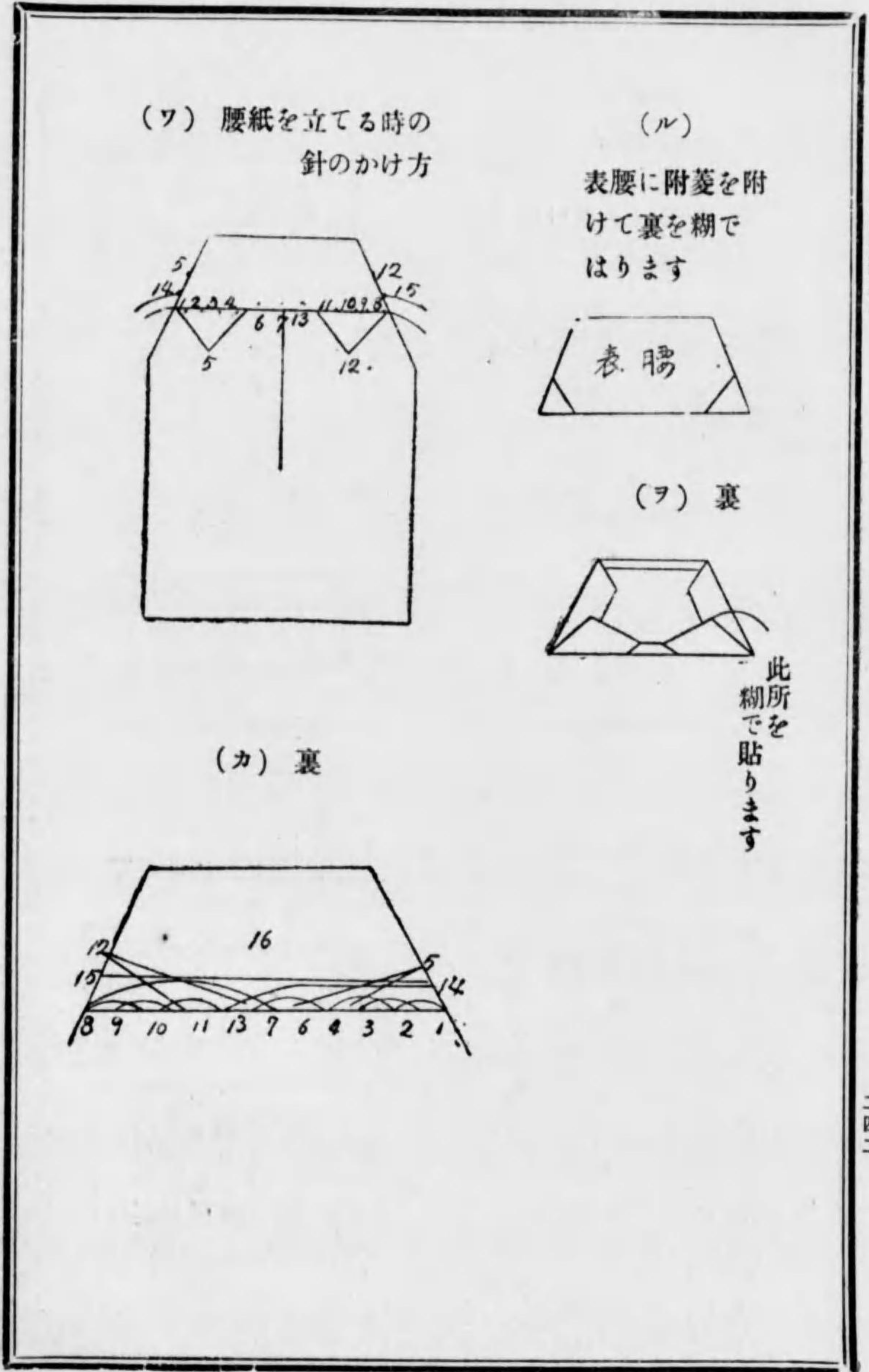
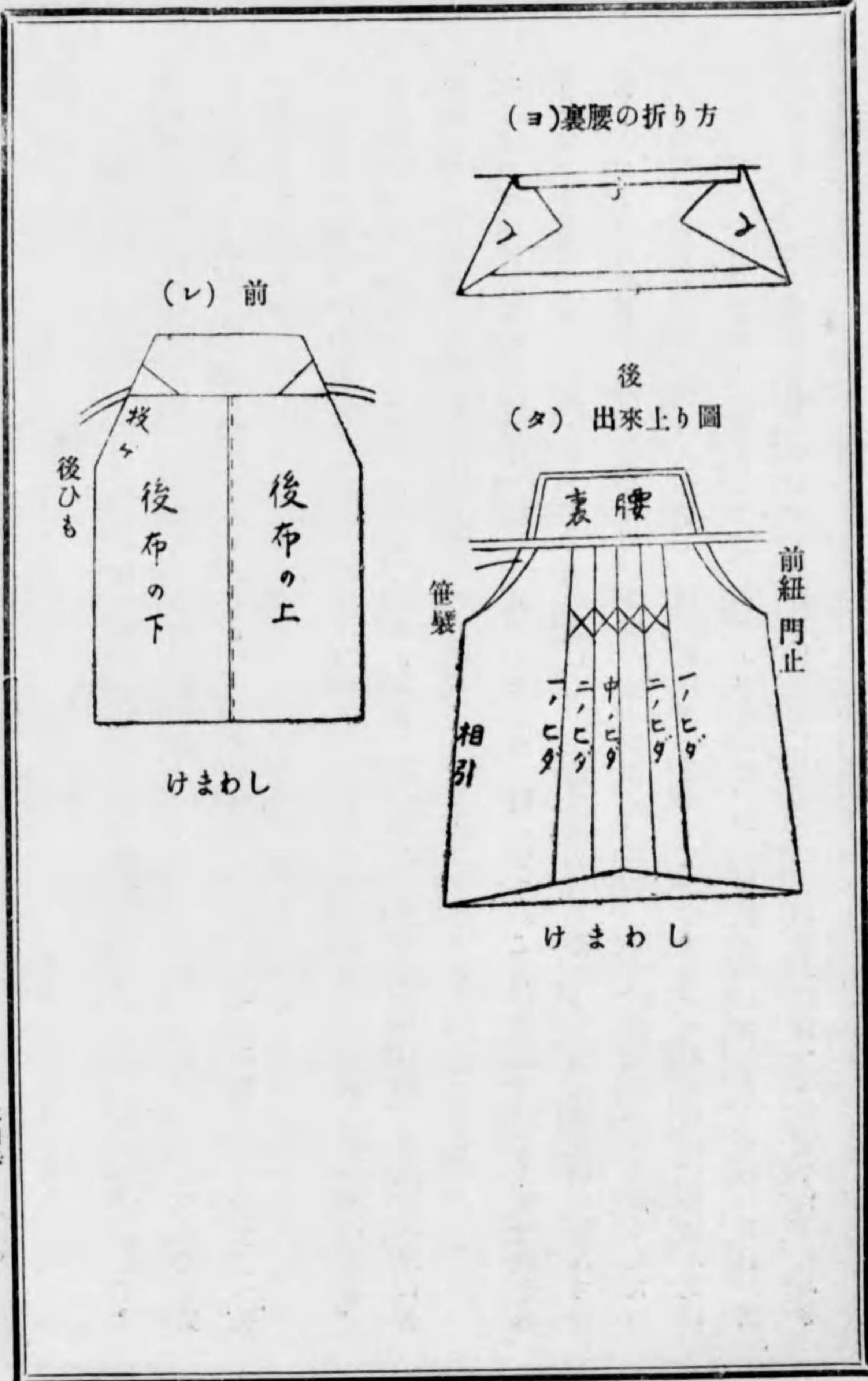
折目
この間八分か一寸
折目
相引の縫ひ代

(二) 前襷の取り方



折目
折目
折目
相引縫代





○襞の取り方説明

第一(一)圖の様に、後布の上前は相引の縫ひ目から後裾の方に後幅上り八寸の所に折を附けまして、後下前の方は相引の縫ひ目から後幅八寸の所に標を附け、そして折を附け、其の折から又後裾の方に幅八分か一寸の所に折を附けるのであります。(但し後は、上前に一つ折を附け、下前に二つ折を附けます。)

次に前布の襞は、(二)圖の様に相引の縫ひ代を取り、それから奥布の方に幅四寸八分の所に折を、裾口から真直に折つて一の襞とし、次に脇布と奥布の縫ひ目から又奥布の方に幅一寸八分の所に折を附けて、これをこの襞といたしますが一の襞と二の襞とは、裾口で寸法を定めます。

次に懷の縫ひ目から奥布の方に、幅二寸八分の所に折を附けますがこれは裾口でなく上で寸法を取ります。そしてこれを中襞とします。右の様にして上前下前の折を附けましたら後上前の幅八寸の折と、後下前の幅八寸の折とを合せて、下前の方は後幅八寸の折目から、又八分か一寸廣くした所から後裾を折返して、後幅八寸の折と、懷の縫ひ目とを合せて上の方を一寸程の間は、後裾も共に五枚で襞をかけ、それから裾口までは、四枚で襞を掛け、次に後裾の中に新に左右の端に折目が出来ますから、其の折を左右共裾口まで真直に折りましたら次に裾口を右に持つて布を平に下におき

中襞の二寸八分と二寸八分とを合せて、上前を上、下前を下にして中襞幅の二寸八分を二つに折つて上前の二寸八分の折と、懷の縫ひ目とを揃へて、中の折目を裾口まで真直に折り、次に二の襞の折を、中襞の二寸八分の折から裾口で一寸六分とし、此處まで折り返しまして次に一の襞も二の襞の折から一寸六分とし、そして此所まで折り返し、上の方は紐下の所で襞幅を八分づゝとして(三)圖の様に寄せ襞を取り、裾口から三寸上つた所で、後布に針を通さない様にして兩千鳥にし、又上の方も上から三寸下つた所に右の様にして次に上の極く端を裾口から三寸上つた所を、上から三寸下つた所の中央とにつまり二箇所の兩千鳥の中央とに片千鳥をし、そして次に襞を取るのではありませんが其の取り方は、はじめ布の縁の所を伸しておいて、縁から幅一寸三分取つて、相引の止りでは、相引の縫ひ代だけにして、幅一寸三分の所から斜に折を附けて裏に折り返し、次に紐下の所で今折りました幅一寸三分の折から、幅一寸二分の所に標をして、(三)圖の前の様な形に折り、相引の止りから四分か五分上で、自然に消えます様に襞を取り、前幅を紐下の所で左右に四寸づゝ八寸とし、左右の襞を同じ形に取り、其の上に白紙をおいて鍔をかけ、よく折を附けましたら縮けるのであります。その縮け方は、襞幅一寸二分の折の所を、布の間で其の折より一分中を、針目五分位にして、裏に小針に一針出して綴ぢ、次に襞の口元を裏表に針の出ない様に縮け、次に左

右の相引の止りに、目立たない様に門止めをしましたら裾口を相引の止りから一寸程上の所まで折り返して丈を三つ折にして壓をおき、それから紐を締めるのであります。

紐の締め方は、後紐は二本締め、はじめ一方の先を縫ひ、(芯と共に) 引返して表を出して片端を一寸程締め残して、芯を入れます時は、一本の紐は芯を向うにして一本は手前に入れて、左右の紐が出来る様にして締めるのであります。

(袴腰の表には紐芯の入つた方を出します。)

次に前紐は布の長いのを中央にし、左右の短い布を掛け接ぎにいたしますがその仕方は縫ひ代だけ取つて其所に折を布の裏に返し、縞を合せて縫ひ二枚縫ひ合せておき、絹糸を二つに割つたものか又は羽二重糸で布目を一本抄つて針を通し、糸をよく引き、そして縞を抜き、縫ひ代は左右に開いて釦をかけ、次に芯布と一緒に紐の左右の端を縫ひ、そして紐丈の中央を一尺残して締めましたら今度は袴腰を裁つのであります、其の裁ち方は、(四)圖の(イ)の様に長さ六寸五分、幅二寸三分の長方形の紙を切つて、手前の右の角から向ふの方に尺を斜に左の方五寸九分の所に標を附け、其標から左の方の端を自分の前で一杯にし、斜に標を附け、次に前で左の角から右向うの方に尺を斜に五寸九分の所に標を附けて其の標から手前右角まで斜に標をし、左右の端の斜の標を裁ち落して

(ロ)の様な形のものとし、次に紙を揉み、皺を伸し、裏腰布に附菱布との四分の端に、極く浅く糊を附けて是を紙に貼り附けましたら腰紙の裏の上の方に(ハ)圖の様に糊を附けて其所に表腰布を貼り附けて(ニ)圖の様に腰紙の表の六寸五分の所にも極く端の方に糊を附けて其所に表腰布を貼りつけた所を剃して其所によく折を附けましたら、紙の幅を四五分位に切つて是れを細く捻り、丈三寸五分位に切つて糊を附け、腰紙の角の所に左右の両端を同じ様に残して中央に紙捻を(ヘ)の様に置き、次に(ト)の様に腰紙の裏を見て、糊を附けて表腰布を貼り、(チ)の様に、左右に残りました腰布の端に糊を附け、腰紙の裏に貼つて(リ)の様にいたしましたら今度は附菱布を出して(ヌ)の様に堅は幅二分真直に折り附け、右の角は丈二分の所に標を附け左の端は丈六分の所に標をして其所を斜に折つて(ル)の様に表腰の高さ二寸五分の中央から二分の所に附菱の先をおき、下の方は腰紙六寸五分の三分の一の所に附菱をおいて左右共同形にして(ヲ)の様に腰紙の裏に附菱を貼り附け、次に糸を二本捻り合せ、後紐を出し、紐幅の山と腰紙の斜になつてゐる所の山を揃へ、紐で腰紙をくるみ、腰紙の六寸五分の方の角から、紐幅だけ上つた所で紐と腰紙に針を浅く通して糸止めをし次に紐の締め代で腰紙をくるんで、此所で紐の裏表の針を出して後紐を縫ひ附け其の糸を切らずに紐の締め残しを締めつけておき、次に前紐には、半紙を幅一寸三四分位にして八枚をよく揉み、皺を伸

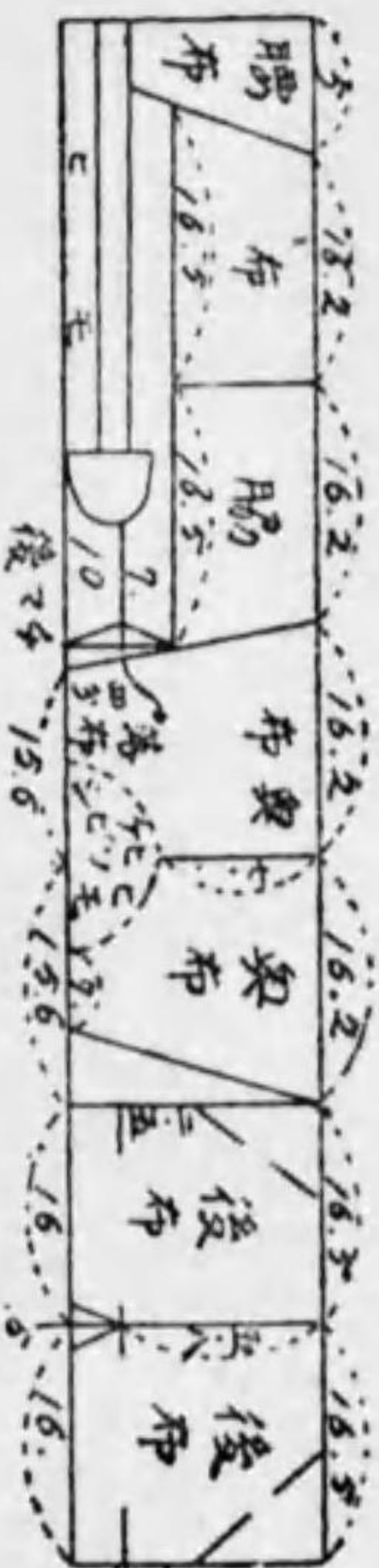
して紙丈の中央と前紐丈の中央とを合せて縫ひ付け、紐下の所に前紐を附ける標をいたしますが其の附け方は、前幅の中央で、紐下の丈の標をし、左右の端は紐下の標より二分長くし、少し弓形に標を附けて其の標通りに前紐を捻り糸で返し縫ひにして附け、そして縫ひ込みの厚さがすべて平になる様に紙や布を入れて、紐を締め附けます。次に後は紐下標の所に腰紙をのせ、左右の附菱の所に待針を刺して裏表布を出し、幅の中央と腰紙の中央とを合せて待針を刺し、裏腰布を手前にして腰紙の(ワ)圖の様に針をかけて袴腰を立て、次に裏腰の折り方は(ヨ)圖の様に折り、表腰紙の角から幅二尺程入った所に糊を附けて裏腰布を貼り附けましてからはじめ袴を丈三つ折にいたしました通りに折つて、前後の紐を共に、前幅の止りから二寸づゝ左右に出してたゞみ厚紙を幅五分位のもの二枚、七分のもの一枚を切つて七分の紙で紐の中央を封じ五分の方を紙で、左右の前幅の止りを封じておきます。(タ)と(レ)圖は其の出来上りの圖であります。

○小裁綿布男袴

○裁ち方と積り方

並幅の長さ一丈三寸の布で七つ子袴の裁ち方。後丈一尺六寸五分、後紐一尺四寸、前紐六尺内外、腰布五寸として。

裁ち方の圖



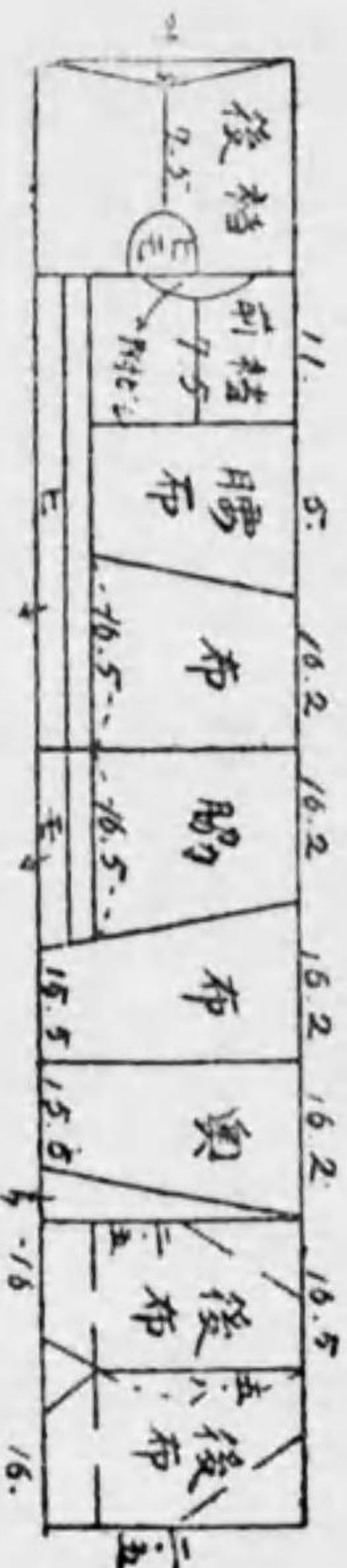
積り方

(總尺-腰布+裁交ひ)÷6=後丈

總尺 腰布 裁交ひ 後丈
 103.1 5 = 98. 98.1+1.2=99.2 99.2÷6=16.5

奥布の裁ち落しから附菱を取つて其の残りを前紐の足し布にいたします。並幅の、長さ一丈三尺の布で七つ子袴の裁ち方

裁ち方の圖



積り方

(總尺一前襟一腰布+裁交ひ)+7=後丈

總尺 前襟 裁交 後丈
130.-11.-5.=114. 14.+17=115.7 11.57+7=16.5

○縫ひ方

布の縫ひ合せ方や前後の腰の立方等は本裁ちと同じであります。

○襷の取り方

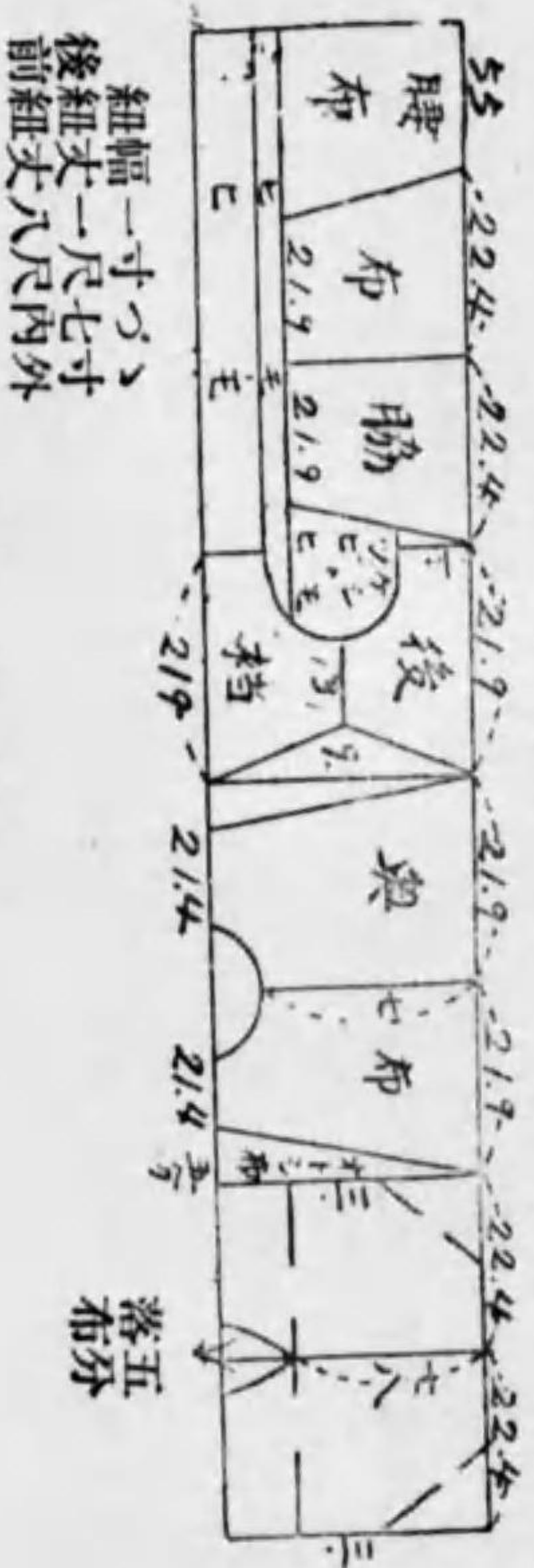
後布は幅標の所に折を付け、右後を上にし、左後は下にして布を三枚重ねましたま、襷をかけ、次に前襷は相引の縫ひ目から幅三寸三分はなして裾口から上まで真直に一の襷の折を付け、次に懐の縫ひ目から奥布の方に幅二寸五分はなし、又幅三寸はなして此の二箇所に折を附けます。次に寄せ襷を、裾口で一寸一分、上は紐下の所で幅五分として順々に折り、次に笹襷はじめ、九分に折り次に八分に折り、前幅に五寸五分か六寸にいたします。後腰を立てます時、本裁は附菱の所で四針縫ひ附けましたが、小裁ち中裁は附菱幅が狭いのですから、三針づゝ出し、全體で十四針で終るのであります。

○中裁綿布男袴

○裁ち方と積り方

並幅の長さ一丈七尺の布で中裁馬乗袴の裁ち方

裁ち方の圖



積り方

總尺 腰布 前襟 後襟 後腰 奥布 前布 後布 袴五分
170.-5.5=164.5 164.5+2.5=167. 167.=7=22.4余

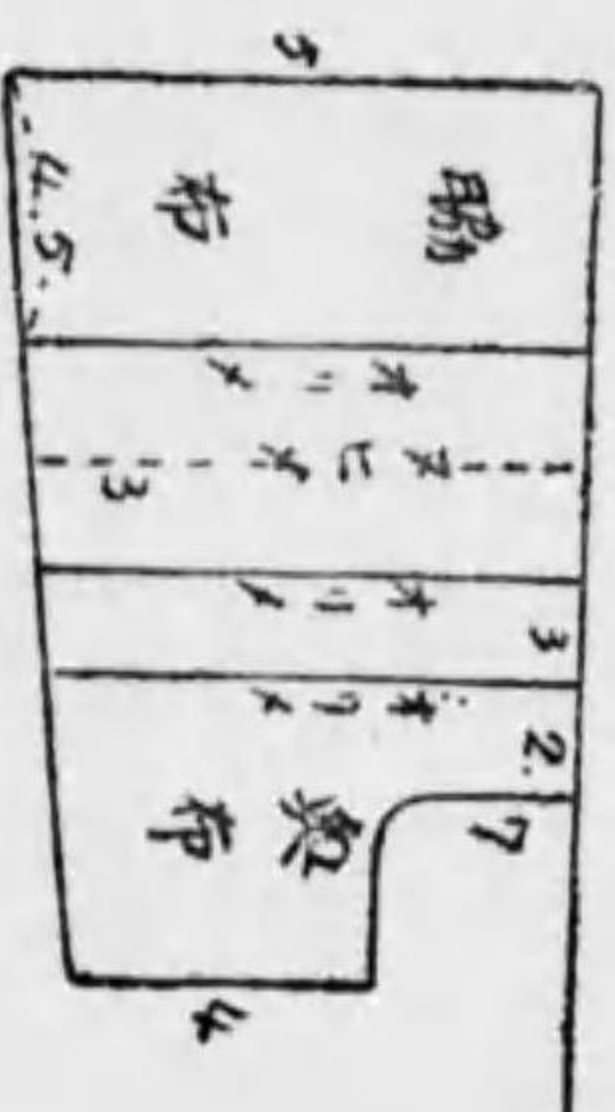
○縫ひ方

次の圖の数字は、縫ひ方の順序であります。
袴腰の寸法や附け方は本裁と同じであります。

後布縫ひ合せ



前褄縫ひ合せと襷の取り方



○絹布本裁男袴

○裁方は綿布と同じであります。

○縫ひ方

綿布物と違ひます所は、縫ひ糸を絹糸にし又裾口を拵けます時、半紙を幅五分に切つて柔かく揉んで皺を伸し、布の裏で裾口の裁ち目に極く浅くそして薄く糊を附け紙を貼りましてから、二分五厘づゝ三つ折にして拵けるのでありますが、裾口に入れます紙は、糊で張らないで、箕で縫ひ付けてもよろしいのです。

又、仕上げましてから、胯の所の前後の縫ひ目を真綿でくるみ、綿を巻き縫ひに附けるか、真綿を

甲斐絹などでくるんで縫ひ附ける事もあります。
絹物でも地質の厚い時は、布を縫ひ合せます時、返し縫ひにし、縫ひ目を割つて仕立てる事もあります。

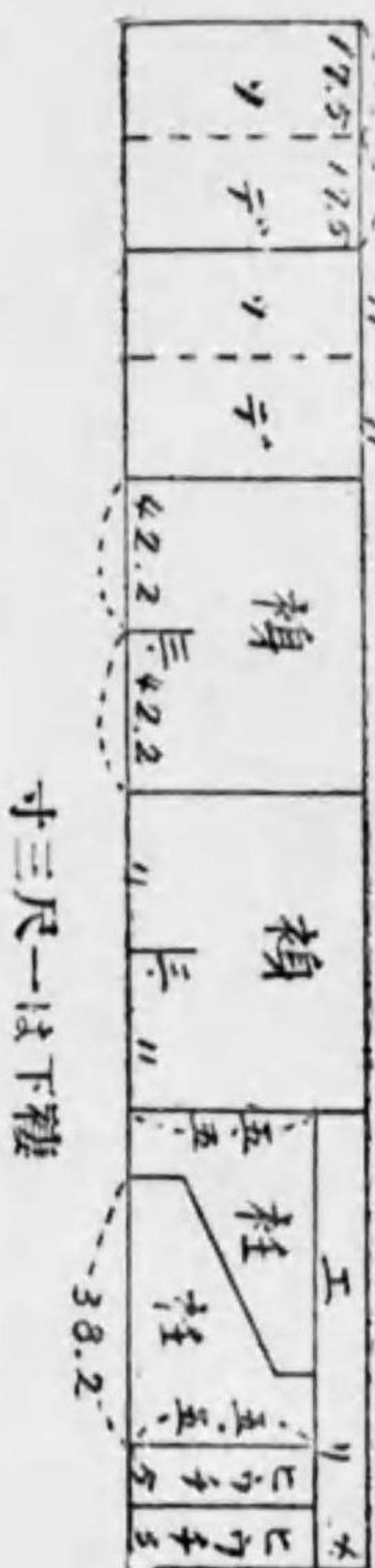
○夜着

○仕立上げ寸法

身丈、五尺四五寸、袖丈、一尺七八寸、衿肩、三寸、身幅は前後共一杯。襟下、二尺二三寸、衿下り、六七寸、衿幅と衿幅は一杯、半衿丈、三尺以上、肩當は木綿幅で三尺七八寸、綿は二貫目以上三貫目まで。

○裁ち方と積り方

長さ三丈の布で大夜着の表の裁ち方



積り方

$$\begin{aligned}
 & \text{袖丈} \quad 17.5 \times 4 = 70. \quad \text{襟尺} \quad 30.7 - 70 = 230. \quad \text{裾尺} \quad 230 - 13. = 217. \\
 & \text{ひうち} \quad 217. - 10. = 207. \quad \text{裾下り} \quad 207. + 4 = 211. \quad \text{身丈} \quad 211. + 5 = 42.2 \\
 & \text{裾下} \quad 42.2 + 13. = 55.2 \quad \text{裾尺下り} \quad \text{袴尺地} \quad 55.2 - 4. = 51.2
 \end{aligned}$$

積り方説明

袖丈の一尺七寸五分を、四倍した七尺を、總尺の中から引きますと二丈三尺となります。この中から裾下の一尺三寸を引きますと二丈一尺七寸となり、この中からヒウチ布の一尺を引きますと二丈七寸となります。

この二丈七寸に裾下りの四寸を加へて二丈一尺一寸となり、これを五で割れば四尺二寸となりますつまり是が身丈であります。この四尺二寸二分に裾下の一尺三寸を加へますと五尺五寸二分となり此の中から裾下りの四寸を引きますと五尺一寸二分となります。これが袴裾地であります。並幅で長さ五丈四尺の布で大夜着の裏地の裁ち方

裁ち方の圖



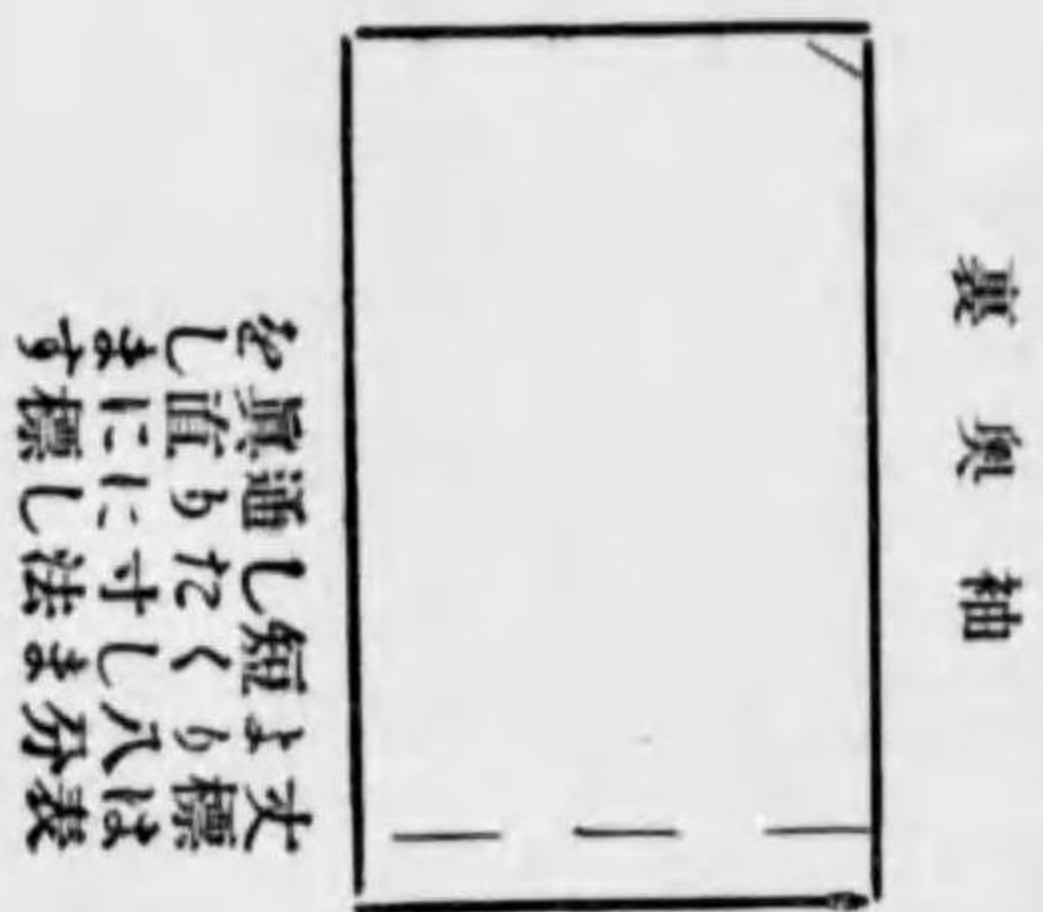
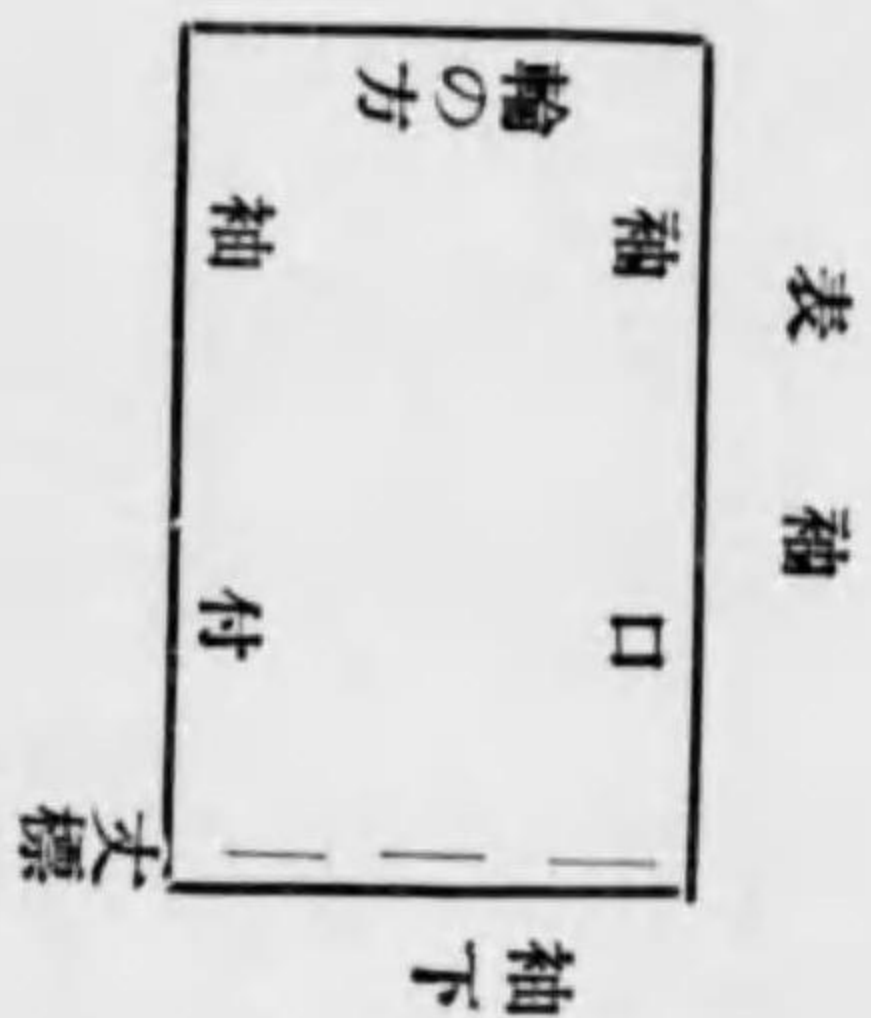
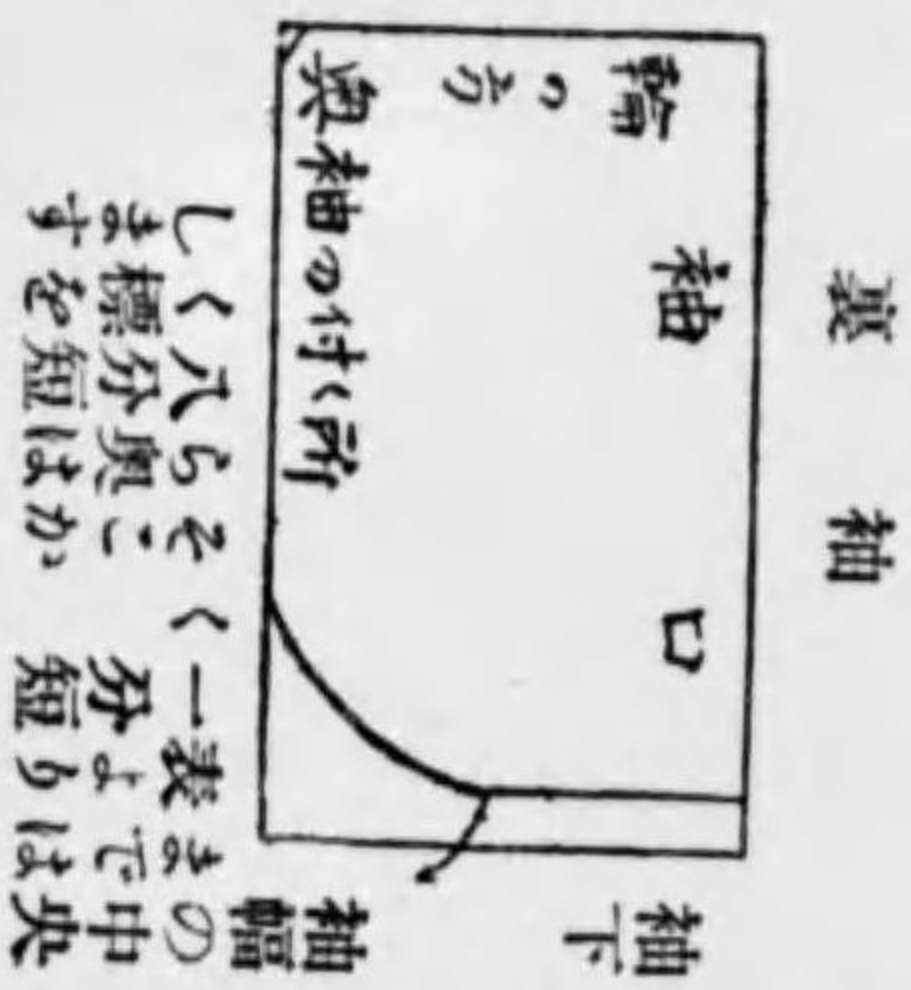
積り方

$$\begin{aligned}
 & \text{裏袖丈} \quad 17.5 \times 4 = 70. \quad \text{總尺} \quad 504. - 70. = 434. \quad \text{裏袖袖} \quad 16.7 \times 4 = 66.8 \\
 & 434 - 66.8 = 367.2 \quad \text{裾下} \quad 367.2 - 35. = 332.2 \\
 & 332.2 - 5. = 327.2 \quad \text{裾下り} \quad 327.2 + 4 = 331.2 \quad \text{身丈} \quad 331.2 + 5 = 66.2 \text{余} \\
 & 66.2 + 35. = 101.2 \quad \text{裾下り} \quad 101.2 - 4 = 97.2
 \end{aligned}$$

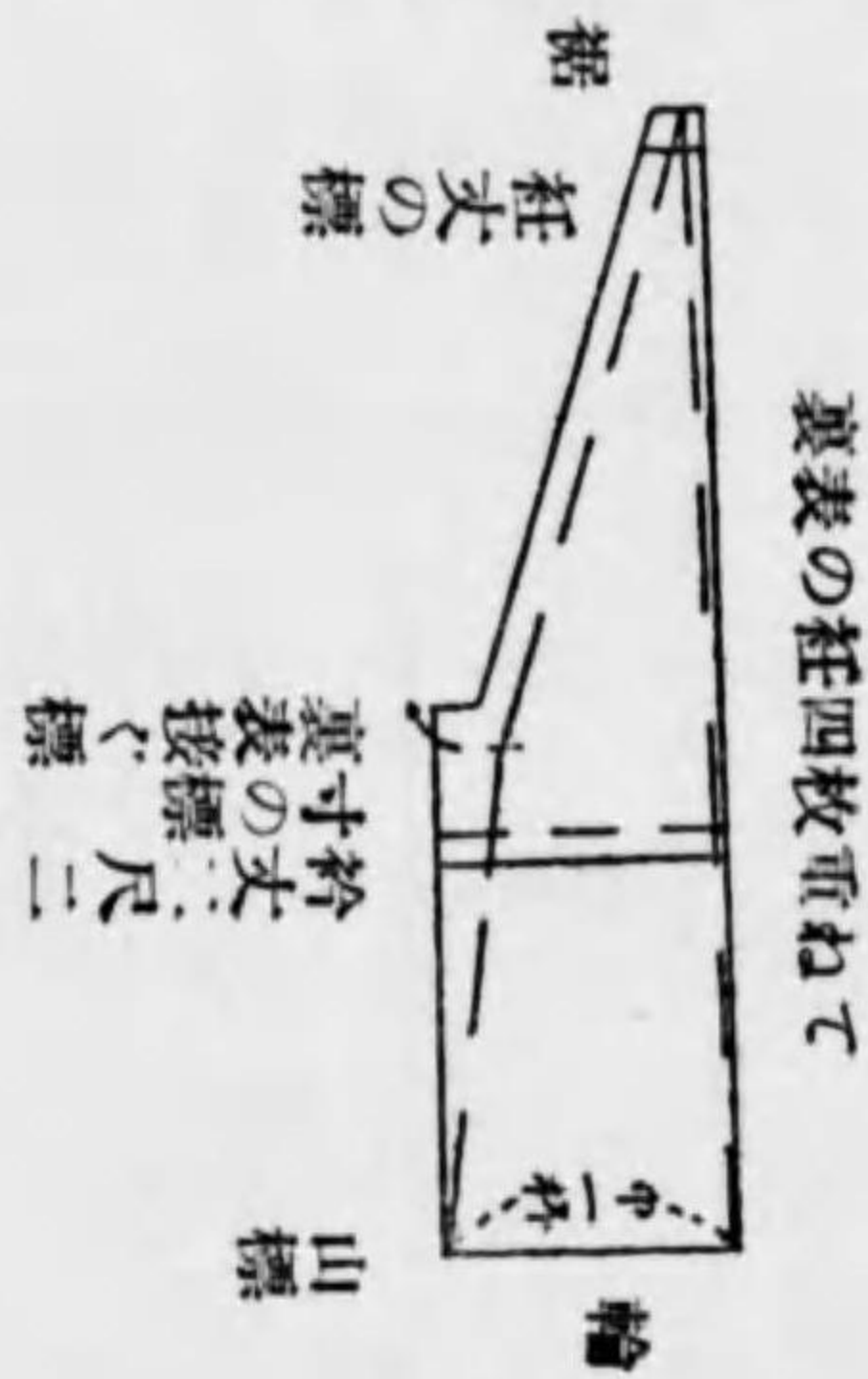
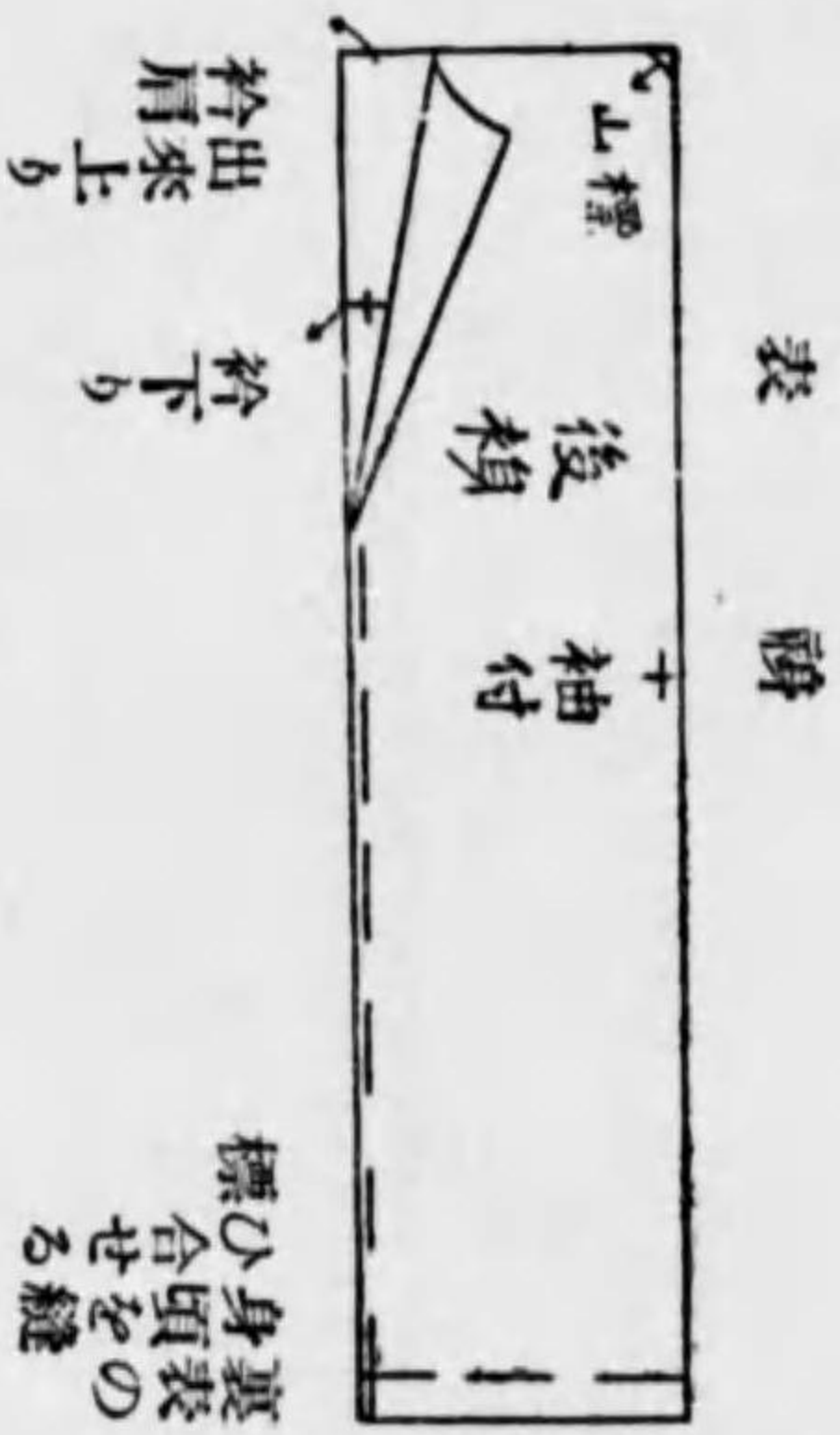
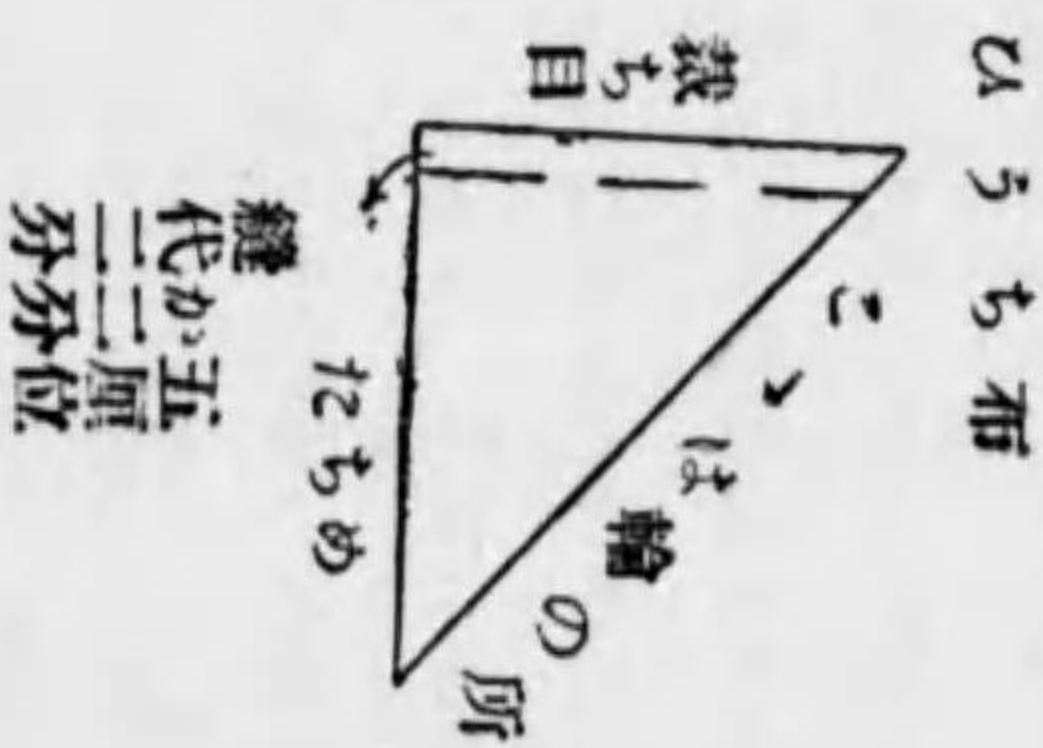
積り方説明

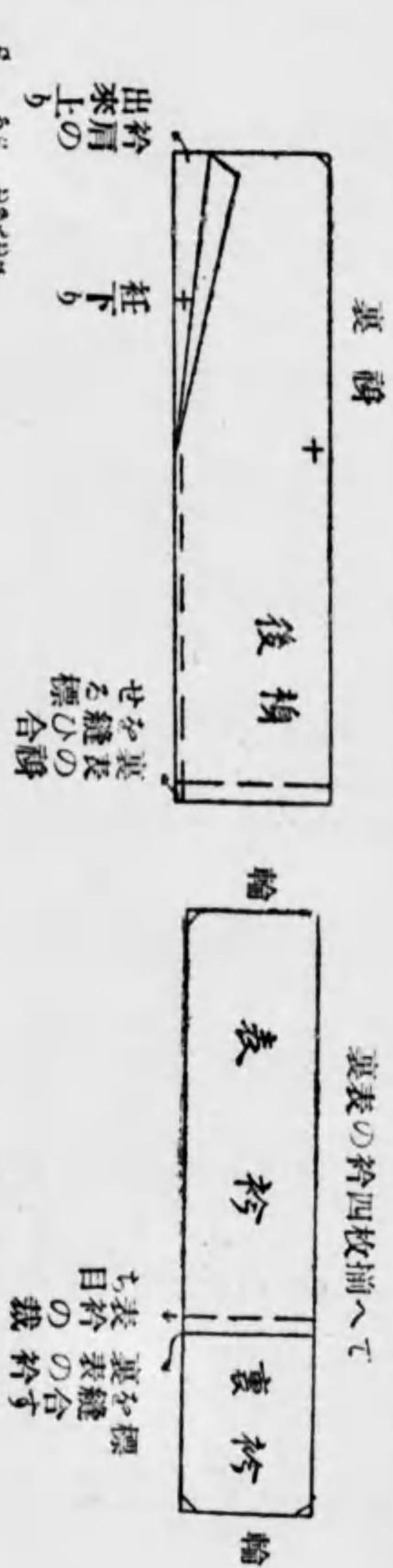
裏袖丈、一尺七寸五分の四倍の七尺を、總尺五丈四尺の中から引きますと四丈三尺四寸となります次に裏奥袖丈、一尺六寸の四倍六尺六寸八分を引きますと三丈六尺七寸二分となり又この中から三尺五寸を引きますと二丈三尺二寸二分となり、更に此の中からヒウチ布の五寸を引けば二丈二尺七

寸二分となります。
 是に衿下りの四寸を加へて三丈三尺一寸二分となり、これを五で割れば六尺六寸二分の餘となりま
 す。これが身丈であります。この六尺六寸二分に襦下の三尺三寸を入れますと一丈二分となりこの
 中から衿下りの四寸を引きますと九尺七寸二分となります。これが衿衿地であります。
 ○標の附け方



文標は表より八寸短くし、裏通しは八寸短くし、直にします。





最初に裏袖を出して、一分短くなつてゐる方を、表袖の袖口の方と合せて縫ひ、表袖の方に折り返し、針目を四分か五分位にして隠し襷を掛け、次に表袖の袖附の方(ひうち布)を入れまして袖口の裏表縫ひ合せました縫ひ目をよく合せて待針を刺しておき、其所に一針糸止めをして裏表の袖を縫ひ、ヒウチ布の所の縫ひ目は、皆袖の方に返しておき、袖下にも残らず針目を三四分位にして隠し襷をかけ、次に裏の奥袖を出し、ヒウチ布を縫ひ付けましたら、袖下を縫ひ、表の様に隠し襷をかけておきます、次に表衿を出して衿肩を右に持ち、背縫ひをいたしまして手前に折り返し次に後幅と肩幅の標を附けて折を附け、左右の脇を縫ひ、其縫ひ目は前衿の方に返します。今度は裏衿を出し、表にならつて背と脇縫ひをしますが、背縫ひの折りは、衿肩を右に持つて向う

に返します、又後幅は一分程せまくしておくのであります。
次に裏表の背と脇の縫ひ目と合せて待針を刺し、裾口を合せ五厘のキセをかけて表衿の方に折り返し隠し襷をかけ、次に裏表の前身幅の標を附けておき、そして裏表の袖を附け、表袖の縫ひ目は表袖の方に返し、裏袖は衿の方に返します。
次に裏表の衿を出し、裾口の所で堅縫ひの方を幅を揃へて裏表縫ひ合せ、表衿の方に折り返して隠し襷をかけ衿の、衿に附く方に折を附け、又隠し襷の方も前幅標の所に折を附け、衿の裾口の縫ひ目と衿の裾口の縫ひ目とを合せて待針を刺しておいて左右の衿は表衿下りから裏衿下りの所まで縫ひまして衿の方に折り返し、隠し襷をかけておきます。次に裏表の衿幅を揃へ、衿下の所に折を附けておいて、裏表の間から堅縫ひを縫ひその縫ひ目は表の方に返して隠し襷を掛けます。
次に裏表の衿を出し、裏表の衿丈を縫ひ合せ、表衿の方に折り返して隠し襷をかけましてから、衿下の止りで一針糸止めをし、そして裏表の衿を附けまして衿の方に折り返し、隠し襷をかけ、次に裏表の衿幅の標をして、衿先を四五寸の間、裏表合せて縫ひ、裏衿の方に折り返して其所に隠し襷をかけましたら裏表とも裏を出してたゝんでおくのです。
(但し双方の縫ひ目には、普通の仕立方の時は、針目を三四分位にして隠し襷をかけ、上仕立の時

は表からブシ袂をかけます。

○綿の入れ方

先づ表襟の裏を出し、後襟も前襟も平に下において裏襟は腰から上は出来るだけ平になる様にして裾口の方、つまり腰の所まで折り返しておき、全體に綿を幅も丈も五六寸位づゝ長くして背中から裾口や裾下や衿先等に綿をおき、裾口と衿先の所は綿を折り返し、袖附の止りの所で、普通の着物の様に前襟だけ綿を切りおき、左右の襟先の所を綿と布と一緒に綴ちておいて衿先から下の所だけ裏を綿の上に引き返しておき、次に前襟と袖と衿とに綿を三四寸長くして入れ、袖口の所は綿を折り返して袖口の批綿を作り、衿の所も綿を折り返して綿作りをいたしましてから表の襟の方から手を入れて右の手で袖口の所を持ち、左の手で表の前襟を持つて之を引き返します、右の様にして左右の前襟と袖口綿を入れましてから裏表の縫ひ目をよく引き伸ばして合せ、裏表を引き合せておきまして新けるのであります。

○新け方

最初に奥袖と袖口の方に縫ひ附けました奥の方とを合せ、裏から縫ふことの出来る所まで縫ひ、残りには新けまして、又布と綿とよく合ふ様 引き合せましてから裏表の縫ひ目を合せ、丈七八寸位づ

ゝ間をおいて糸の引き釣らない様にして綴ちます。其の針目は一寸位にするのです。次に衿の縫ひ目も裏表よく揃へて四五寸位づゝ間をおいて綴ち、次に裏衿の方に綿をくるんで衿を新け、衿先の所で衿の縫ひ目の所を十文字に綴ちます。次に肩當布を出し、横布にして後の方を一寸長くして衿肩を明けますが、背縫ひは附けませんから衿肩は縫ひ代だけ小さく明けるのであります。

次に肩當布の左右の端の裁ち目の所は、二つ折に裏に折り返して其所を針目三四分位にして縫つておくのですが、前後の中、一方が裁ち目で一方が耳の時は、裁ち目の方だけ二つ折にして左右の端の様に縫つておくのです。次に襟を合せて所々に待針を刺しておいて衿の廻りは假に綴ちておき、左右の端は其のまゝにしておいて、前後を、綿に針の通らない様にし、針目を一寸位にして表に二針づゝ出して綴ち附けましたら次に半衿を出し、幅の方を先に折を附け、次に横を折つて袂を付けておき、半衿の左右の長さを同じにして新け附けるのであります。

○蒲團

蒲團の種類には三布蒲團、四布蒲團、五布蒲團、鏡蒲團などあります。三布蒲團を仕立ますには、一反の反物を丈三つに切つて縫ふのであります。そして綿は九百目以上入りですが、まづ一幅について三百目入れますのが普通であります。又用布を積りますには丈を六倍すれば知れるのであります。

す。
四布蒲團の丈は五尺内外で、綿は一貫二百目以上であります。そして其の用布は丈を十倍すれば知れます。

鏡蒲團は、表地は五布蒲團と同じ寸法とし、裏地は布敷を二布だけ多くし、丈は表より一尺八寸以上二尺長くし綿は一幅について、三百目以上入れますのが普通であります。

○縫ひ方の順序

第一に布の表を中表にして二枚揃へ、針目を細かに縫ひ、裏にします方の中央の縫ひ目を三四尺縫はずにおき、其の縫ひ目は残らず一方だけに返し、その縫ひ目には、針目を三四分位にして残らず隠し簾をかけておくのであります。

○綿の入れ方

綿を蒲團の側よりも二三寸位長くして側の上におきこれを側よりも一寸位づゝ長くして折り返し、四隅を側と綿とを共に綴ちて其の糸を少し長くして切り、そして裏の縫ひ残しました所から手を入れて引き返しましたら双方を引き合せまして次に縫ひ残しました所を拵け次に一尺づゝ間をおいて綴ち附けるのであります。

尙、横で、一方の縫ひ目のない方を上にし縫ひ目のある方を裾の方にいたします。

鏡蒲團（額蒲團とも云ひます）の縫ひ方は、裏と表とを別々に縫ひ、（裏の中央の裏ひ目を三四尺明けて）次に裏と表とを揃へて其廻りを縫ひ合せ、その縫ひ目は表の方に返し、四隅は斜に縫ふのであります。

次にそのまわりに隠し簾をかけ、それから綿を入れて縫ひ残しの所を拵けましたら七八寸づゝ間をおいて綴ちるのであります。

表と裏とを縫ひ合せました縫ひ目の折を、表の方に返す事が多いのですが、裏、つまり縁の方に返す時もあります。

○手提袋

手提袋の表地には主に、羽二重、紋琥珀、鹽瀬、縮緬、縞診、厚板、縞子、毛縞子、メリンス、セル、羅紗などを用ひ、裏地には、縞診、縞子、毛縞子、羽二重、甲斐絹、瓦斯甲斐絹、シルケツト更紗木綿などを用ひますが、幅には並幅と二尺幅とあります。

○アンテランバツクの作り方

用布、並幅の長さ一尺三寸づゝの裏表の布で其の裁ち方と縫ひ方。

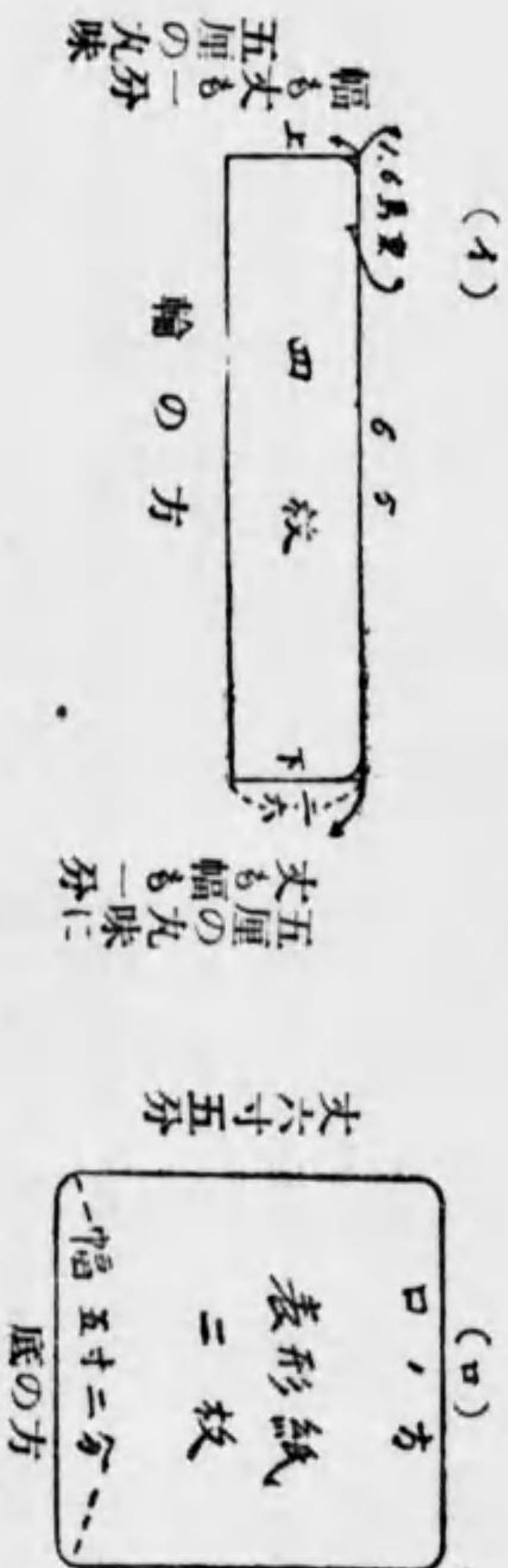
尙、附屬品としては、丸い口金が八個と、折紐が曲尺で四尺五寸要ります。
 ○裁ち方（用布は丈の二倍であります）

裁ち方の圖



裏表共、用布を裁ち切ります前に、形紙を作つて、其の形紙に合せて裁縫ひするのであります。
 ○表形紙の裁ち方

裁ち方の圖



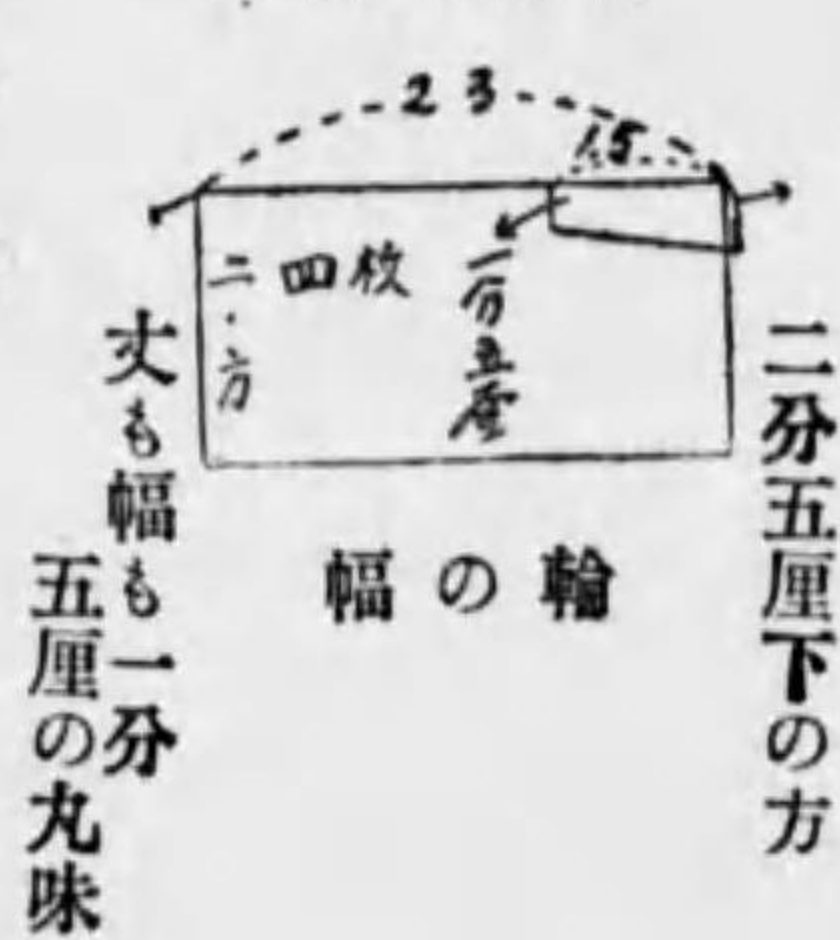
裁ち方説明

半紙二枚を、幅五寸二分、丈六寸五分に切り、二枚重ねましたま、幅を二つ折にして幅の輪を手前に丈を左右におき、左の向う角から右手の方へ丈一寸六分として馬乗の標を附けて其の標を山にして極く小さく三角形の切り込みを入れ、次に左右共向う角で幅丈一分五厘づゝに標を附け、その二つの標を標準に、小さく丸味の標をし、その標の通りに裁ち切り、そして幅の輪をひろげますと口圖の様になります。

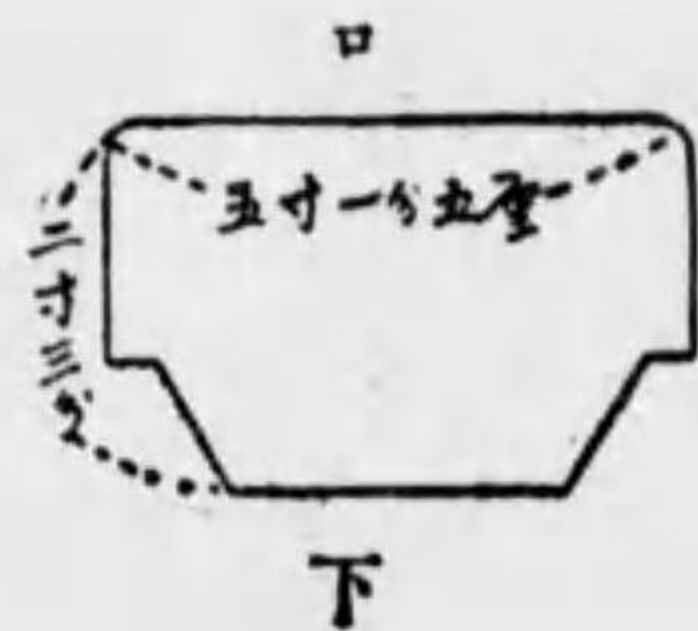
裏形紙の裁ち方

半紙一枚の中から幅九寸一分、丈二寸三分として二枚を取り、そして二枚重ねたま、二つ折にして幅の輪を手前に丈を左右におき、右の向ふ角から左の方へ丈一寸五分と標をし、其所で向うから手前に幅一分五厘真直に通し標をし、次に右の向ふ角から手前の方へ幅二分五厘と標をし、其の標と先に一分五厘と取りました標まで斜に通し標をしてそれを裁ち切り、次に左の向ふ角で幅丈一分五厘づゝに標をして表形と同じ様に丸く裁ち切るのであります。

裏形紙の裁方



所けげ廣



○用布の裁ち方

裁方圖の様に幅も丈も形紙より二三分大きく裁ち切ります。裏も表も同じにいたします。

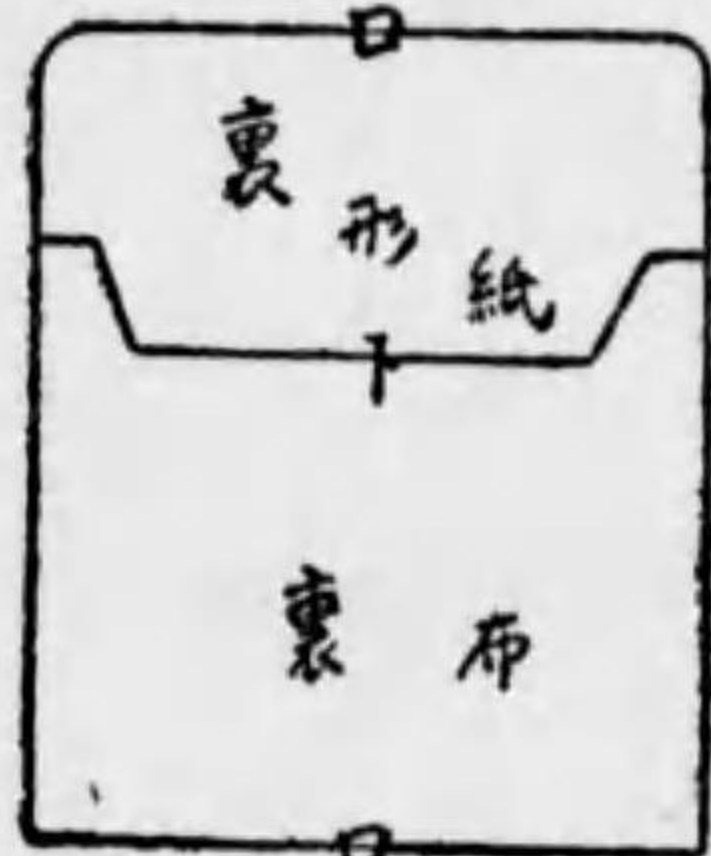
○貼り方

表形紙の廻りに、極く薄く幅一分通り糊を引きますが糊は姫糊をよく練つたものを、竹筥の先に附けて裁ち板の角で形紙をおさへ、右の手で引きます。次に表の用布を出して糊を引いた形紙の口底のちがはない様、この時表の模様上下を注意して用布の上に載せ、上下共少し表布を緩み加減に、廻りを貼りつけて形紙の方から鍔を當て、形紙通りに裁ち切りますが、三角形つまり馬乗の切り込みは、裁ち切らずにおくのです、一方も同じにいたします。

今度は裏形紙を出して廻りの、幅一分通りに極く薄く糊を引き、裏用布の上に、形紙の口を一杯にし、裏布の丈を少し引きつる加減に廻りを貼り付けて形紙の方から鍔をかけ、次に表形に合せて幅も丈も表形の通りに裁ち切るのであります。

裏布に貼り上げ

ました所




幅も丈も表の通りに
上の方の布を一杯に
貼り付け下を明けて
おくのです

○縫ひ方

まづ表形と裏形を中表に合せて次の圖の様に、左右馬乗共、馬乗の切り込みのある所から上の幅の中央まで半分づつ、口を一分縫ひ代にし、返し針で縫ひ、平鍔をかけ、次に裏の方から今縫ひました縫ひ目の際に、縫ひ目通り筥で折り付けの筋を立て、圓い所は格好のよいだけに縫ひ縮め、裏の方へ筋通りに折り返し、次に馬乗の所を縫ひ代だけ、裏表ともに切り込みをいれて引き返し、表を出し、毛抜合せになります様正しくするのであります。一方も右の様に拵へ、次に馬乗から下を裏

表よく合せ、出過ぎや、入り過ぎのない様に正しく裁ち切り、次に一方の裏表で、一方の裏表を挟んで馬乗止りから、馬乗止りまで、一分の縫ひ代にして返し針で四つ縫ひにいたします。この時、底の所に來ましたならば、幅の中央を約三寸位の間、挟みました裏布一枚残し、表二枚裏一枚都合三枚で縫つておき、平鍔をかけて裏の方から縫ひ目の際へ筋を引き、其筋の通りに裏の方へ折り返し、圓の所は格好をよく縫ひ縮めて縫ひ残しました所から引き返し、そして縫ひ残しました所を糸の見えない様に細かに新けて表を出し、双方の縫ひ目を正しくし、次に馬乗止りの所に小さく表と同じ色の絹糸で門止めをし、次になら口明の深さだけ入つた所で左右の縫ひ目の端から五分づゝ入つて糸標をし、その標と標の間を三等分して二つ糸標を付けましたら次に表布と同じ色の絹糸を二本捻りまして一本にし、口金を糸標の所に合せて圓の様に捻り合せた糸で固く二三度布から口金に通して綴ぢ付け、一方も右の様にしましたら次に表布と同じ色の打紐、長さ四尺五寸のものを二つに切り、一本は右端から通し、そして右で終り、一本は左端から通して左で終ります。そして紐の先を結んでおくのであります。

口明縫ひ




縫ひ終り 縫ひはじめ

中央 表 裏

底

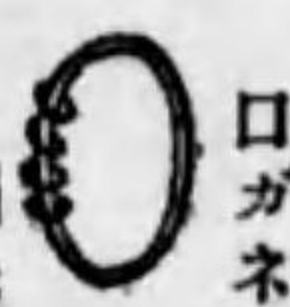
口金の付け方



馬のり 馬のり

底

口ガネ



絹糸で三四度固く

○紐先の結び方


(一)



(二)

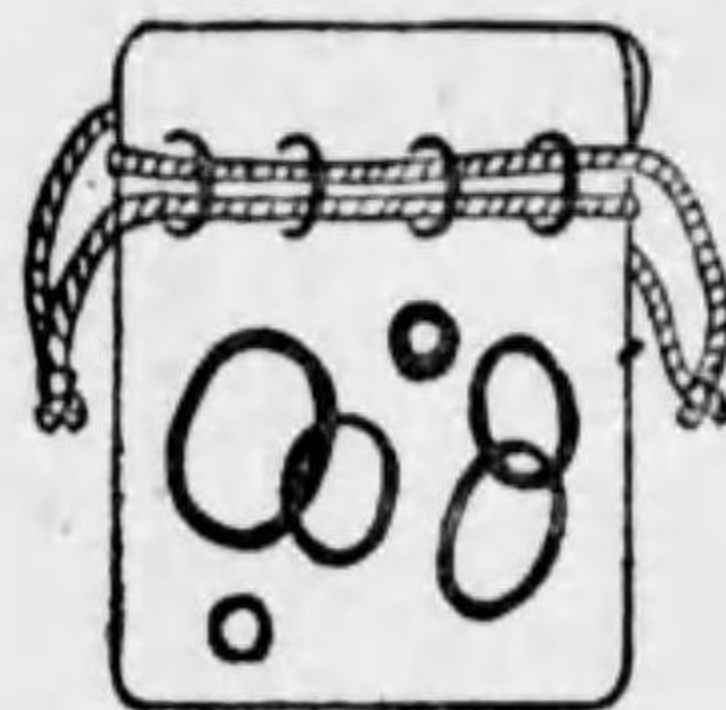


(三)



(一)圖の様に右手の紐を輪にし、其の中に左手の紐先を(二)圖の様に上から向うへ通し、其紐先を右手の方へ持つてゆき、又其紐先を右紐の輪の中へ、手前から向ふへ(三)圖の様に通して固く結んでおくのであります。

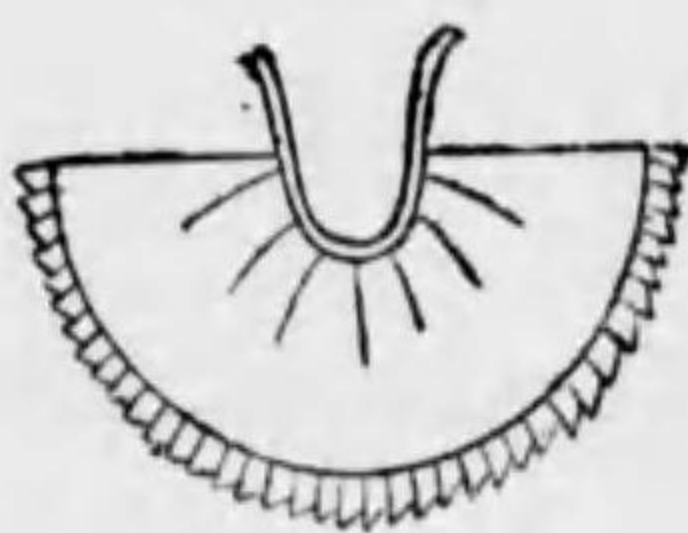
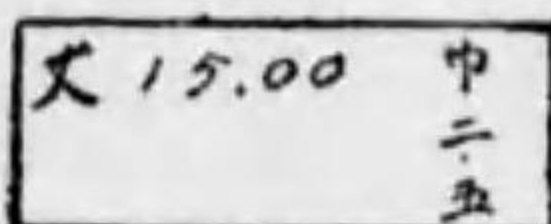
出来上りの圖



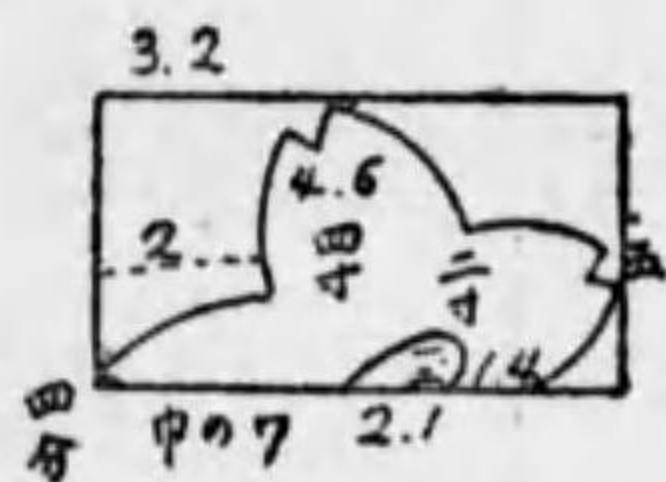
○日本形涎掛

○裁ち方

(一) 裁ち方圖



(二) 櫻形裁ち方圖



幅の輪を切ります



(一)圖の形に用ひる用布は裏表共幅二寸五分、長さ一尺五寸づゝ襜の布は幅一寸で丈は一尺五寸の三倍(片襜)紐布は幅一寸五分、丈は二尺要ります。

(二)圖の櫻形の用布は幅が八寸、長さが八寸、紐丈二尺、幅一寸五分要ります。裏の用布も表と同じですが紐には裏は要りません。

右の外に梅形、桔梗形などがあります。

○縫ひ方

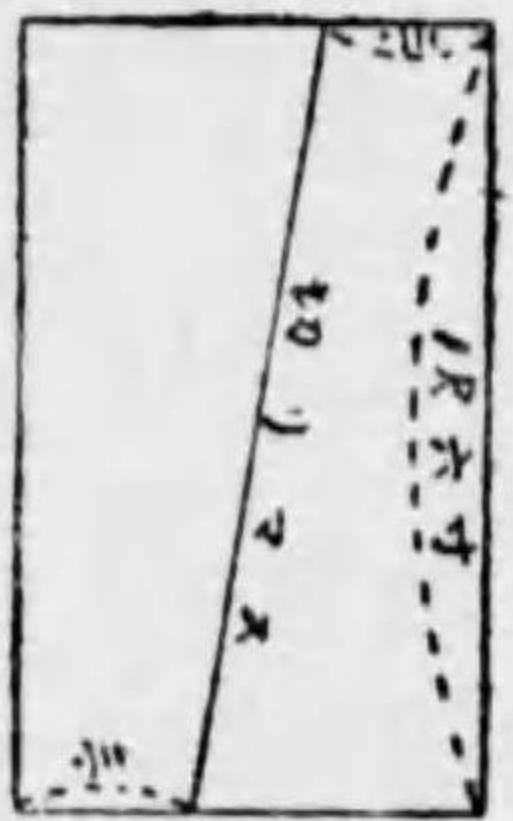
表の布を取つて輪縫ひか又はミシン縫ひで飾縫ひをし、其先に(櫻形、梅形、桔梗形ならば)前の圖の様に疵縫ひし、次に芯の布を表布の裏に綴ぢ付け、次に裏を合せて廻りを三枚共に縫ひ、引き返して廻りに表から輪縫ひかミシン縫ひをいたします。

但し地質の厚い布でありましたなら芯を入れる必要はありません。次に紐丈の中央と、首廻りの中央とを揃へ、紐を表に縫ひ付け、中に布か綿を芯に入れて五分位の太さにして締め、紐の両端に襜を三つか五つ取つて絹糸で止め、其の糸の長さを五分か一寸位にして切つておくのであります。(紐丈は一尺八寸から二尺位まで、幅は五分か六分といたします)

○寝冷知らずの作り方

並幅の長さ三尺一寸の布で五六歳の小児の寝冷知らずの裁ち方

(イ) 後襟の裁ち切



幅九寸五分

(ロ) 同



斜の線の中央で一寸出します

尚、年が一つづつ多くなるに連れて丈を一寸位づつ大きくして、**膊上と膊下とで伸し幅三四分位づつ廣くいたしなす。**

(ア) 幅を二つに折つて前を裁ちます



積り方

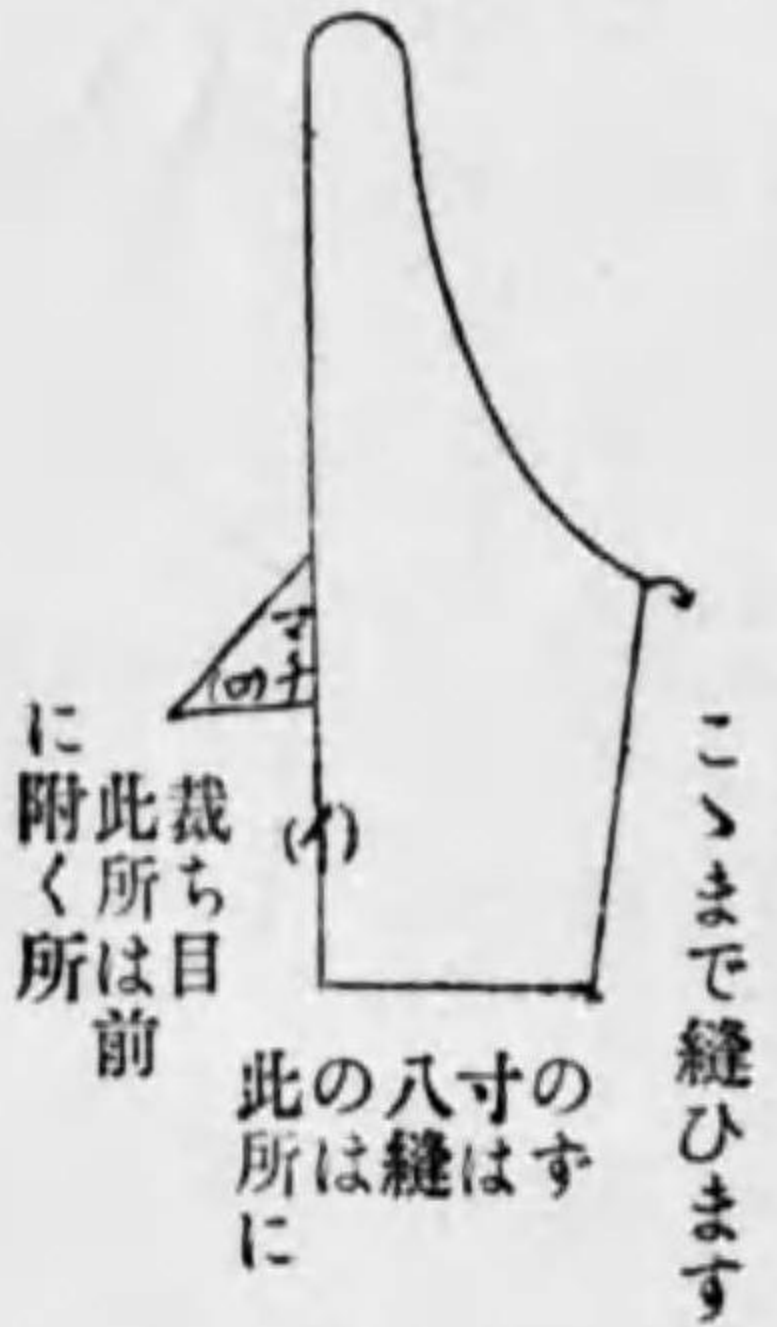
2身丈一前後の差=用布

身丈 16. x 2 = 32 前後の差用布 32. - 1. = 31.

○縫ひ方

第一に前後の裏表の布を出し、裾口を合せて縫ひ、裏の方に折り返し、今度は襷布を出し、布の表を出して三角に折りましてから次の圖の様に後襟の斜になつて居る所へ、裾口から三寸上つた所に襷を裏表の襟で挟んで縫ひ付け、其の糸で脇の八寸の所まで縫ひ、返して表を出しておき、今度は前身を出して前後の八寸の眞直の所を、前身で後身を挟み、裾口から八寸上りました所まで四つ縫ひにし其所で一針糸止めをし。

(イ) 後身に襷を縫ひ付ける所



(ロ)



出来上りの前



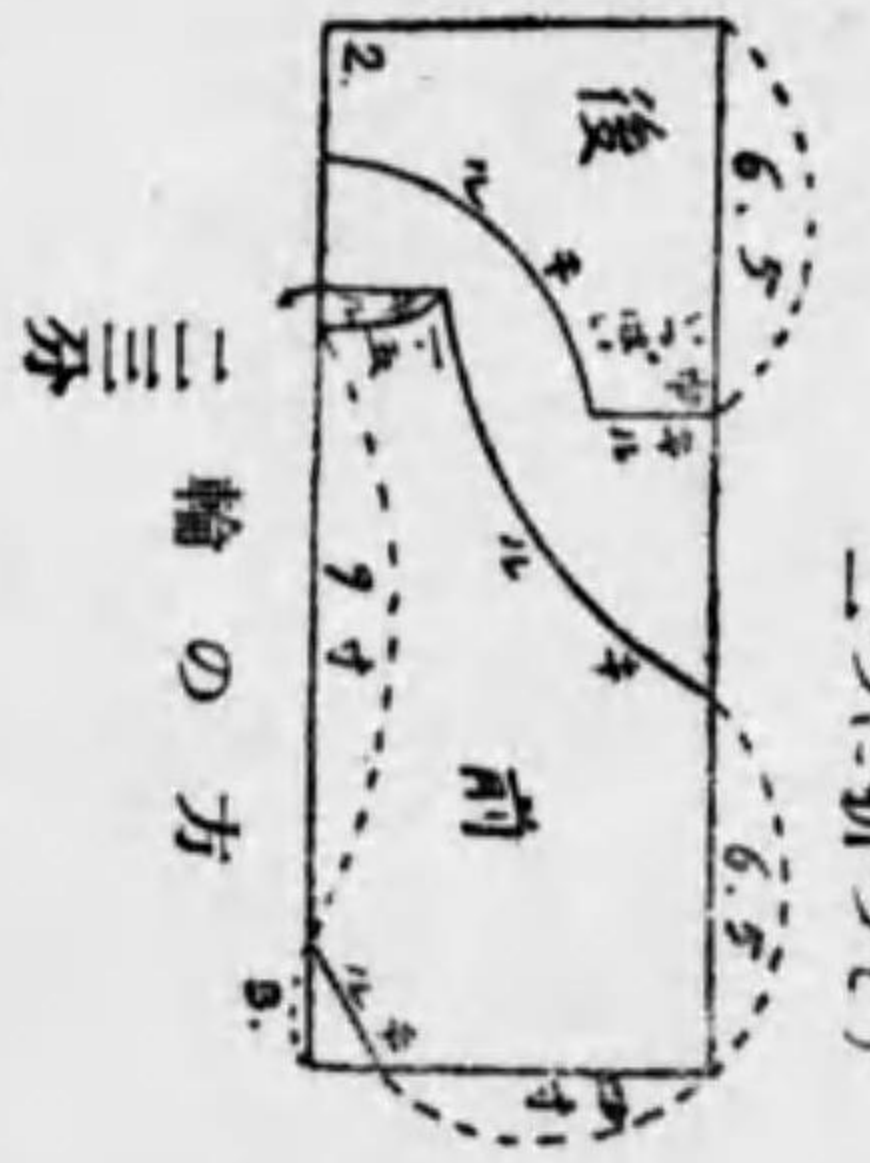
後出来上り後



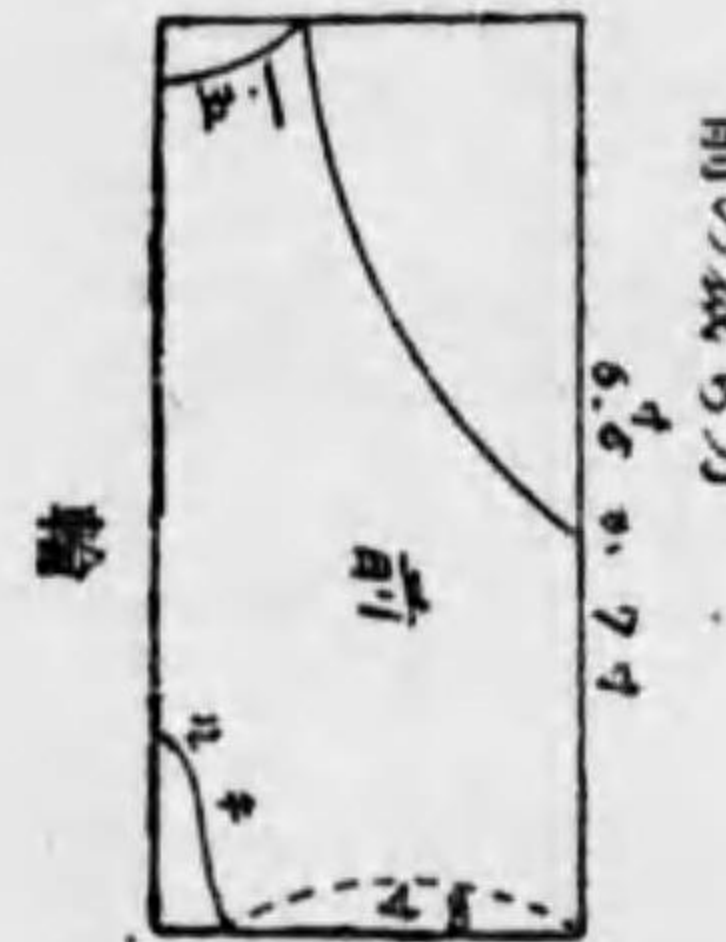
其の糸を切らずに、後を残し前を裏表で腰の所まで縫っておき、次に内脇の所も前で後を挟んでイ
 圖のイとロ圖の口とを合せて四つ縫ひし、裾の所で一針糸止めをし、其の糸を切らずに、前の輪を
 三寸切つた所と(イ)圖の裾の(ロ)と合せて前身で裾を挟んで四つ縫ひし、右の様に左右の脇と
 内脇とを縫ひ、腰の所から引き返してから腰を拵け、次に前襟のたすきの先へ穴を縦に一つ明けて
 そして穴結りをし、後襟の先に釦を付け、前襟の上の止りの所は、門止めをしておくのであります
 ○紐附寝冷知らす
 並幅長さ、一尺五寸の布で五六歳用の紐附寝冷知らすの裁ち方

裁ち方の説明

布を中表に、幅を二つに折つて幅の輪を手前におき、はじめ右の端で向ふから手前に裾口幅を四寸
 と標をして、次に手前で右から左へ膝下を三寸として裾口幅四寸の所から膝下三寸の所まで斜に標
 をし、次に膝下三寸の止りから左へ膝上を九寸とし、其所で手前から向うへ幅を一寸五分に標をし
 て其の間真直に標を付け、次に膝上九寸の標から右へ丈二三寸取つて一寸五分の所まで少し圓みを
 付けて腰の標をし、次に向ふで脇の丈を右から左へ丈六寸五分か七寸として、脇の上を圓の様な形
 に標を付けましたら左の端で、向うを左から右に丈、六寸五分か七寸の所に標をし、其所を幅一杯



(イ) 裁ち方の圖(幅を二つに折つて)



(ロ) 太つた小供の時の前の裁ち方

にし、其の間真直に標をし、次に手前で左から右へ胯下二寸に標を付けて圖の様に胯下二寸から脇丈の幅一杯の所まで形を付けて、標を付けましたら、前後共残らず標通りに裁ち切つて前後の禱といたします。

若し太つた小供の場合には(ロ)圖の様に前胯下に少し丸味を付けて裁つのであります。

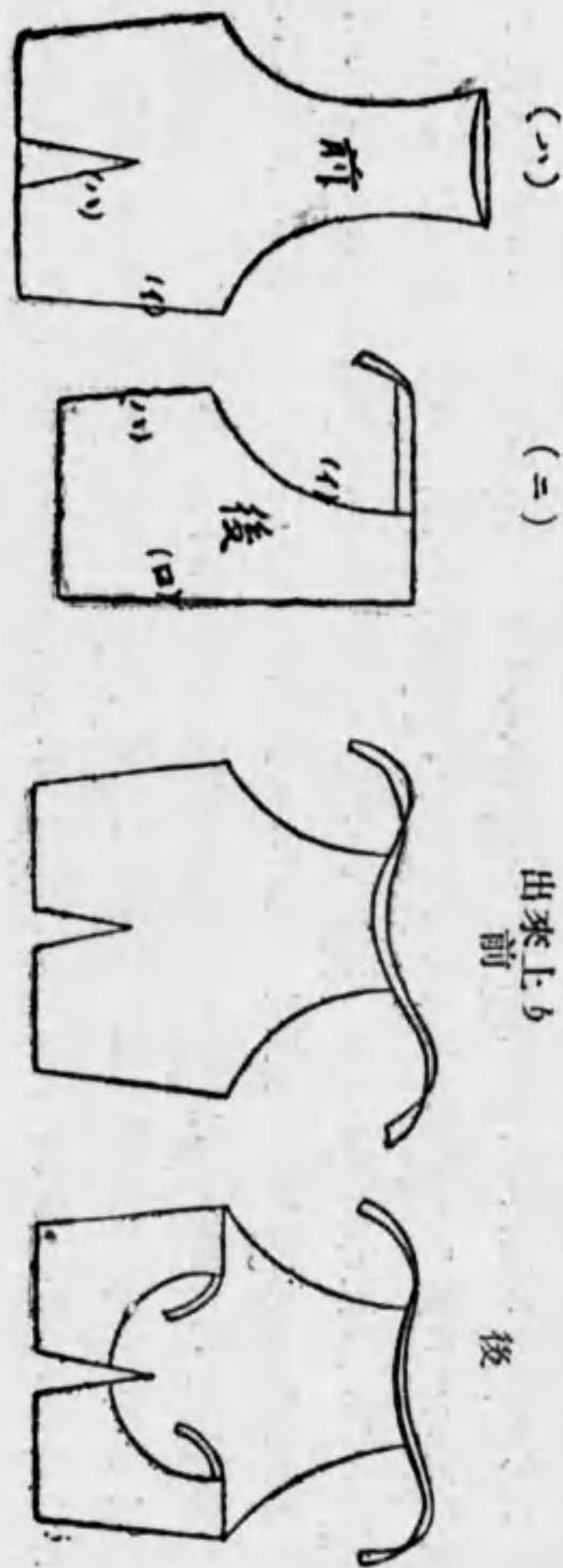
紐は、同じ布でも別布でもよく、幅一寸五分、長さ一尺五寸のもの三本要ります。

積り方

前取上 前取下 後取下 紐の布 用布
 $9 + 3 + 2 + 1 = 15$

○縫ひ方

裕の時は、裏を表と同じに裁つのであります。その縫ひ方は最初に前後共裾口を表裏縫ひ合せ、裏の方に折り返し、次に一尺五寸の紐三本の中、二本を出来上り幅五分として、一方は頭を縫ひ、一方は裁ち目のまゝとし締め、次に後を出し、(ニ)圖の(イ)の所の先の方へ裏表で紐を挟んで丈二寸の隅の所まで縫ひ、引き返して表を出し、次に前の脇の所で後の脇を挟んで四枚共に裾口から脇丈の止りの所まで縫ひ共所で一針糸止めをしたら其の糸を切らずに、脇幅の止りの所まで裏表の幅を揃へて脇を縫ひ、次に(ハ)の標を合せて前で後を挟んで、裾口から二寸の間、四つ縫ひにし、



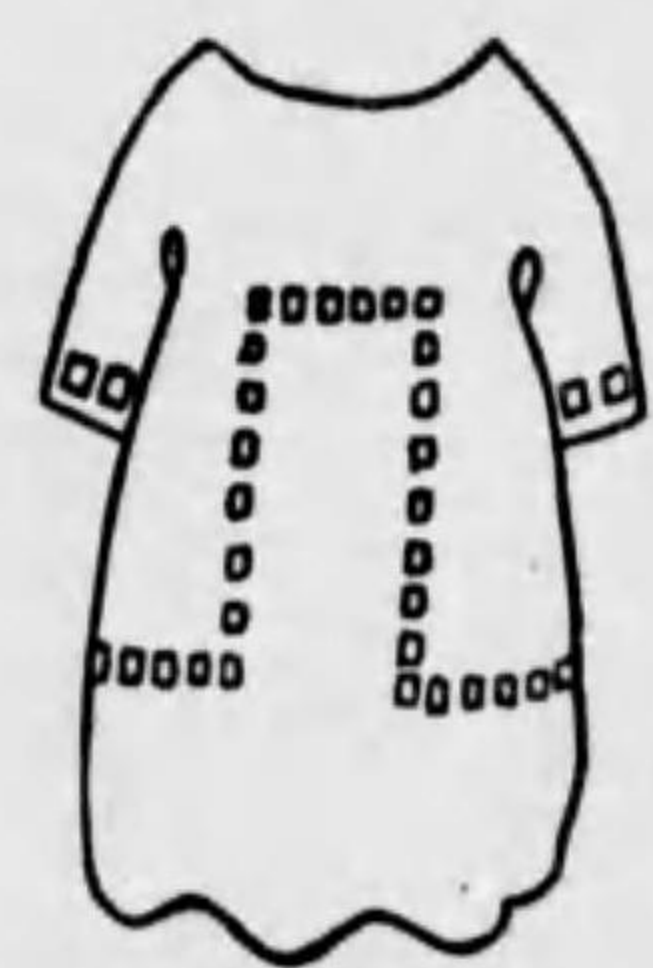
(一) (二) 出来上り 前 後

それから上は前の裏表を合せて縫ひ、脇の所から引き返して表を出します、右の様にいたしました。左右の脚を縫ひ、次に残りの一尺五寸の紐丈の中央と、脇幅の中央とを揃へて普通の前掛に紐を付けます様に前身二枚を紐一枚と都合三枚で縫ひ紐の両端を縫ひましたら引き返して裏で締めておき次に前胯下止りの所へ、褲袋のまわりを結る様に、裏表二枚共に結つておくのであります。

○手軽な小供服

幅二尺、長さ二尺八寸の布で二三歳用の女児服の裁ち方と縫ひ方。
 地質は假に水色の薄ラシヤに、刺繡は布地と同じ色の濃いものとして。

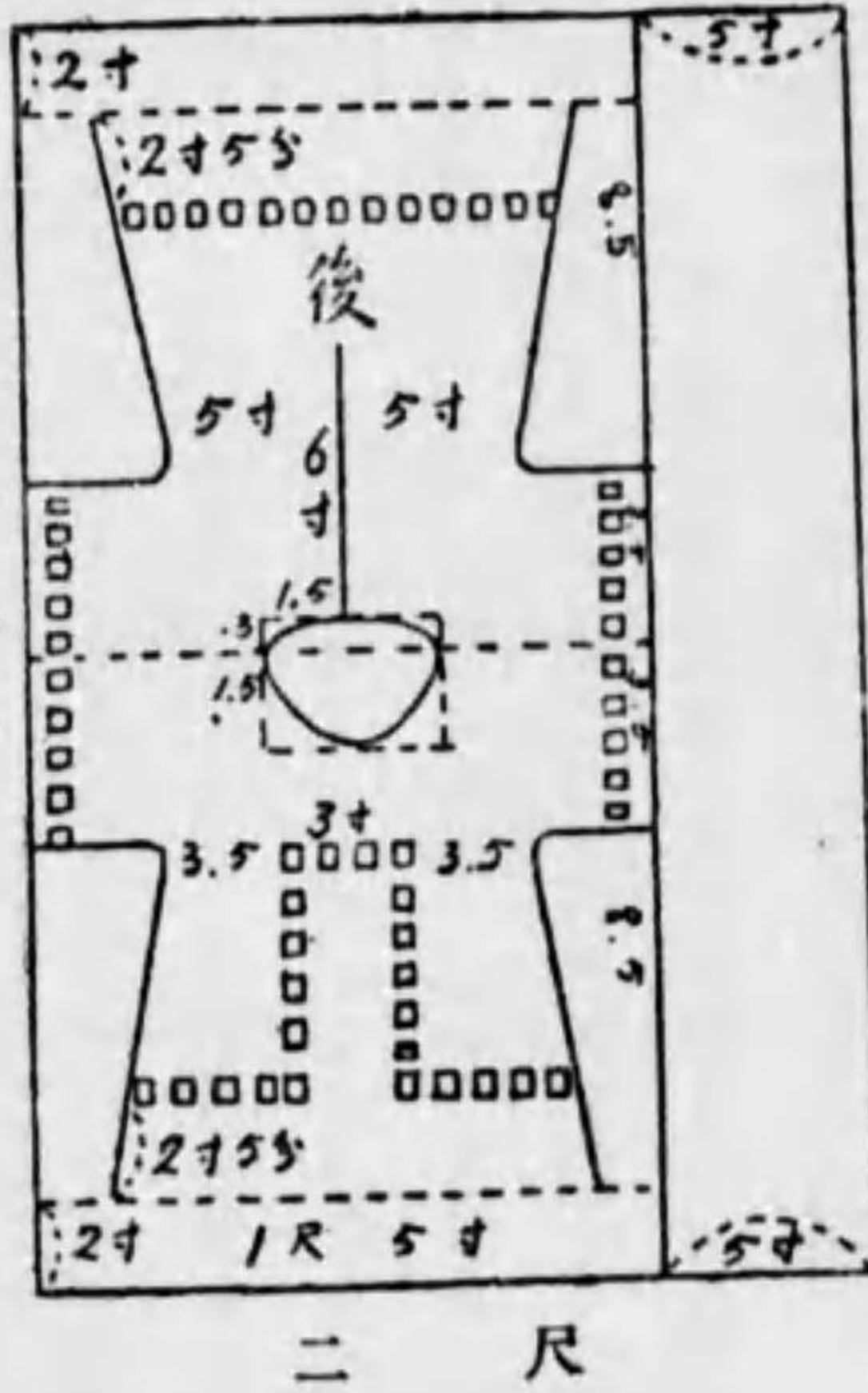
出来上り圖



尙刺繡はフランス刺繡の様に簡單な圖の様なものにいたします。

○型紙の作り方

型紙は左右が同じ型になつて居ります時は、半身だけ作ればよいのであります。つまり前襟の長さとはの二倍だけの紙に中央肩山として後衿線、つまり三つ衿後の方に三分下げて一寸五分丸くとります。前衿線、つまり肩線より一寸五分の四角形に、一寸鉛筆で標を付けて和服の袖に丸味を附ける様に斜の線の四分の一の點の通り丸味を作ります。一寸五分の三つ衿は普通七八歳の子供の線りですが、この型は特に衿線りを大きくするので肩から肩の山から袖三寸五分だけとり胸布が五寸となる様に、前の裾口の明きは七寸となる様にして袖下をやはり袖廻しの様にして丸味を持たせた斜の線で脇を作ります。後裾口は前より一寸だけ狭くして脇でも二分位前より狭くいたします。



型紙の置き方

型紙が出来上りましたならば、布も從に二枚折つて輪になつてゐます方に衿線の方を揃へ、二枚になつて居る方に袖の方をおき、折返し分と袖口の折返し七分とを入れてチャコかヘラで標を附けて裁ち切ります。裁ち方が出来しましたならば、圖の刺繡の所に襷で縫ひ標をして準備しておくのであります。

○縫ひ方

毛織物で裏無でありましたならば、刺繡が出来ましたら先づ後明の右の方に七分か八分の幅の見返

手軽な小供服

し布をつけて表から其の見返し布が見えない様に少し表の方を内に折り、まつりつけるのです。左の明きには、持出し見返しと云つてホツクを附けます時に右が重なり合ふ爲に餘分の布を附けなければなりません。持出し見返しは、四分か五分位になりますから、縫ひ代も入れて一寸二分位の布を左の明きにつけて割り接ぎにいたします。そして裏に其縫ひ目がかくれます様に折り返してまつり附けるのであります。(この見返しは共布でなければいけません)

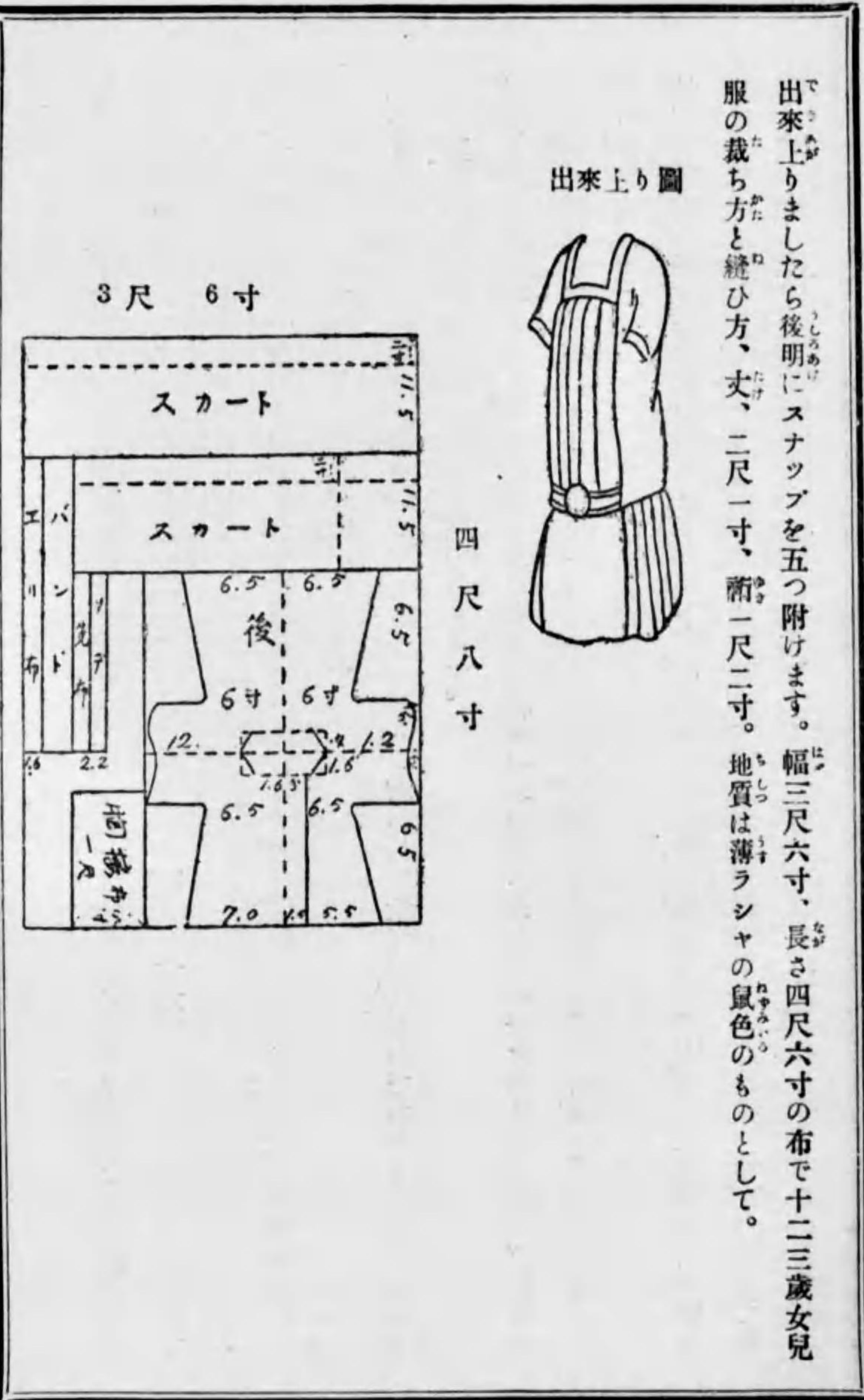
次に衿縁りに、六分位の斜切キヤラコなどで作つて周圍を合せ、よく標してゆがまない様に裏にまつり附けます。次に袖口から裾口まで縫ひ合せて其の縫ひ目を割り、千鳥形にしておきます。出来上りましたら裾口を折り返して細かくまつり附けるのです。袖口も同じにいたします。また、袖口だけに、色の配合のよい絹などで裏から附けて一寸見せるのも面白いのであります。

次に裏附の場合、つまり絹物などを作りましたならば裏にも矢張り絹物を附けました方がよろしいのです。裏の附きます時は、右の後明に見返しはいりません。すぐに表裏縫ひ合せてよいのであります。左の明は矢張り共布の持出し見返しがいりますから同じにしてつけて裏と合せます。衿縁も見返しはいりません。表と裏と合せばよいのであります。袖口から裾は、表裏を別々に縫つて綴ぢ附けます。又裾口と袖口とは裏の方を短くしてまつり附ければよいのであります。

出来上り圖



四尺八寸



○型紙の作り方

丈と袖の二倍で全身の型紙を作ります、衿線りは角衿になつて居りますから、肩山で三つ衿一寸八分とり四分線りとし、一寸七分として前は、一寸六分下げて顎下一寸六分といたします。左の顎下から真直に胸を明けるのであります。

袖五寸、裾口前七寸後六寸五分として圖の様にいたします胸に襷を取りますので余分の布を接ぎ合せるのですから寸法通りの胸接ぎ布を取ります。

スカートは幅から一枚と、衿とバンドを取つた残りの布から二枚だけ取るのであります。圖にありませぬ線の線は左の前に重なり合ふ線であります。

型紙の置き方は布の上に胸の型紙とスカート型紙とを置いてスカートの分を先に裁ち切り、残りの布を胸の型紙の二倍だけとり、中央から二つ折にして丁寧に標を付けて裁ち切ります。

○縫ひ方

最初に胸布の接ぎ合せをいたします。腰下の中央に二つの襷が付き合ひ、左右に五分幅の（一寸五分を三枚にたゝんで）襷をたゝみ右の方には四條、左の方には三條たゝみ其端は一寸ほど残して餘分は裏に折り返してまつり付けておきます。これが左の前と重ねられて胸のあきとなるのです。七

本の襷を襷でおさへ鍔をかけて襷の折り目を正しくしておきます。

左の前には、前と同じ様に見返しをつけてまつり付けます。衿布ははじめ、衿線りと同じ寸法に角を、和服のコートの衿角の様に斜に縫ひつぶしておいて、四角なものを衿線りにあて、縫ひ合せ、外側は飾ミシンの様にいたします、其の幅は六分位であります。

又はじめから衿線と同じ寸法に線り幅を一寸位に作つておきました布と同じに合せてもよろしいのです。次に袖下から胸まで縫ひ合せましたら袖の先には二寸幅の布をカフスの代りに表につけて裏にまつり付けます。上りは七分であります。

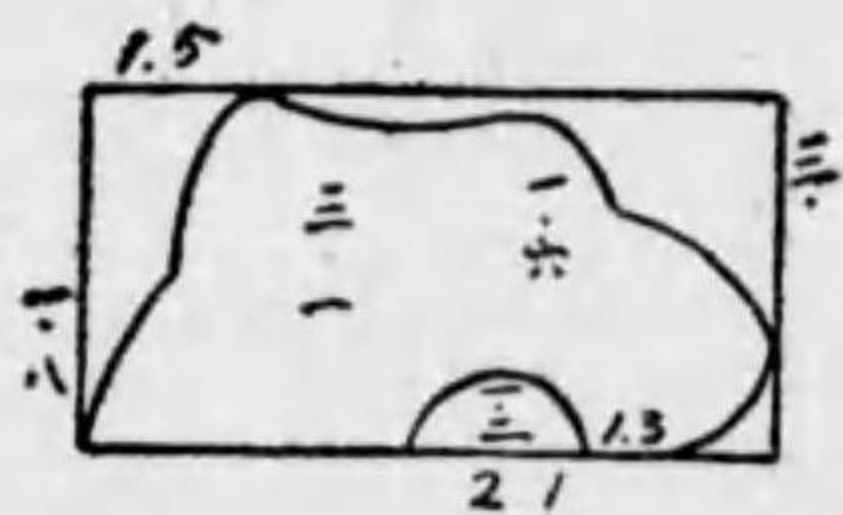
スカートの布は二枚接ぎ合せ、裾口二寸折り返してまつりつけ、前の中央から上部の襷になつてゐる分だけ残りの様にして脇から後にかけて五分の幅に襷をたゝみ、襷で上下共にかたくおさへて鍔をかけておきます。そして先に作つておきました胸と、假襷をかけて接ぎ合せます。縫ひ目はみかへして包みます。

バンドは前の出来上り圖の様に襷の中から出して一廻りしてもよろしいのです。又襷の下にだけ短留にします金具は好みに依つて指定なものを付け、胸明にはスナップを付けるのであります。

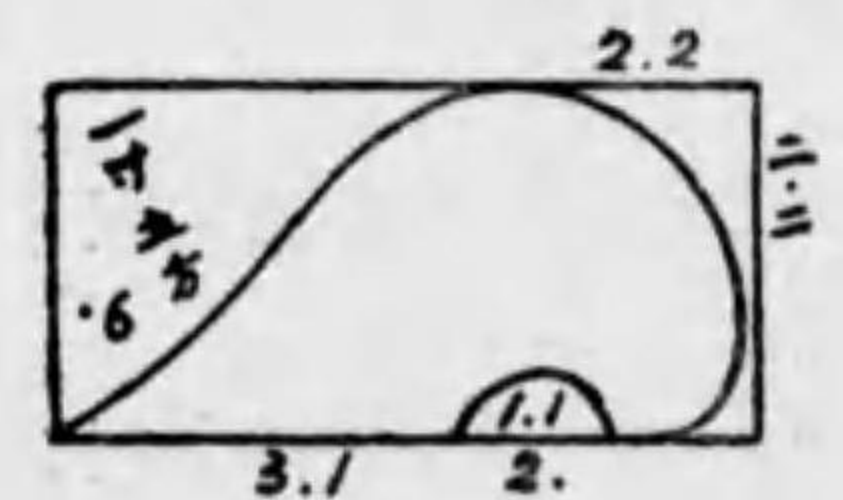
○西洋涎掛

○裁ち方(形は次の様にいろいろあります)

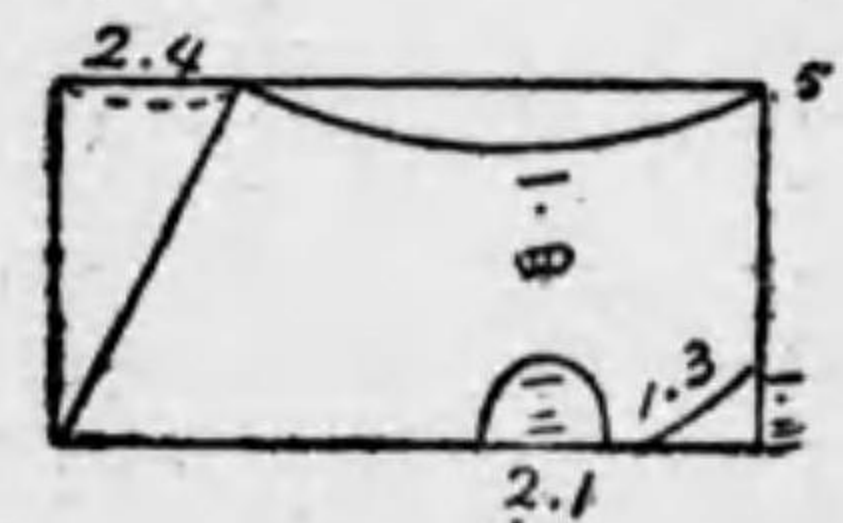
(イ) 裁ち方圖



(ロ) 裁ち方圖



(ハ) 裁ち方圖



裁ち方圖(イ)の用布に幅一尺、長さ二尺でありますが裏表で飾布は同じ布で附けるのであります。飾布は、飾布を附けます場所の一倍半か二倍位要ります。裁ち方圖の(ロ)の用布は裏表、飾布共で、並幅で、丈一尺五寸であります。飾布は前と同じです。裁ち方圖(ハ)の用布は飾布共、幅一尺長さ一尺五寸でありますして紐はテープで長さ一尺九寸、飾布幅、一寸五分、丈一尺五寸のもの二本要ります。

○縫ひ方

第一に飾りにする布を出しこれ身を廻りだけに縫ひ縮め、表の裏に芯の布を綴ち附け、裏と表と

(イ) 出来上り



(ロ) 出来上り



(ハ) 出来上り



の間に飾り布を挟んで四つ縫ひし、引き返して表からミシン縫ひをし、首の所にもミシン縫ひをして後の中央で穴を明けか又は乳の布を附けるのであります。身の廻りにはまたシースをつけるのもよろしいのであります。穴の明け方は右の後に、横に一つ明け、左後に釦をつけますのと、左に穴を明けて右に釦を附ける法とあります。乳を附けます時は、その折方を羽織の乳と同じにいたします。そして丈は二寸裁ち切りで幅は五分位迄であります。

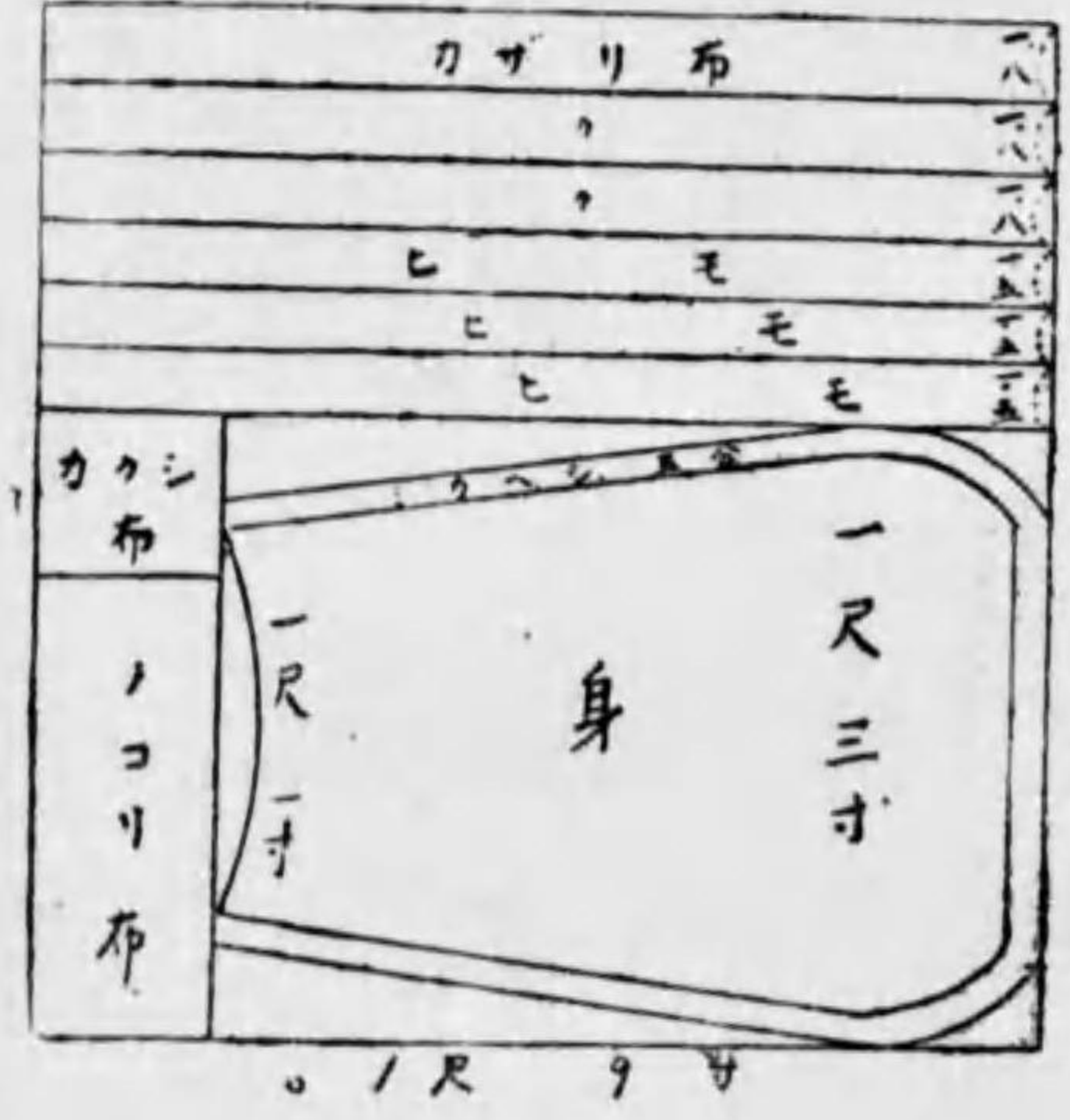
○西洋前掛

幅二尺四寸長さ二尺四寸の布で大人前掛の裁ち方と縫ひ方、

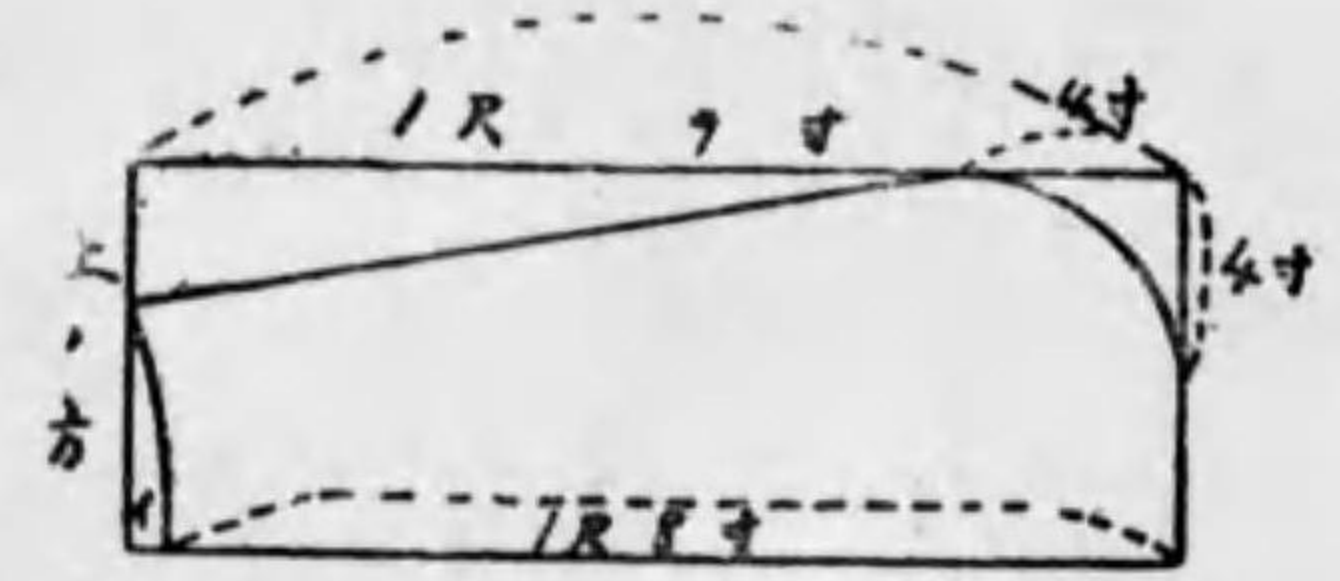
○裁ち方

幅二尺四寸、長さ二尺四寸の中から幅一尺四寸、長さ一尺九寸の布一枚を取り、布を中表にして幅を二つに折り、次の圖の様に、幅の輪を手前にして布を平に下におき、右の端で向うの角から手前に幅四寸の所に標をし、又角から手前に尺を斜に一寸八分出して圖の様に丸く標をし、次に左の端で、手前から向うへ幅六寸

裁ち方全体の圖



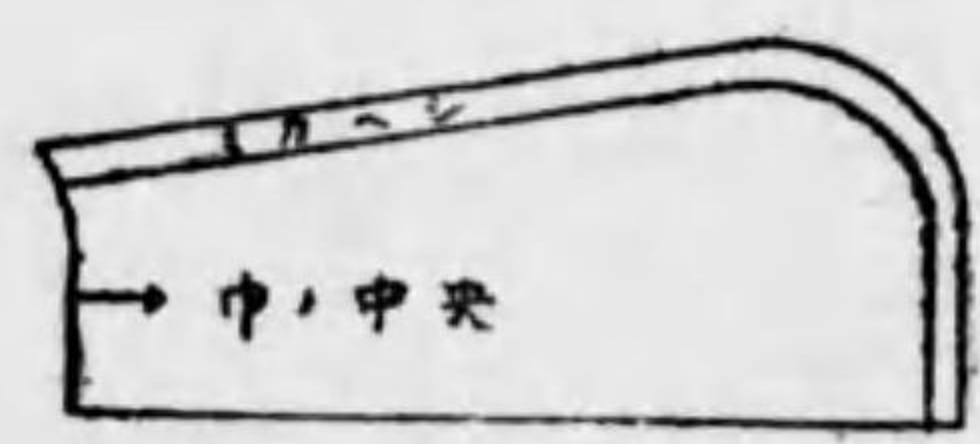
身の裁ち方



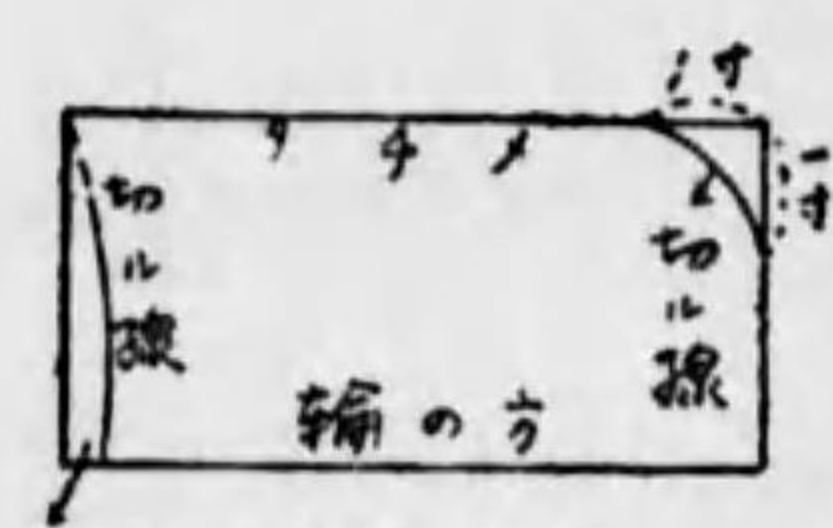
幅の折り目の方

の所に標を附け其の標から右の方を圓くしました止りの所まで斜に標を附け、次に手前で左から右へ丈一寸の標をして其の標から幅六寸の所まで圖の様に右の方へ丸味を取つて標をいたしましてから其の標の通り

身の布から見返しを裁ち落します



隠しの裁ち方



二三分落します

飾り布



幅一分づつ三つ折りにした所
縫ひ
縫ひ
切る

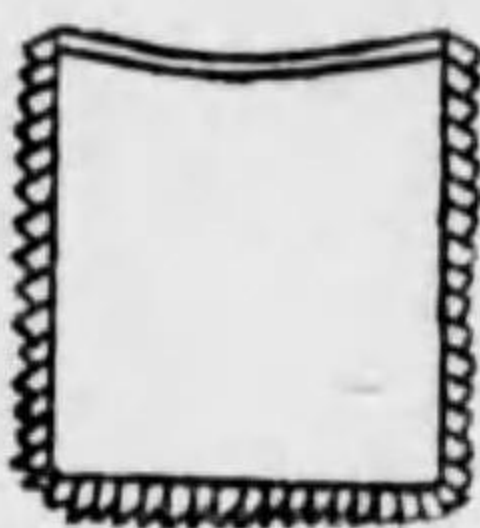
に裁ち落して圖の様な形を作り、それから其の形の通りに、廻りから幅と丈とを五分裁ち落して其の布を見返し布として大きな布は身とし、次に左の端の幅五寸五分を又幅を二つに折つて其所の所へ圖の様に切り込みを入れておくのであります。

今度は残りの、幅一尺、長さ二尺四寸の中から幅一寸八分、長さ二尺四寸の布三枚を取り、これを接ぎ合せて飾布とし、残りの中から幅一寸五分、丈は接ぎ合せて五尺となるだけを取り、そして是を紐といたします。次にまた残りの布から、幅四寸長さ五寸のもの一枚取って隠し布を裁つのであります。隠し布の裁ち方は、幅四寸五分、長さ五寸ある布を、中表に幅を二つ折にし、幅の輪の方を手前にして布を下に平におき、向うで右から左へ丈一寸の所に標をし、次に向うから手前に幅一寸の所に標をし、其の間で圓く標を附けて其の標通りに裁ち落しましたら、左の端で手前の方を左から右に丈二三分取り、向うは丈を一杯にして圓の様に標を附け、裁ち落してこれを隠しとし、残りの布の中から幅裁ち切り一寸、長さは隠し布の廻りの一倍半、つまり二尺三寸程取って飾布とし次に斜の布で幅、裁ち切り八分、長さ五寸を取って隠しの口縁といたします。

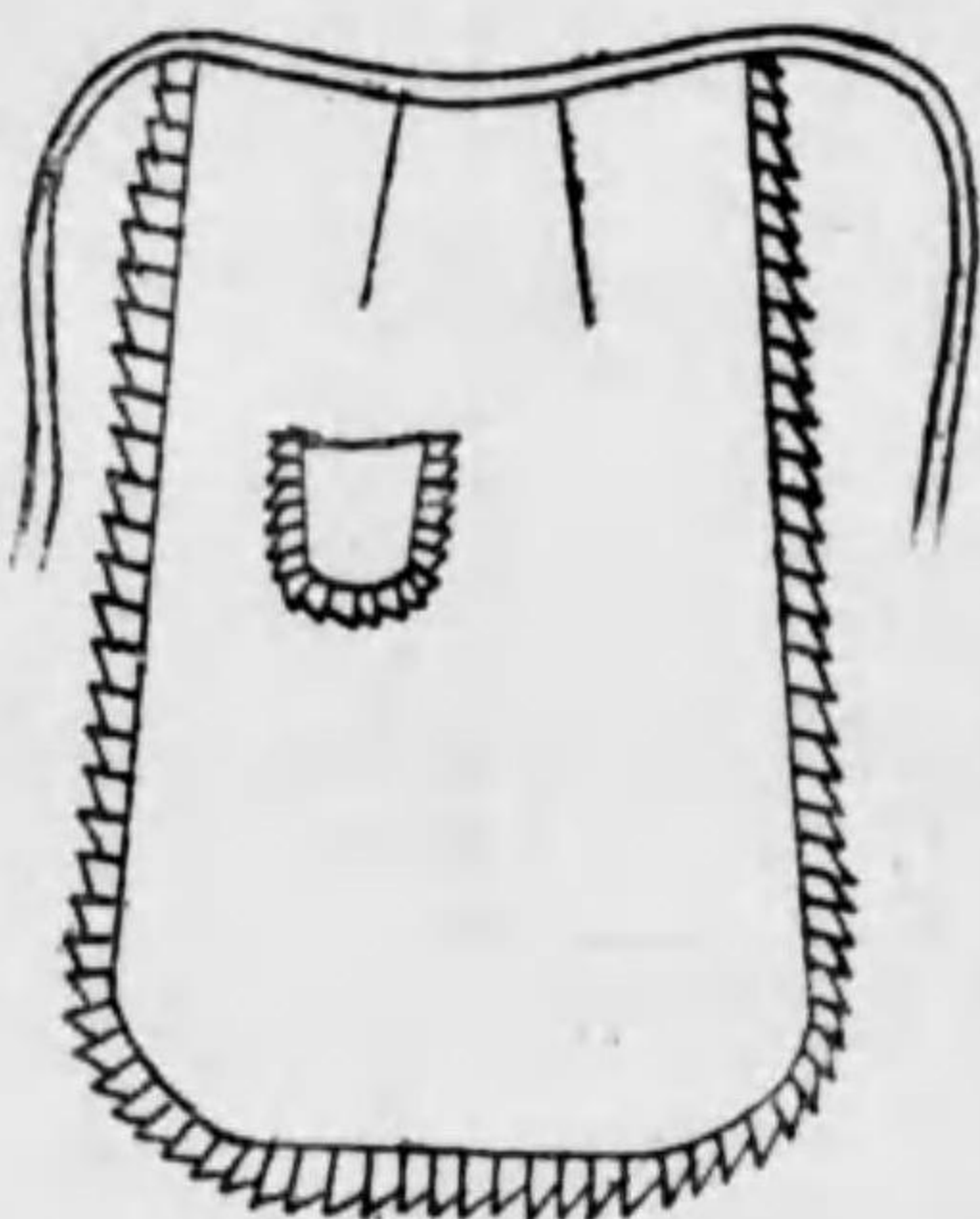
○縫ひ方

第一に裾口の飾り布、つまり幅一寸八分の布を出して返し針に縫つて接ぎ合せ、其の縫ひ目は左右に開き、縫ひ込みの端を折つて、纏り縫ひにして長く接ぎ合せましたら、一方の端を一分づゝ三つ折にして針目を細かに纏り縫ひにし、次に左右の端を丈二寸位の間に圓の様に裁ち落とし、左から右の端まで糸をつらない様にして針目を細かに縫ひ、それから一分間をおいて又一本、糸のつらない様に縫ひましたら身の上の一方だけを除いておいて、外の三方の廻りの丈に、飾り布を先に二度

し 隠



出来上り圖



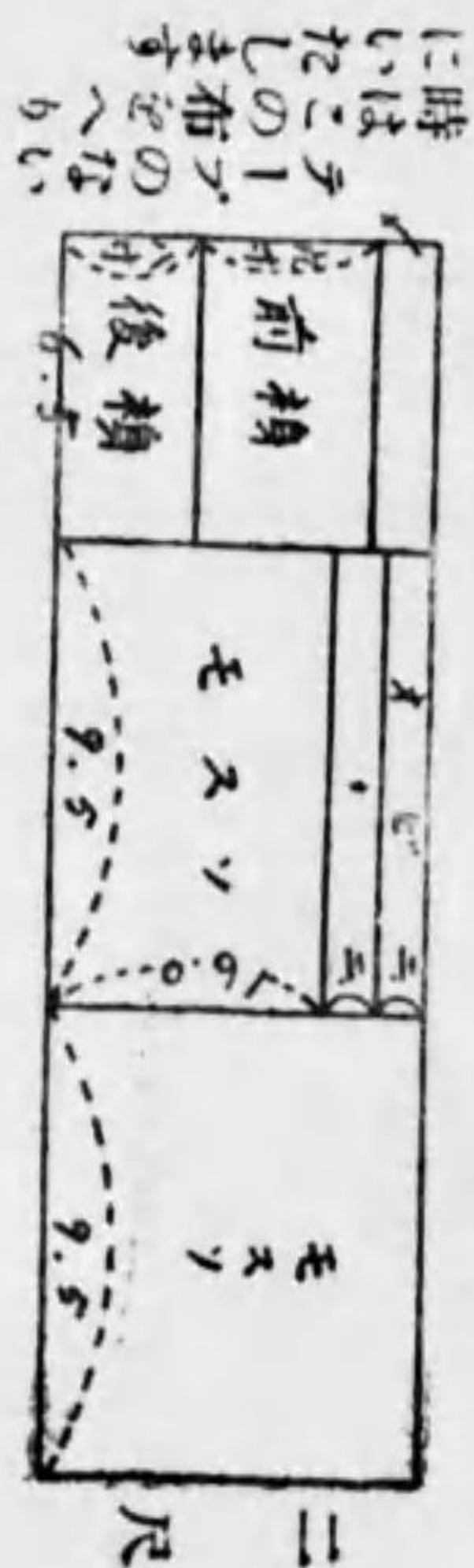
シ縫ひにしました糸を引きしめ、糸を結んで引きしめました皺を全體に平にしましたら、前掛布の表と飾布の表を合せ、飾り布の裏の上に見返し布(幅五分の細長い布)の多く丸くなつてゐる方を揃へて見返しと前掛とで、飾り布を挟んでこれを返し縫ひにいたしましたから、見返し幅を上り二分として折附けて、前掛の表に極く小針に出して、纏り附けるか又はミシン縫ひにし、次に上の方に切り込みのある所には幅四分の襞を左右に一つづゝ取つておき、次に紐布を残らず返し縫ひにして接ぎ合せ、そして縫ひ目を割り縫ひ代の端を折つて纏り附け、次に紐丈の中央と身の上部の幅の中央とを合せ、布の表と表とを揃へ、上部の幅だけに紐を縫ひ附け、紐の方に折り返して次に紐布の

両端を縫ひ、裏布の方に折り返し、紐幅を定めて縫ひ代を布の裏に返し、二枚共に表から裏で縫ひ、合せておき、表からミシン縫ひをいたします。

次に隠しに附く飾り布も、身の飾り布の様に縫ひ、隠し布の口になる所だけ残して三方を一分縫ひ代にして布の裏に折り返しましてから斜の縁布を、両端に縫ひ代だけ出しておいて口に縫ひ付け、縁布の方に返し幅の上りを二分にして両端を縫ひ裏に折り返し裏布の端を縫ひ代だけ折り返して表からミシンをかけ次に右脇で、身に紐を附けました縫ひ目より五寸下つた所で身に飾る布を附けました縫ひ目より幅一寸八分程入つた所から、前の中央の方に隠し布と身の布とで飾り布を挟み、裏で縫ひ付けておき、そして表からミシンを掛けるのであります。

○女児洋服の下着

幅二尺長さ二尺五寸の布で三四歳用の下着の裁ち方と縫ひ方。



後襟



前襟



○裁ち方、前襟

用布から幅九寸丈六寸五分の布一枚を取り、中表に幅を二つに折り、幅の輪の方を手前にして左を肩山に右を裾口にして肩山の方で、幅の輪の方から向うに、衿肩を二寸五分取り、次に肩山から裾口の方に脰を一寸五分に取つて衿肩の標から脰を線落し、衿肩二寸五分の標から向うに肩幅を一寸二分取つて其所で肩山から右の方に、丈を三分取つて肩幅の線を引き、次に幅の裁ち目の方で、肩山から裾口の方に袖附を丈三寸に取り、肩幅の標から線を引き、其中央で内側の方に幅六分を取つて肩幅標から六分の標に當り、三寸の所まで袖附を裁ち落し、裾口では手前から向うに幅四寸に取つて袖附の標から斜に裁ち落し、前の輪の所も切りはなすのであります。

次は後襟

残りの布の中から、幅八寸丈六寸五分の布一枚取つて中表に幅を二つに折り、幅の輪を手前にし

左を肩山、右を裾口にして、肩山の方で幅の輪の方から向うに衿肩を二寸五分取り、次に幅の輪の方で肩山から裾口の方に一寸五分として、前の脬と同じに繰り落しましたら次に衿肩の標から向うに肩幅を一寸二分に取り、其所で肩山から裾口の方に丈三分に取り、二寸五分の標から肩幅の線を引きます。次に幅の裁ち目の方で、肩山から裾口の方に丈三寸取つて肩幅の標から線を引き、其の中央で内側に幅六分を取つて前袖附と同じに裁ち落すのであります。

出来上りの圖
襦と裳を釦でかけた所



(襦)



(裳)



此所も同じです

すまけ明を穴
此所にたてに(1)の
様に

○縫ひ方

先第一に前後の肩を合せて縫ひ、其の縫ひ目は左右に開き、その端を二つ折にして表から飾りミシンをかけます。次に兩脇を縫ひ、其の縫ひ目は左右に開いて端を二つ折にし表から飾りミシンをかけ、次に袖附の所を幅三分位のテープか、又は斜の白いキャラコで布をくるみ、テープの表から

シンをかけ、次に裾口から前と中央の衿肩の所まで袖附と同じにテープでくるみ、テープの表からミシンをかけます。

次に裳を出し、幅二尺と一尺六寸とを縫ひ合せ、縫ひ目は左右に開いて端を二つ折にし、表から飾りミシンをかけます。次に是を輪になる様にして上から縫ひ合せ、其の縫ひ目を右の方になる様にし、折は左右に開いて端を二つ折にして飾りミシンをかけます。

次に前の中央を丈三寸切り込み、其の止りの所を、幅一寸切り込み、右の方は裏に細く三つ折にしてミシンをかけ、左の方は幅一寸の所から裏の方に折り返し端を二分位おつて表から飾りミシンをかけ、三寸の止りの所で、六七分左を上になる様に重ねて門止めをします。裾口は、はじめ幅二分に折り、次に幅一寸三分に折つて表から飾りミシンをかけ、それから上の方の廻りを、全體で一尺五寸に縫ひ縮めておき、そして帯を出し、九寸五分の布の丈を接ぎ合せ、縫ひ目は左右に開いて端を縫ひ、裏の端を折つて賤で押へ、表から飾りミシンをかけるのであります。

釦穴は、右の方で脬の止りに横に一つ明け、次に裾口から五分上つて一つ明け、其の中程に一つ明けるのであります。裳の方では、後の中央に豎に一つ明けて兩脇に一つづゝ、豎に明け、それから其の兩端と帯幅の中央とに横に一つづゝ、明けるのであります。

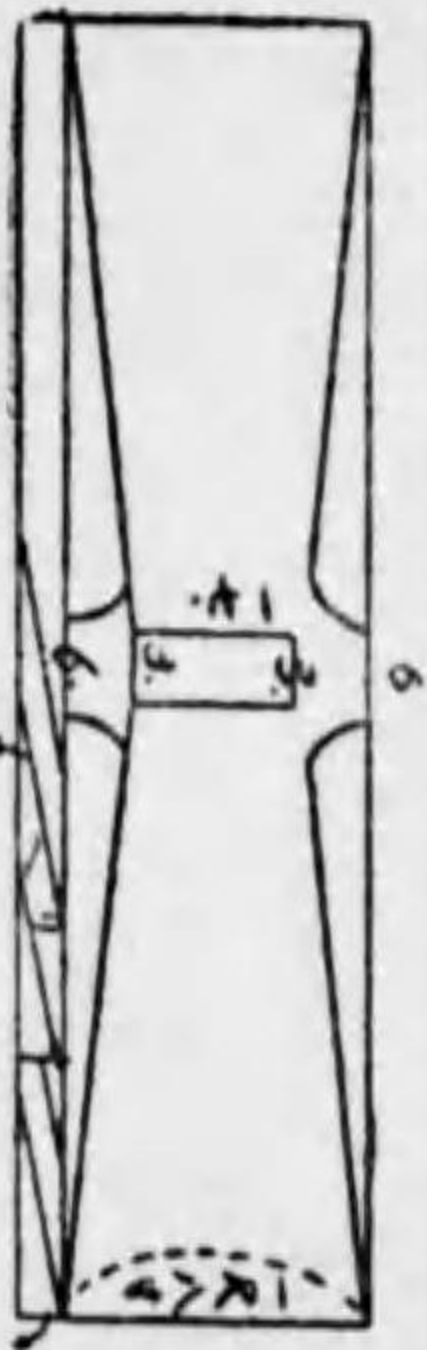
鈕は釦穴にならつて附け、襟の裾口にも裳の方の釦穴にならつて釦を附け、襟と裳とは釦で掛ける様にいたします。

幅二尺四寸、長さ三尺八寸の布で、五六歳用の女兒服下着の裁ち方と縫ひ方

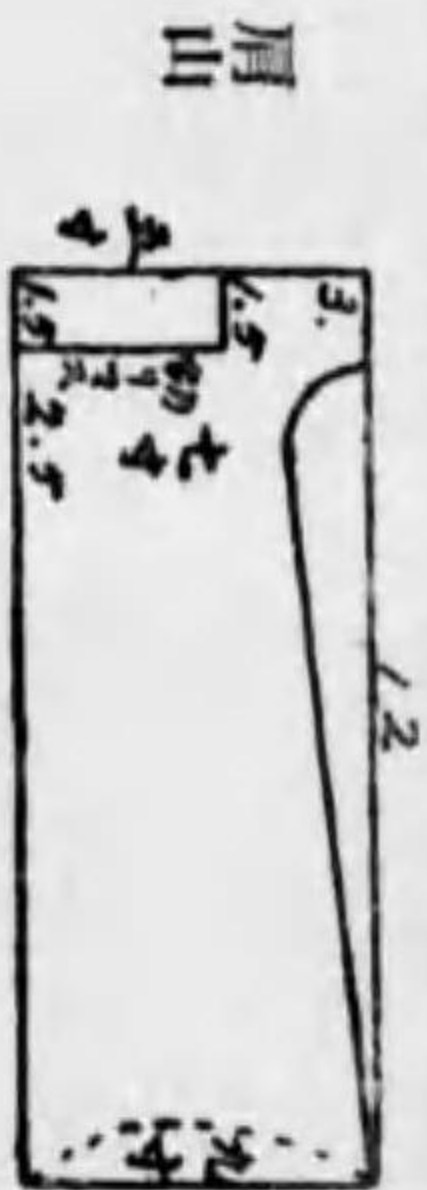
○裁ち方

用布の中から幅一尺八寸を切り落とし、中表に幅を二つに折り、次に丈を二つに折り、幅の輪を手前に丈の輪を左に持つて肩山とし、丈の裁ち目を右に持つて裾口とし、肩山で幅の輪から向うに、衿肩を五寸に取り、次に肩山から裾口の方に脛を一寸五分に取り、衿肩の止りの所でも、丈一寸五分に取つて四角に通し標をして布を四枚共裁ち切ります。次に幅の裁ち目の方で肩山から裾口の方に丈を三寸取り、其所で幅の輪の方から向うに幅七寸に取り、そして標から七寸に當り、裾口は幅一杯にして斜に通し標をして布を四枚共裁ち切ります。次に幅の輪の方で、上一枚だけ脛の止りから裾口の方に、丈二寸五分の間、幅の輪を切るのであります。

裁ち方の圖



幅六分 返五分幅
し分丈一寸
見寸五



肩山
切幅一寸
輪の方
り一枚の
ますをけ上

○縫ひ方

はじめ、袖口の所を幅二分裏に折り返して、其所にレースをミシンで縫ひ附け、次に前の輪を二寸五分切りました所を左の方は幅二分位裏の方に三つ折にしましてミシンを掛け、右の方は、見返し幅一寸、丈三寸五分の布を、表の方に縫ひ附け、見返しの方に折り返して幅を一杯にし、裏の方は箕で押へ、下の端は圖の様にミシンをかけ、次に袖口から裾口まで前を二分の縫ひ代に、後を一分の縫ひ代にして縫ひ、後襟の方に折り返し、縫ひ代の端を折つて纏り附け、次に裾口をはじめ二分だけ裏に折り返して次に五分折り返し、箕で縫ひ附けておき、そして表からミシンを掛けます次に衿肩の所を前幅五寸づゝある間を、見返しを除いて幅二寸五分づゝ縫ひ縮め、後の一尺の所は幅五寸に縫ひ縮め、見返し幅の端から下前幅の端まで斜の布で幅六分を表から縫ひ附け、布幅を一

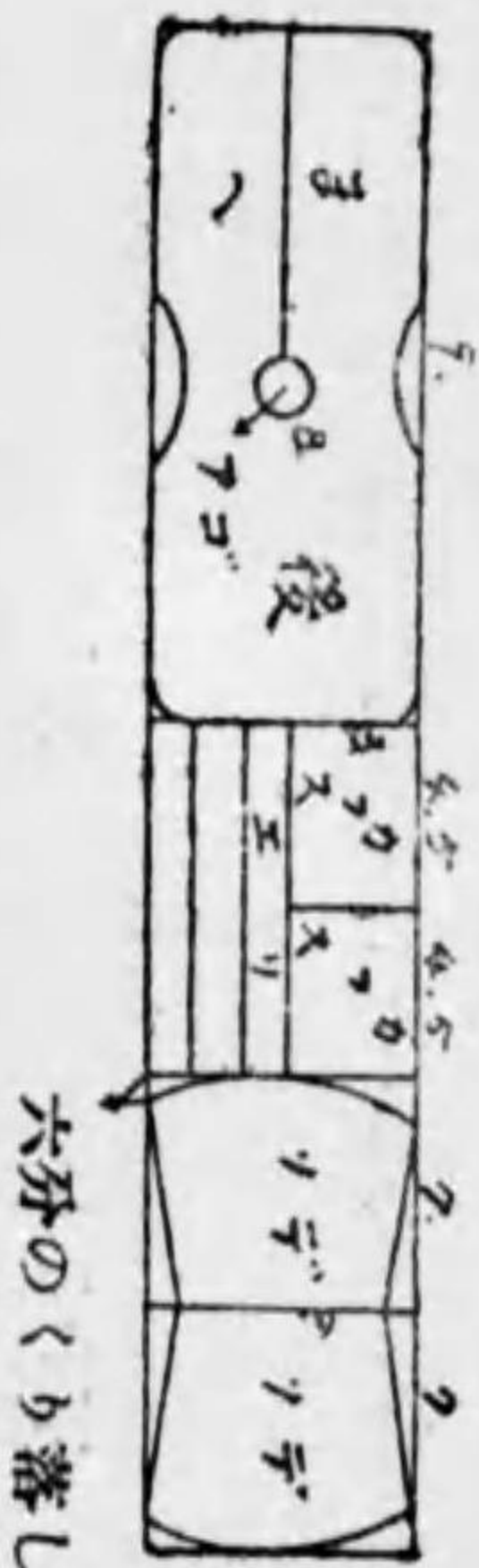
杯にして飾りミシンをかけます。次に右の衿先に横に釦穴を明け穴結びをし、左の衿先に釦を付けるのであります。

○小供シャツ

○裁ち方と積り方

幅九寸、長さ四尺八寸の布で五六歳用のシャツの裁ち方

裁ち方の圖



袖七寸、見返し九寸、衿丈八寸五分、幅二寸、後丈一尺三寸、衿肩一寸五分、肩一寸七分、前丈一尺二寸。

積り方

(總尺²袖丈-2カフス丈-前後の差)÷2=前丈
前丈+前後の差=後丈

$$7 \times 2 = 14 \quad 4.5 \times 2 = 9. \quad 14 + 9 = 23 \quad 48 - 23 = 25$$

$$25 - 1 = 24. \quad 24 \div 2 = 12. \quad 12 + 1 = 13$$

○縫ひ方(縫ひ方はすべて返し縫ひであります)

先づ袖下を前後共口先から一寸三分入つた所まで細く三つ折にして纏り縫ひにいたしましたから口先にカフス布を縫ひ附けますが其の縫ひ方は袖下を一寸三分の間、細く三つ折にしました折山から先に兩端ともカフスを縫ひ代だけ出しておき、カフスの丈の中央で、袖口幅の廣い分だけ縫ひ縮めて飾りとし、袖布の表とカフス布の表と合せて縫ひ附け、カフスの方に折り返し次に、カフスの兩端を縫ひ、裏布の方に折返しカフスの裏布の端を縫ひ代だけ折り返し、はじめカフスを縫ひ付けました所に簇で縫ひ附けておき、カフス布の表からカフスのまわり全體にミシン縫ひをしましたら次に前身幅の輪を裁ち切りました所に見返し布を上前は襟の表、下前は裏になる様に縫ひ附けるのですから下前襟に見返し布を縫ひ附けますには、前身の表と見返し布の表とを合せ、襟の止りから先に、見返布を丈二分程出しておいて身丈の終りまで縫ひ附けて見返しの方に折り返し、次に裾口で身と見返し布とを一回、幅の出来上りの所まで縫ひ合せて見返しの方に折り返し、次に見返し幅の上り寸法を山にして縫ひ代を布の裏に返し、簇で襟に縫ひ附けておき、こゝと口元とに表からミシンを掛け、下前は襟の裏と見返し布の表と合せて下前の様に縫ひ附けましたから、裾口も下前

の様に身と見返し布とを縫ひ合せ、こゝで襟の縫ひ代だけに眞直に切り込みを入れ、見返し布と縫ひ合せた止りから先は、襟の裾口の縫ひ代は布の裏に折り返しておき、次に見返し幅を定めて奥の方を裏で身に縫ひ付けておき、下前の様にミシン縫ひをし、次に裾掛けをいたしますが、その仕方は前襟は見返し幅の止りから、兩脇は裾から、丈二寸五分上りました所つまり馬乗の止りまで細く三つ折にして纏り縫ひをし、後襟の裾口は、兩脇を丈三寸五分上つた所まで細く三つ折にして纏り縫ひし、次に衿先を丸く縫つて裏に返し、表の衿丈の中央と、衿肩の中央とを揃へて、布の表と表とを合せ、待針を刺して、衿先の縫ひ代を縫ひ付けない様にして前幅の止りから、上前幅の終りまで縫ひ付けて衿の方に返し、次に裏衿の縫ひ代だけを布の裏に折り、衿先の縫ひ代は裏衿の方にくるみ、表衿を附けまはしは所に、裏で縫ひ付け、表からミシン縫ひをします。次に袖山と襟の山とを揃へて布の表と表とを合せ、襟を一分縫ひ代に、袖を二分の縫ひ代として待針を刺し、袖下の縫ひ代だけ前後共残しておいて袖を附けます。(袖を手前、襟を向うに持つて)そして襟の方に折り返し袖の縫ひ代の端を折つて身に纏り付け、次に袖下と脇を縫ひますが其の縫ひ方は袖口馬乗と襟の馬乗の前後を揃へて待針をさし、袖附の縫ひ目も前後を揃へて待針を刺し、そして袖も襟も後を一分、前を二分の縫ひ代にして袖口馬乗止りから、襟の馬乗止りまで縫ひ、折りは残らず後に返し、

縫ひ代の端を折つて纏り附けましてから、袖と身の馬乗止りに門止めをいたします。

次に穴は、上前衿先から丈二分程入つた所で、幅の中央に一つ横に明け、次に衿附の縫ひ目から五分下つて見返しに明け、次に丈二寸づゝ間をおいて三つ明けカフスは後袖の方で、幅の山から七分程入つた所で丈の端から二分入つて横に一つづゝ明け、穴結りをして次に釦を、カフスの前袖と下前衿先と、見返し布とに上前に合せて附けるのであります。

○運動用シャツ(地質は主に白キヤラコ)

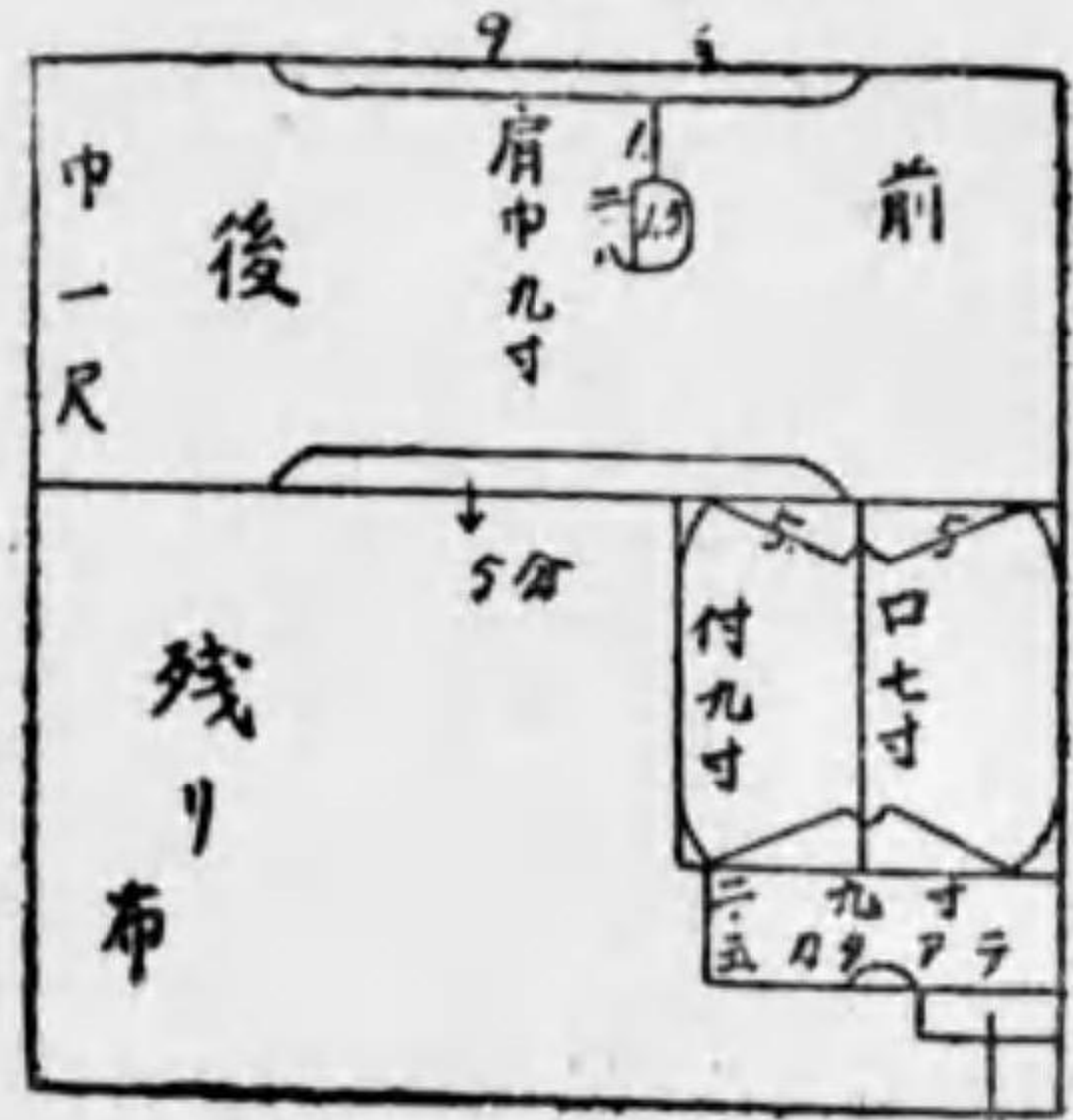
幅二尺四寸長さ二尺二寸の布で五六歳用の運動シャツの裁ち方と積り方。

○裁ち切り寸法

身丈一尺一寸、身幅一尺、衿肩一寸四分、膊一寸五分、袖丈五寸、肩當幅二寸五分、丈九寸、持出布は肩幅に依つて定めませんが凡そ五寸五分です。幅は一寸五分。尙、飾に黒の毛縁を附けます場所は袖口に二本、身の衿肩から膊の部分に二本であります。毛縁は縦横とも伸縮が自在ですから、はじめ兩端から引張つておいて裏から糊を附け、糊の附いた方を裏とさめて、乾かしましてから用ひるのであります。

積り方 身丈 用布 11.×2=22.

裁ち方の圖

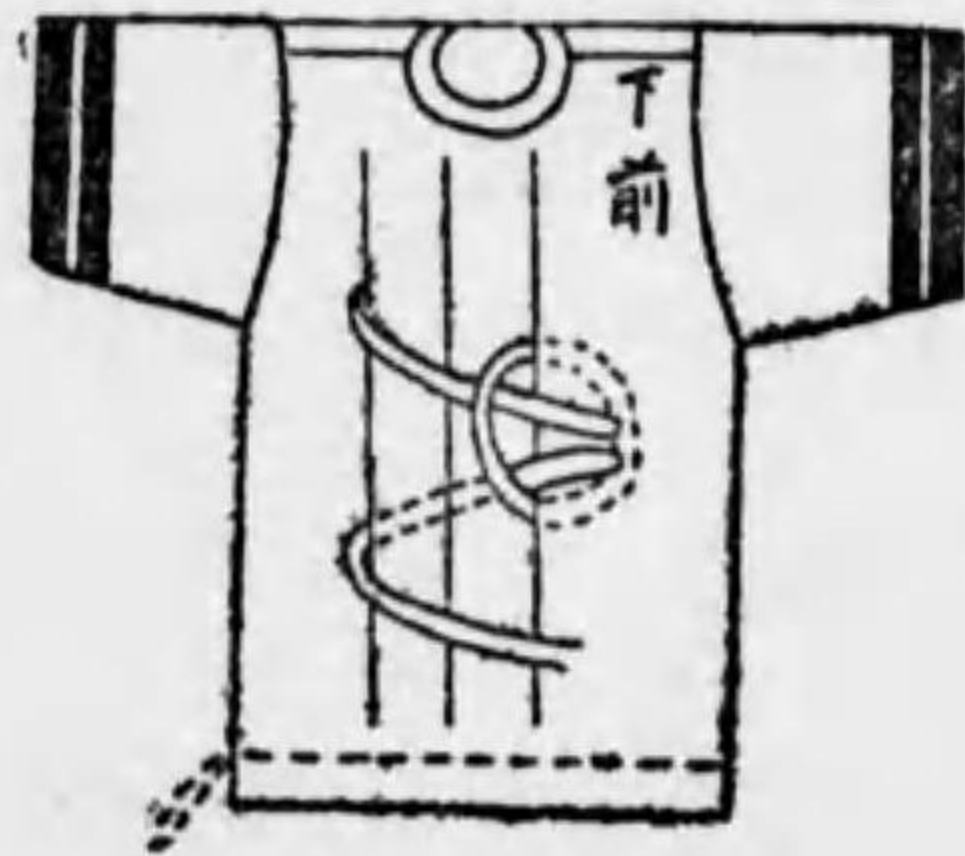


○縫ひ方(返し縫ひ)

先づ袖口を、縫ひ代だけ表に折り、其上に毛縁を一本付け、両端にミシンを掛け、次に縁の幅だけ間をおいて、奥の方に又一本綴ち付けて、ミシンをかけます。次に左の肩山から一寸下つて、身丈を前後裁ち切りました所で、襟の裏と肩當布の表とを合せ、右から左の端まで縫ひ、襟の方に折り返して、次に襟の表に、肩當布を前後左右共ミシンで縫ひ付けましたら左前の肩山から一寸下つて身丈を切りました處に、持出布一枚を身に縫ひ付け、裏で纏り縫ひをし、次に首の廻りを縫ひ代だ

け表に返し、其所に縁を二本袖口の様に付けましたら袖を付けて身の方に折り返し、縫ひ込みの端を折つて纏り付け、次に脇と袖下を縫ひますが、右脇は裾口から一寸程縫ひ残り、細く三つ折にして纏り縫ひをいたします。そして折は残らず後に返して縫ひ込みの端を折つて纏り付けます。次に裾口ははじめ丈を一分裏に折り、次に右脇を一寸縫ひ残しました所まで折り返し、其中に長さ二尺五寸位のテープを通し、テープを縫ひ付けない様にして裾口を纏り付け、そして一寸縫ひ残しました所に門止めをし、次に左肩の首廻りの毛縁の間に、豎に一寸穴を明け、次に肩幅の中央にも豎に一寸穴を明けて穴結びをしまして左前襟の持出の所に釦を附けるのであります。

出来上りの圖



○(小細工)紙入の作り方

○用布

表は長さ一尺三寸、幅三寸五六分。

裏は、長さ八寸八分、幅は表より一分せまく。

右の外に裏紙が要りますが、表布の裏紙は仙花紙程の厚さのもの、裏布の裏紙に薄い半紙。

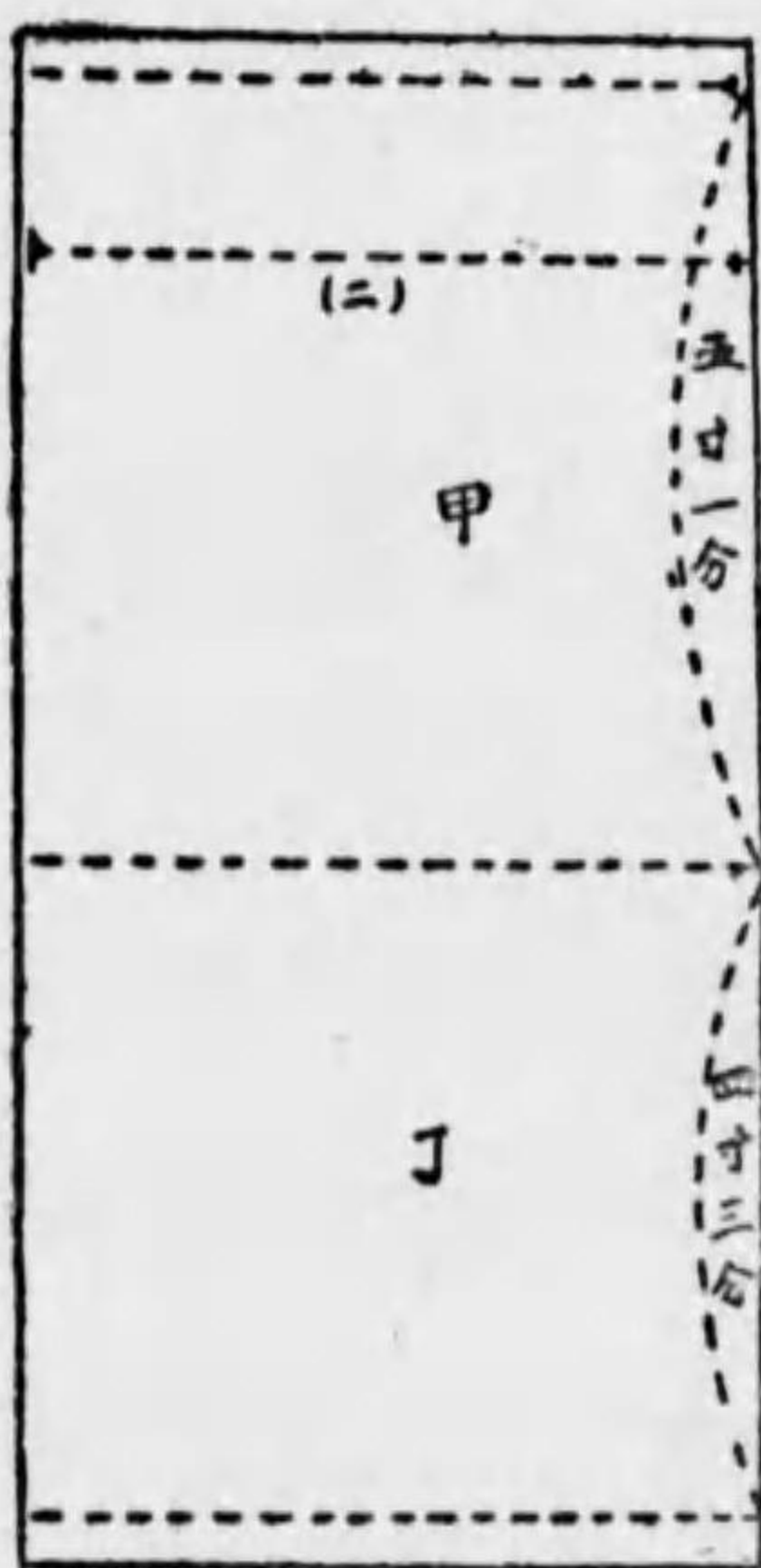
○寸法は次の圖の通りであります。

(一) 圖



圖にあります黒い標は、縫ひ代だけの寸法で切り取るのであります。

(二) 圖



圖の乙と丙は、前の袋となる所でありまして、裏布には之れはいりませんが、其の寸法は表布より心持縮めなければいけません。それで(二)圖の様に甲も丁も表より一分短くし、又幅も表布より一分程縮めます。次に表布の裏の四方へ糊をつけて裏紙を隅貼に貼り付け、裏布にはこれと半紙を同様に貼り付けて其の端を布通りに切り捨てます。

布の用意が出来ましたら次に表布の表から、(イ)の線と(ハ)の線に筋目を付け、次に裏から(ロ)の線に筋目を付けてW字の形に折りたゝむ様に折を付けるのであります。次に裏布の點の線も表から筋目を付けましてどちらも丁の方を上にして其端の縫ひ代の所で双方の表を合せて縫ひ、裏布を少しつかせて返します。それからW字形に折りたゝんである表布の外を、裏布で包むやうにして(表

紙入れの作り

布の(イ)(ハ)の折目の所と裏布の折目とを合せます。両端を四つ縫ひに丁の端まで縫ひまして一旦針を止め、底を返して甲の端の縫ひ代を縮け、(ニ)の線に筋目を附けて折つた両端を甲の兩脇へ縫ひ込むのであります。

○底を返します時に、前の袋は丁の方へ附けて返すやうにしませんと袋は反對になります。又、裏布は表布より短くとも表布の方で加減をして一杯に縫ふのであります。

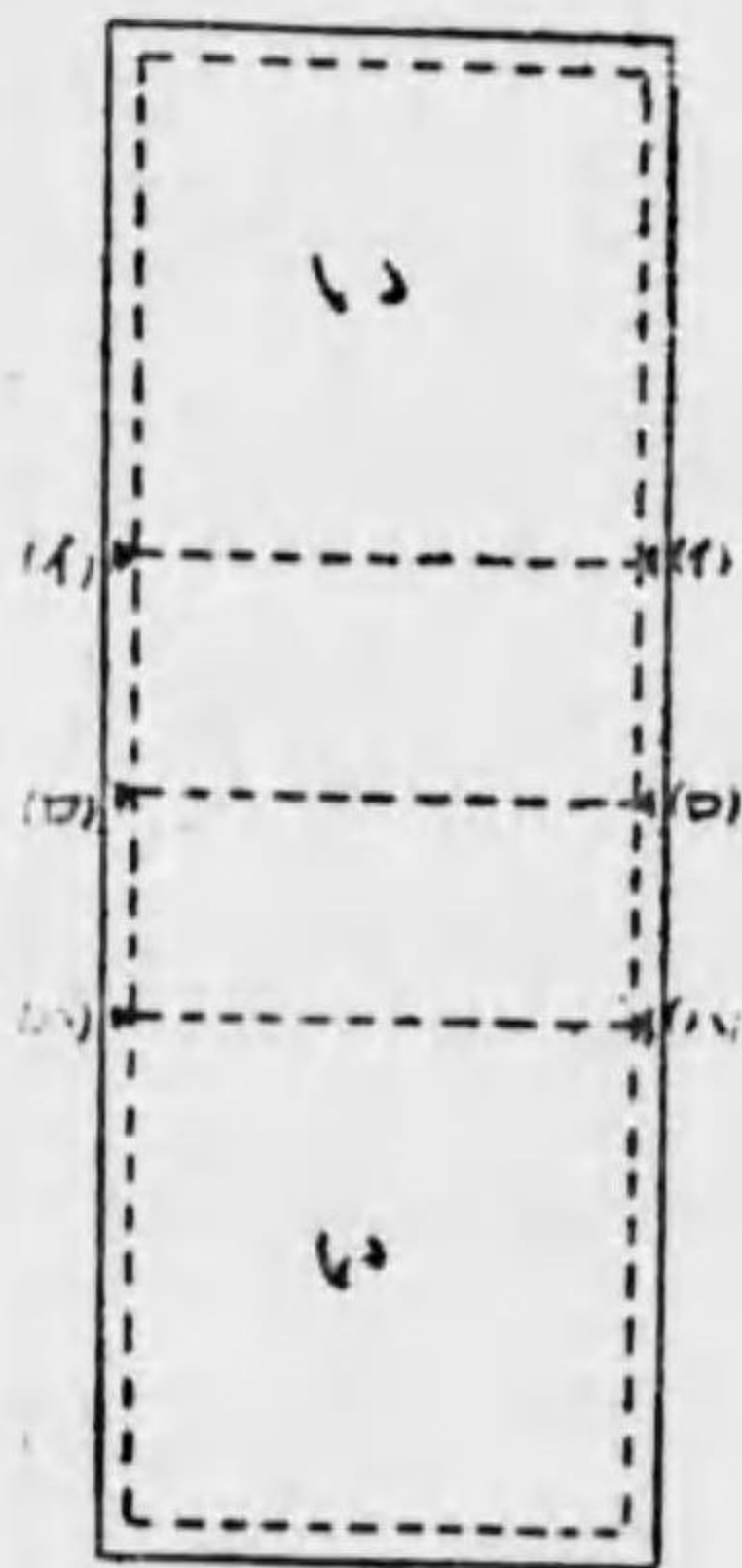
○揚子入れの作り方

寸法と裁ち方

寸法は好みによつてちがひますが普通は左の様にいたします。

長さ、四寸八分、幅、二寸

(一) 圖



裏布と表布を別にするのならば一圖の中央の(ロ)の線の所で接ぎ合せます。そして(イ)と(ハ)の線は表の方から(ロ)の線は裏から筋を附け四方の點の線は縫ひ代となるのですが、其中(イ)(ロ)(ハ)の三線の兩端は縫ひ代だけの寸法を三角形に切り落しこれで生地を用



意が出来ましたから次に布を裏向けにして筋目によつて(ニ)圖の様に折りたゞみ左右の縫ひ代を中側で袋となりました(ロ)の縫ひ代共々に縫ひ終り、(ロ)の袋の裏布の方へつけたまゝ表へ返しますと揚子入れの形が出来ます。最後に上の縫ひ残し(返した口)の縫ひ代を中に折り込んで、縮めるか又は糊で貼り附けるかいたします。

○巻煙草入れの作り方

入用の品物は左の通りであります。

(イ) 表布、五寸四分位、但し、半分になるものですから二寸五分幅で長さ一尺ばかりあれば充分

であります。

(ロ) 裏布、但し表布の幅が広い時は裏布は無くとも差支へありません。

(ハ) 洋紙これは真に用ひるのですから書用紙の古いのでよろしいのです。先づ其型紙は圖の様にいたします。

中味の真となるもの、寸法

横の長さ、四寸四分、天地の丈、二寸五分、

右の寸法の型紙を作り、

圖の様に線を引き×の所

を切ります。圖の様に

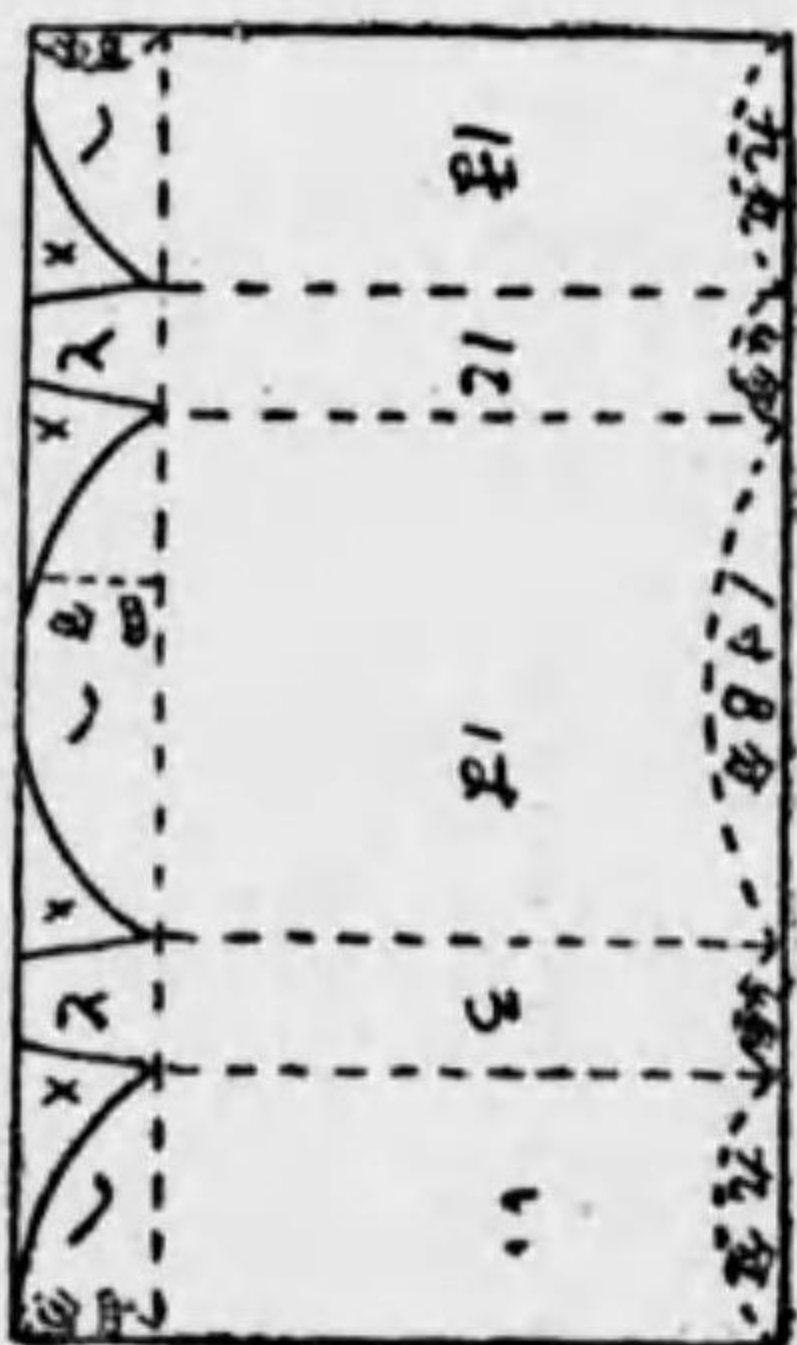
(は)の幅は一寸八分(い)

と(ほ)は(は)の半分(ろ)と

(に)は四分、(へ)と(と)の

上下は四分、これはつまり

天地の寸法で、全體で二寸五分の丈から四分を、(へ)(と)に使へば(い)(ろ)(は)(に)(ほ)の丈は二寸一分となる譯であります。



次に表布は真と同じ様な型で四方を二分程廣くして切り四方の端を出して真紙を真中へ貼り(真紙の片面一杯に糊を付けて)出てゐます端は右手の端(いの端)を除いて外は折り廻して真紙へ貼りますが、(へ)の丸くなつた所は布に皺をとるか又は切り込みを入れて貼ります。

そして其の貼りました所は鋺でよく押へ、糊氣の乾きますのを待つて線の所へ今一度しつかりと篋目を附けるのであります。若し裏布を使ひます時は、篋を附けます前に裏布を貼らなければいけません。

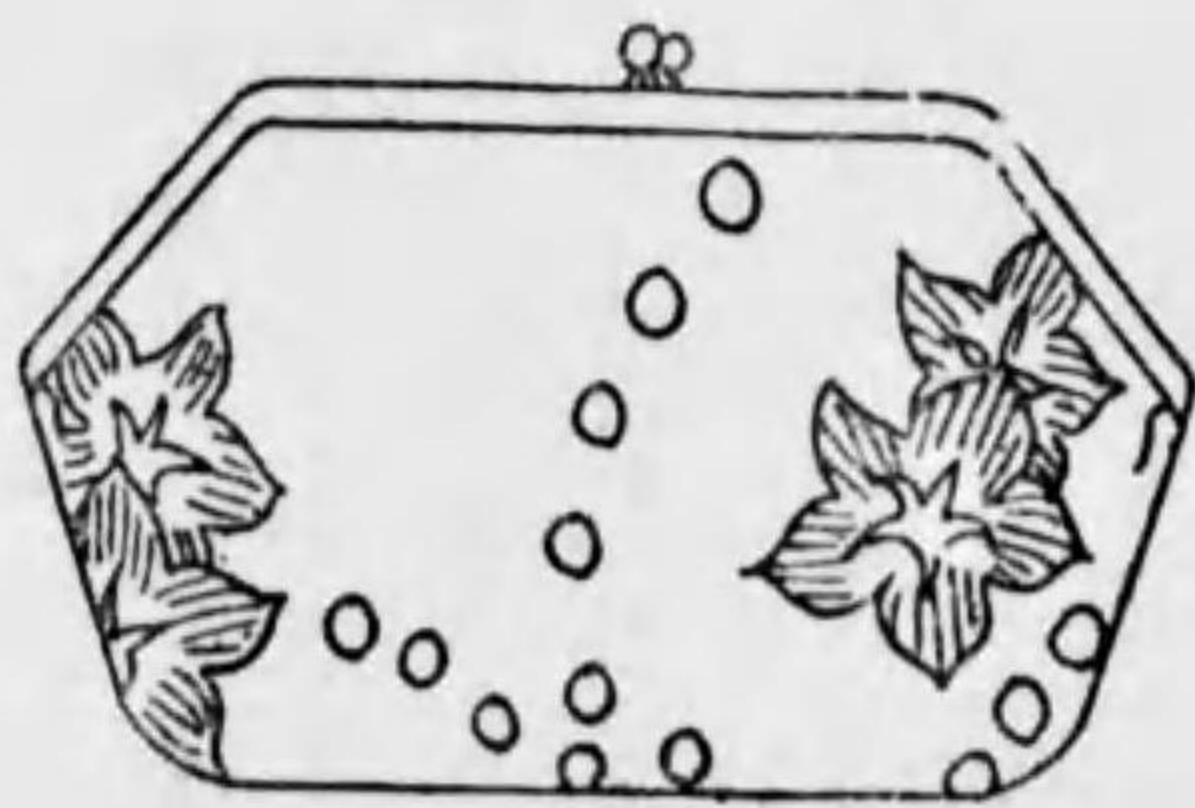
裏布は、小口になる所だけ貼ればよいのですから天地の丈は真紙の半分あれば充分であります。そして横は真紙と同じ寸法であります。其の貼り方は上の方(つまり小口となる方)で表布の批を五厘か一分程残し、左の端(ほの端)は一杯に貼ります。又表布の天地が、充分にあれば裏地を用ひず、端を貼ります時に、其の餘裕のあるだけを裏の方へ折り廻して貼ればよろしいのです。裏布を使ひました場合でも貼りました後は鋺をかけ、乾くのを待つて線の通りに強く篋目を附けて其の通りに折り曲げるのであります。(へ)、(と)はそのまゝで(ろ)で底の無い容器が出来ましたが次に(は)の幅に合せて(ほ)の表側の端へ、端を折り返す時に貼り残しました(い)の端を貼り付け、次に底となる(と)と(と)を右左ともに折り曲げ、其上へ(い)と(ほ)の端にある(へ)を貼り、更らに(は)の(へ)を重ねて貼り付けます。

右の様にして中味が出来上りましたら今度は蓋ですが蓋は只中味より總體に一分程大きい布を使ひますだけで拵へ方は同じであります。

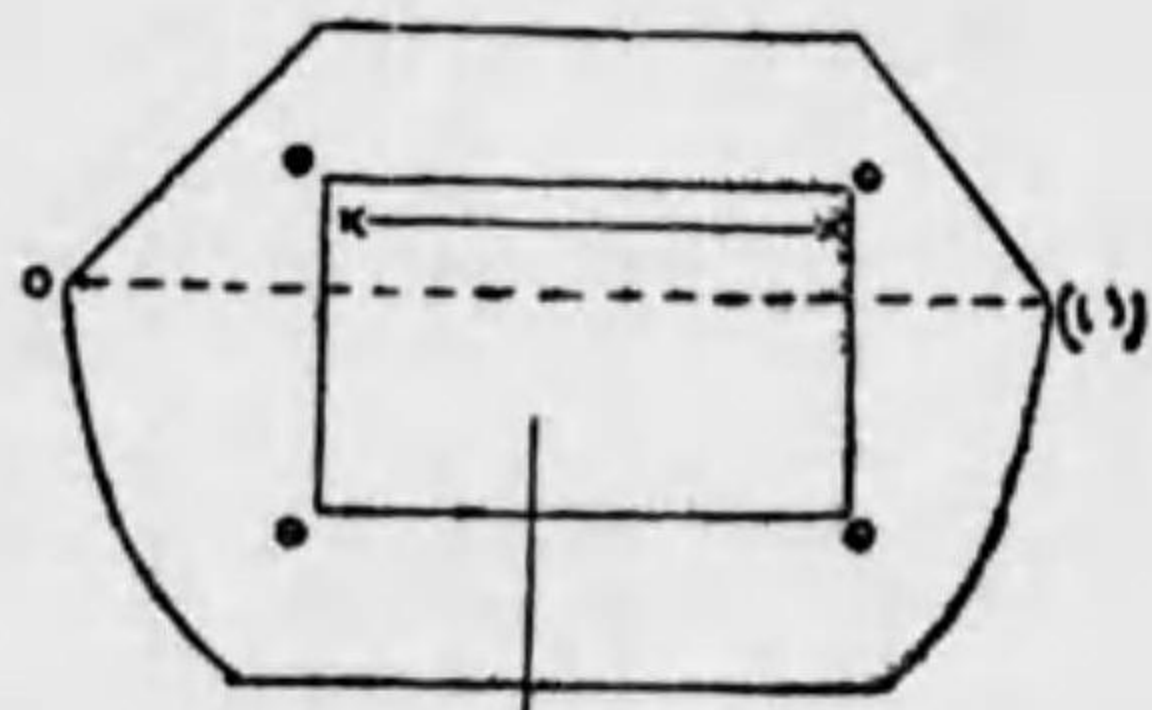
尙、(と)か又は(へ)を貼ります前に其下へ小口の大きさに合せた洋紙を底に入れ、其の上から(と)と(へ)を次第に貼り重ねますと丈夫でもあり又煙草を入れますにも工合がよいのであります。

○裏口の作り方

出来上りの圖



裁ち方の圖



これは名刺入
これを附けた所

裏口には種々の形がありますが其の仕立方には變りはありません。そしてこれを作りますについて入用の物は圖の様な形の表布が二枚、裏布は表布より心持小さいもの二枚、それから中に仕切りをいたしますとすれば圖の點線から下だけの布が一枚、外に口金一箇であります。

口金は申すまでもなく口の大きさに適當なのを求めます。

仕立方は、先裏布 表布共に(中仕切はそれに及びません)薄い半紙に裏打をして表布を表合せに重ね、圖の(い)から○印までの裾を縫ひ、別に裏布も又表合せに重ねて之れも同じに縫ひ、其の縫ひ目は叩き潰して何方も表に返し、表布の縫ひ合せた中へ裏布の縫ひ合せたものを重ねて入れ、上の縁を合せて(い)と○印の二箇で表布裏布を綴ぢ附けますと形が出来ます。

次に口金を箆めすには先づ口金の溝に糊を入れ、表布と裏布を合せた端を(い)から○印まで箆先(金の薄い箆が一番よいのです)で差し込んで糊氣の乾いた頃に恰好の紙捻を隙間へ差込めばよろしいのです。

但し、其の端を溝に入れますには、(い)から○印までと口金の蝶番とをよく見合せました上で上の一文字の所から差込んで左右に順々に入れるのであります。

尙、圖にある×から×までの線は、名刺入れを附けたものでありますが、是を附けますには、表布のまだ縫ひ合せない中に×から×までを適當だけに切り開き、切口をかゞつて兩端に綴ぢを入れ、○

印の四隅に餘る布、(表布と同じやうなものを使ひます)を裏からあて、四方を細かに縫ひ附けるのであります。

表布も裏布も縫ひ代は八厘程の深さにいたします。

○ときわ袋の作り方

入用の品物は左の通りであります。

(イ) 表布、丈七寸七分、幅五寸六分、

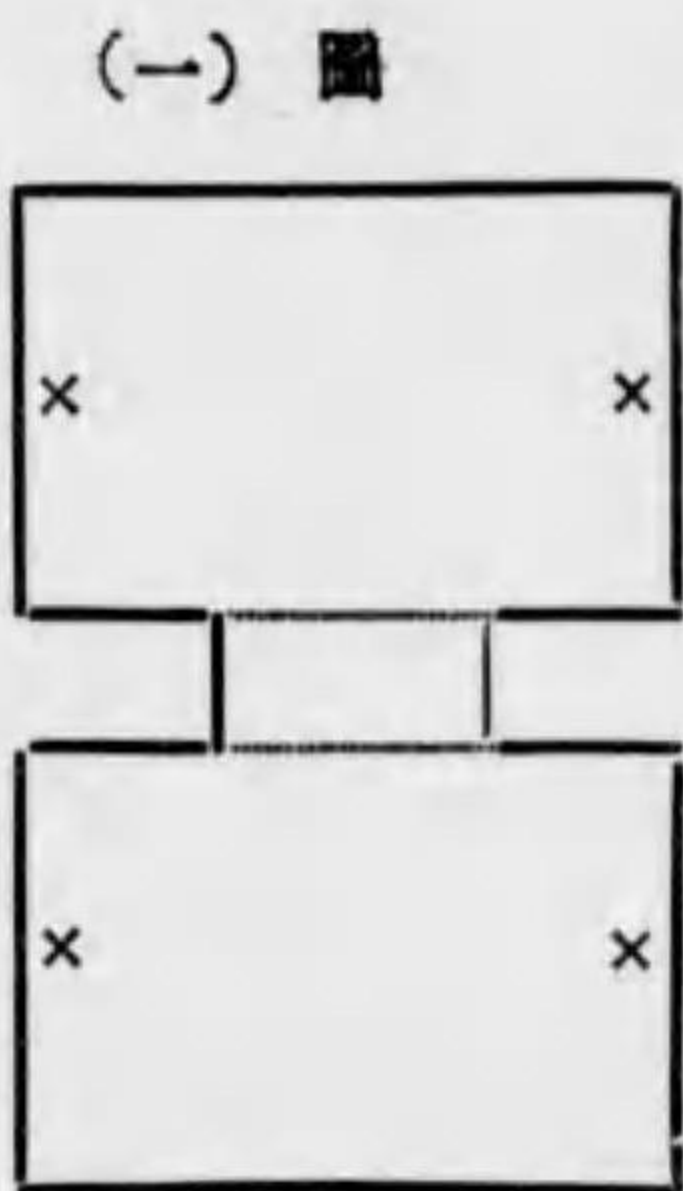
(ロ) 裏布、丈七寸五分、幅は表布と同じ、

(ハ) 細紐、布幅の四倍か四倍半、

(ニ) 提紐、同布幅の四倍ほど

(ホ) 裏紙、真となるもので薄い紙、

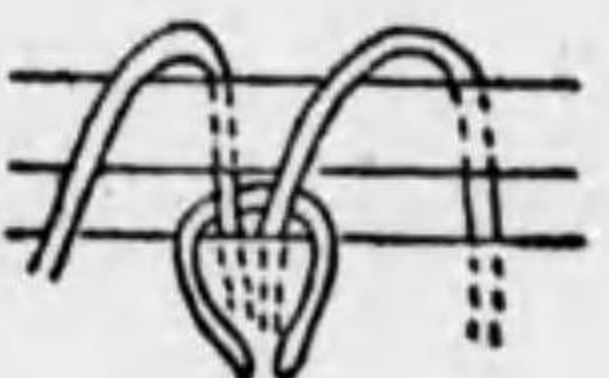
仕立方は表布、裏布ともに先裏紙を隅に貼りつけ、裏布は前に記した寸法に裁つだけでよろしいのですが表布は(一)圖の様に中央の兩端を切り落します。そして表布と裏布とを合せて口先を縫ひ、協明を(一)圖の×印の所まで縫つて其の下を四つ縫ひにするのですが、一方は裏一枚だけを縫ひ、縫ひ、そこから表へ引き返して紵け次に底の兩端を内の方から揃んで縫ひます。



(二) 圖のイ
外から見た所



(二) 圖のロ
内側ら見た所



次に口は表布に糊を附けて裏布の口へ貼るのであります。其の前に細紐の端を左の隅へ紵け込んでおきます。

斯うして糊氣を乾かしてから、八つか十二にわつて印をつけ、左の隅へ紵けこんである細紐を手繰つて印の所を(二)圖の様に口の周圍をかゞり、これに提紐を通すのであります。其の提紐は前に記しました寸法のものを実用から二つに切つて左右から通すのであります。

尚、細紐をかゞりますには丸い棒(丸い箸とか又は節のない竹)を持ち添へてこれをかゞり附けるやうにすれば輪が揃ひ易いのであります。そしてかゞり終りましたら其棒を抜いた後に提紐を通せば、樂に通ります。(ニ)圖の(イ)は外から見たかゞり方で(ロ)は内側から見たものであります。

○括り猿の作り方

布地と大小は随意として頭布は主に赤色の布を用ひますこれは別に裁ち方と云つてはないのです。又頭布も只四角な布があればよいのでして頭布は胴布の四分の一あれば充分であります。



仕立方は胴布を圖の點の線の通りに折り目を附け表を中にして(い)と(い)(う)と(う)、(は)と(は)、(に)と(に)を合せていづれも角から其の所まで縫つて表へ返し、中に綿を入れ、別に顔の布を程よい大きさに丸めた綿を包んで布と同じ糸で括り其の端を胴の縫ひ残しに差し込んで胴を締め、顔を一方の外に出して四つ足を纏め其の端を好みの糸で綴ぢるのであります。

出来上り圖



○扇形の両面涎掛

布の生地は随意なものをを用ひ、其寸法も好みによつて多少ちがひますが普通は左の通りであります。

- (イ) 用布、横一尺三寸位、縦七寸位のもの一枚、
- (ロ) 紐布、長さ一尺七寸位、幅三寸位のもの一本、



仕立方は、右の中で用布は圖の通り横に二つ折として表を合せ、點の線の通り両端から斜に縫ひ、表を返して之れも圖に記してある様に襞をとります。襞の数は三つか五つか又は七つと云ふ様に奇數を取ります。そして折目の所に假縫ひをし、次に紐布を長のまま、二つ折にして折目をつけて元の通りに披げ、その真中を圖の印の所(つまり布の真中)へ表を合せて縁を揃へ、そこと一方の布の端とに待ち針を刺して他の一方の端から一文字に縫ひ、待針を抜いて紐の表を返し、折目通りに片

面へ折つて布に拵けつけ、兩端に残つた紐の端も拵け込んで、出来上るのですが、布の色合によつて其の上へ適當な飾り糸で縫ひつけるのであります。此の縫掛けは仕立力が容易で又、兩面とも表となるのであります。

○玩具の犬の作り方

大きさは隨意ですが用布はネルか羅紗、又はビロードの様に毛のあるものがよろしいです。そして色合もなるべく犬の毛色に似よつたものを選びます。

次に入用な品物は左の通りであります。

(イ) 胴布、裏は要りませんが表布だけ(一)圖の様な形のもの(左右二枚)。

(ロ) 腹布、これも裏は要りませんが(三)圖の様に裁つたものが左右二枚ですが、この裁ち方は一

圖の點線以下と同じですから胴布と一緒に裁てばよいのです。

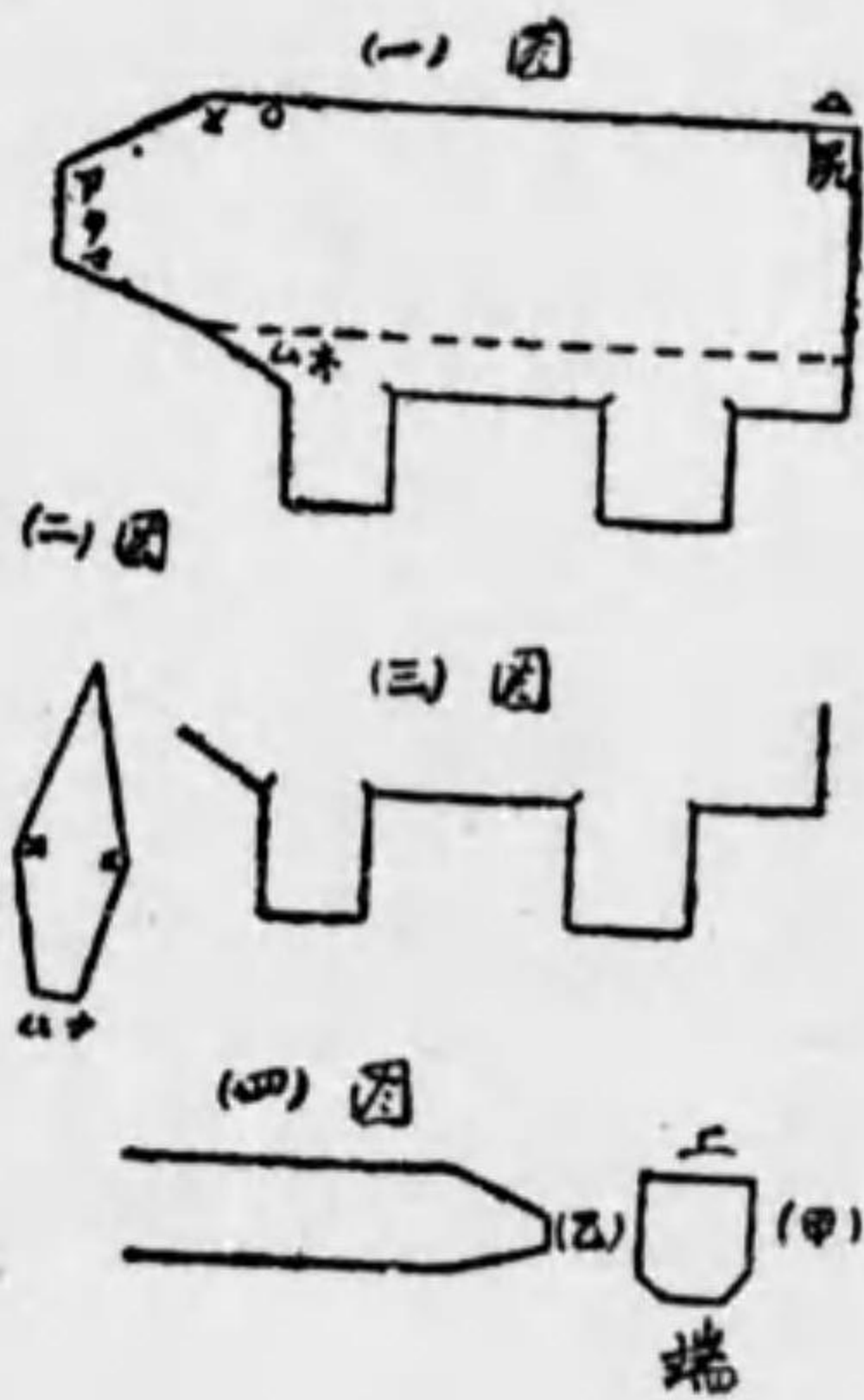
(ハ) 顔布、(二)圖の様に裁つたもの一枚。

(ニ) 耳布、(四)圖の甲の様に裁つものが四枚、但し、其中二枚は耳の裏になるのですから之は赤

色の布を用ひた方がよろしいのです。

(ホ) 尾布、は四圖の(乙)の通りでありまして長い短い好みによつて定めます。

裁ち方の圖



出来上り圖



右の外に中に入れます綿(又モミガラ)や目などが要ります。目は本拵へならば硝子を入れますが手軽に墨で書きます。又足許を丈夫にしやうと思ふ時は針金を使ひますが、芯となる綿が充分であれば差支へありません。仕立方は先づ胴布を表合に二枚合せ、尻の上の△印の所から背筋と○印の所まで縫ひ、頭布の○印の所を持ち込め、胴布頭を左右につけて頭布のを割り入れて鼻先まで縫ひ次に腹布をこれも裏表合せに二枚合せて腹の兩端を縫ひ合せて四足の廻りから鼻の下まで縫ひ上げ尻の方から表へ返し、返し口から綿かモミガラをつめます、この詰め方は頭と足先に充分入れておきますと出来上りましてから足許が確であります。

次に尾を堅に袋縫ひとし、これにも綿をつめて口を綴ち、尻の縫ひ残しの所へ縫ひつけて胴布と腹布を拵合せれば全體の形が出来上るのですから、耳の表布と裏布と表面を合せ、上の方の一端から下へ、縫ひ下げ裾を廻して他の一端で針をとめますが下を縫ひ廻す時に耳の恰好を具合よくとのえます。そして中に薄く綿を入れて表へ返し、之れを犬の頭の程よい所へ綴ちつけるのです。この綴ち方は耳の端の方の上に、裏布を外側にして逆に縫ひ附けるのであります。そして端を下し目と口を書きまして出来上るのです。

出来上りがさびしい時は、恰好な首環を拵へて巻きつけるのもよろしう御座います。又、犬の色が白い時は薄墨で斑をかき入れるのもよろしう御座います。

○ちとせ袋の作り方

これを作りますのに入用な品物は左の通りであります。

- (イ) 表布、生地は襦子のやうなものの華やかなものが宜しう御座います。寸法は一圖の通りです
- (ロ) 兩脇、これも表布ですが兩脇につくものですから中の表布と色の異つたものを使ふ方が引き立ちます。そして寸法は二圖の通りです。
- (ハ) 裏布、生地は隨意でよろしいのです。寸法は三圖の通りです。

(ニ) 厚紙これは裏貼にするものでありますが、ボール紙がよろしいのです。そして寸法は表布と一緒に(一)圖に記してあります。

(ホ) 綿、これは前の厚紙の添へに使ふのですから少しばかりあればよろしいのです。

(ヘ) 畫洋紙、これは中の芯にするのであります。

(ト) 紐、長さ二尺、幅七分五厘ほどの布で拵へます。

(チ) 口金、これは棒金物の小形のものでも、又環を使つてもよろしう御座います。



- (イ) から(ろ)までの丈と、(二)圖の(い)(ろ)の丈とは同じ。
- (二) 圖の(は)から(に)までの丈五寸七分、(二)圖の(は)から(へ)までの丈は四寸八分、(二)圖の×と(い)(ろ)の屈みは三分二厘、(は)と(に)の屈みも三分二厘、×と○までの幅は一寸一分二厘か

ら切り裂まで八分八厘、(は)(に)の點線と(は)(へ)との開きは九分六厘であります。
脇布、(左右二枚入用)

(二) 圖



尙、この脇布の取り方は二枚の布を表を合せて二枚重ね其の上に型紙をおいて裁つのであります。そういたしますと反對に向き合つた左右の脇布が出来ます。そして△の印の所で心持丸くする様にしたします。

表布の用意が出来ましたならば、表布は薄い半紙、脇布は畫洋紙で裏貼をします。この裏貼は布を裁つ前に貼つておいてもよろしいのです。そして糊氣の乾くのを待つて何方も點線の通りに篋目を附け、別に用意をしてある二枚の厚紙(一圖に記しましたボールの)の片面へ少し糊をつけて其の上に綿を薄く延し、厚紙の外へ綿の出ない様に注意をして(一)圖の通りに表布の中程をあけて上下

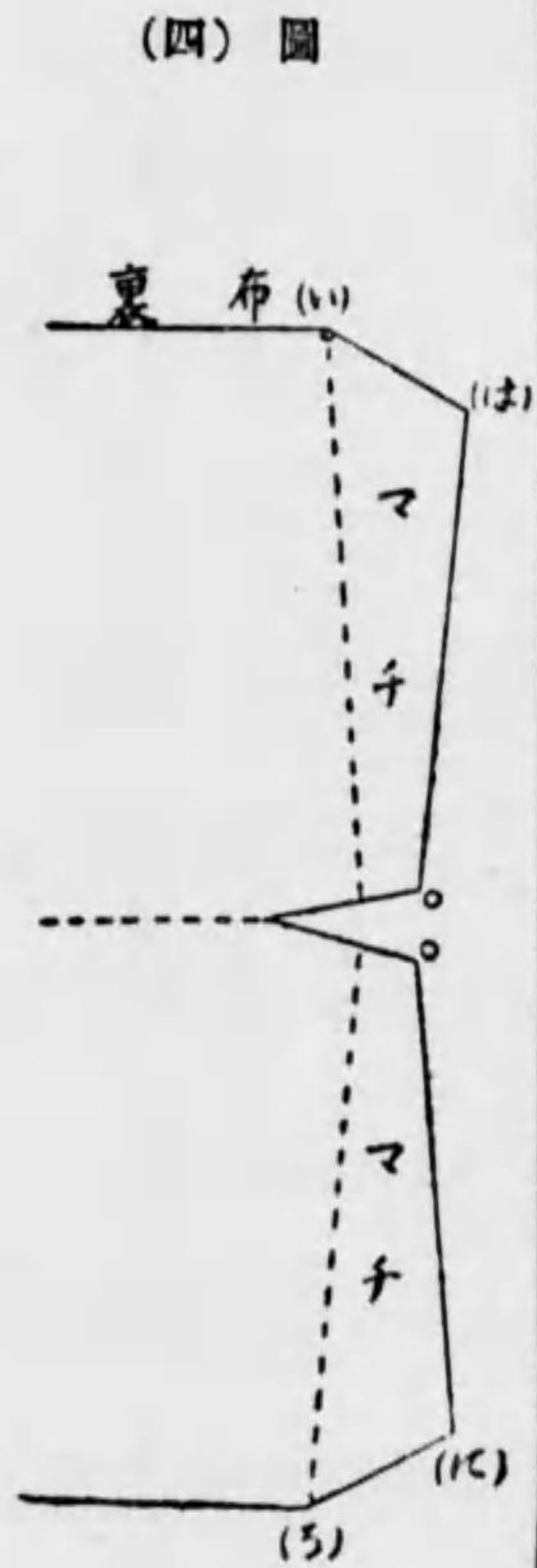
へおき、布の兩側へ糊をつけて厚紙を包む様に左右から貼りつけます。そして(一)圖の(い)×(ろ)所と脇布の(い)×(ろ)の合ふ様になるのですがこれは後での仕事ですから次に裏の用意であります

(三) 圖



裏布は半紙を裏貼りにするのは勿論ですが、其の他に畫洋紙を拵へます。其の洋紙の寸法は三圖の通りです。

裏布は幅が廣くなりますから四圖で其の豎の半分だけ記しました。若しこれによつて型紙を拵へますには圖の半分を土臺として一方の半分の拵へればよろしいのです。



この寸法は左右の點線から天地が上下一分づゝ長い外は(三)圖の中心の紙と同じであります。點線から外のマチだけが多くなつておりますのと中央の兩端にある切り込みが廣くなつて居ります。そして襟の寸法は(い)と(は)と(ろ)と(に)の開きが各々一寸、(は)から(に)までが五寸三分五厘で〇から〇までの切り込みが四分であります。〇印の所は少し丸く裁ちます。

右に述べましただけの拵へが出来ましたならば、先づ四圖の裏布の點線に罫目をつけ、中の罫目から二つに折つて兩方の襟の端を縫ひ代淺くして縫ひ、それを罫目通りに中へ折り込み、上の口縁の前後ともに糊を附け中の芯紙も中央の點線から二つに折り、裏布の外側から重ねて貼り、上に出てゐる裏布の餘つたのは芯紙の外へ廻して貼ります。次に脇布の表面を外側にしてそのマチの端に糊を附け、そしてこれを裏布の襟の外から貼りつけますのは左右とも同じであります。そして外側に

出た布の上の端は裏布の口と面を合ふやうに折つて裏布の口に貼り合せ、次に最初厚紙を貼つて拵へをいたしました裏布の裏の兩方の端近くに糊をつけて双方の脇布の端の出ない様に真中に貼り、口の所はこれも裏布の口縁と面を合せて端を折つて裏布の縁を貼り合せ、そして口金を附け、それに紐を引つかければ出来上りであります。

尚、表布を貼ります時に糊がはみ出さない様に注意をしなければいけません。はみ出しますと色を損じて見苦しいのであります。

○總て衣類の洗濯

洗濯は衛生と經濟と、外觀を保つためにつとめて行はなければならぬ事でありませぬ。そして又洗濯をいたしました後に、色揚げをするものと仕上をするものとあります。

洗濯には二種ありまして一つは一般家庭で行なはれてゐる方法で、材料を水の中に入れて潤はしめて洗ふのであります。最一つは材料を蓋のしつかり出来る器物の中に入れてペンチンを入れて、そして搔廻し、汚れ物を溶して、これを絞りましたから乾燥する方法であります。

洗濯には先づ水が一番必要なのであります。水には石灰、鐵分、マグネシウムなどの鹽分を含んでゐるものとゐないものとありますが、洗濯には其等の鹽分を含まない水を用ひなくてはなりません。

石鹼は洗濯に最も必要な物であります、よく品物を選んで使ひませんと、洗濯物の質を痛めること
 がありますから注意しなければいけません。
 汚れを洗ひ去りますには、たらひでするのと煮沸するものと蒸すものとあります。
 タラヒでいたしますものには石鹼を手に挟んで打つもの、これは絹物の様なうすいものです。手で強
 く揉むもの、これは綿類や麻などであります。洗濯板で擦るもの、これは矢張り綿類や麻など、ブラ
 シで石鹼をつけてこするもの、これは絹物、毛織物、ビロードの様なものであります。又はササラで
 擦るもの、これは袴垢の附きました所や、丈夫な地のものなどであります。
 右の様な方法で汚れを取りましたら、清水で充分に濯ぐのであります。
 煮沸す法は、釜に水と石鹼ソーダを入れて材料を其の中に入れ、煮沸しながら掻き廻す法でありま
 す。色が落ち易いものや毛織物の縮み易いものなどはこの方法は出来ません。
 蒸す法は一旦タラヒで洗ひ絞りましたものを蒸桶に入れて水が一升なら洗濯ソーダを三匁位溶したも
 のを振りかけて蓋をして蒸し、蒸気の透しましたから火を引いて一晩おき、翌朝取出して汚れた所を
 再びササラで洗つて後、清水で濯いで乾燥するのであります。
 白地の物は洗濯いたしましても充分に白くならない時がありますが、そふ云ふものは、布が百匁につ

いて五匁位の漂白粉を用ひて白くするのであります。
 又水の絞り方は、よく注意をしませんと地質をいためる恐があります。
 乾燥は天日が最も有効で又簡単であります。
 洗濯はよく晴天を見計らつて行なふのであります。そして湿つばい日に逢ひましたならば火鉢をおき
 又風通しの良い所に掛けておくであります。

○汚點抜き法

汚點抜きは汚れの地質によつて其の方々がちがひます。
 (イ) 塵や埃の汚れにはブラシで取れませんが時は卵の黄味にアルコールを混ぜてこれを塗り、乾かし
 ましてからブラシで擦り取るのであります。
 (ロ) 脂肪の汚れは、汚れの部分を湯氣に當て、其れから抜板の上で、ペンチンで抜き、白い布をあ
 て、餘り熱くない鏝を當てるのであります。
 (ハ) 汗の汚點は薄いアンモニア水を海綿に浸して三二度塗り附けましてから蒸氣で暖め、揮發油を
 塗つて吸取紙を當てるのであります。
 (ニ) インキの汚點は、白地のものならば水石鹼で洗つて次にうすい漂白粉の液で洗ひます。

- 又染色のあるものならば、極く薄い酒石鹼か酢とアルコールの混ぜた液で洗ひます。
- (ホ) 墨汁の汚點は、飯粒を塗り附けて二三時間おきましてから温湯で洗ひます。
 - (ヘ) 雨滴の汚點は、糊の濃ひものを擦り込み、白布を挟んで糊を絞りそれを幾度も繰り返します。
 - (ト) 微の汚點は、微を見附けました時は直ぐに乾燥してブラシで強く拂ひ、若し取れませんが清
水に少しの醋酸を加へて洗ひます。其時、染色が變る様でしたらアンモニヤ液で加減をいたします
又は汚點に少しの食鹽を擦り附けて温湯を掛けるのであります。
 - (チ) 血の汚點は雨滴の汚點の様にして抜きます。
 - (リ) 尿水の汚點は、アルコールか又は硝酸の極くうすい液で洗ひます。

家庭裁縫獨學……終

昭和二年三月廿五日印
昭和二年三月廿八日發

印刷行

家庭裁縫獨學與附
定價金貳圓

家庭裁縫獨學研究會編纂

發行者 平賀久吉

印刷者 平賀清之助

印刷所 平賀印刷所

發賣所

東京神田區表猿樂町二
振替東京六〇五九番

知進社



トI27-19



終